

[御嵩町]

地区	中濃	寺院番号	41006b	県遺跡番号	21521-7380	分布図番号	M8
ふりがな	ぐけいじきゅうけいだい (ぐけいじもとやしきあと)			所在地	可児郡御嵩町中禅堂平		
寺院名 (史跡・遺跡名)	愚溪寺旧境内 (愚溪寺元屋敷跡)						
時代区分	中世（鎌倉）～			宗派	臨済宗		
立地	山腹			現状(植生)	山林（アカマツ）		
東西規模	450m	南北規模	250m	標高(比高差)	182m (30m)	平坦面分類	A+D
沿革	臨済宗妙心寺派の日峰の法嗣である義天玄承が、愚溪庵を開創した。義天は応永35（1428）年に日峰から印可状を与えられており、愚溪寺はこの頃成立したと考えられている。永享11（1439）年3月、大垣内衛門淨珍・藤木道藤・今井左近宗源の3名が寺の背後の山を寄進した。文安5（1448）年には、愚溪庵西側の宝塚（宝塚古墳）、翌年には放岡と高尾峰の寄進を受け、同日付で守護代斎藤利永が寄進状を書き、4月3日に細川勝元が施工状を出した。永正3（1506）年、土岐政房が寺内の乱暴狼藉を戒める十ヶ条の禁制状を与えた。さらに政房は寺号を与え、愚溪寺とした。当寺所蔵の天保年間（1830～44）に描かれた愚溪寺旧寺域図にもあるように、山内には徳隣軒・雲松軒・梅仙庵・宝塚庵等の塔頭をもつ広大な規模の本寺となり、室町時代禅寺の最適の地であったが、寒気が厳しく不便な地であったため、天保11（1840）年から嘉永2（1849）年にかけて現在地に移転し、再興した。						
遺構	石積み、石庭、石橋、溝、土壘、基壇、礎石、集石						
遺物	大窯小皿、近世陶磁器						
有形文化財等	斎藤年永寄進山の絵図（文安6（1449）年頃）、旧寺域図（江戸時代）						
参考文献	御嵩町史編さん室 1992『御嵩町史』通史編上、御嵩町、御嵩町史編さん室 1990『御嵩町史』通史編下、御嵩町、澤田天瑞 1995「愚溪寺庭園（竜安寺庭園の原点）」『愚溪寺庭園』、中部庭園同好会						

調査所見 御嵩町北部に連なる北山山地の山腹、現境内から北西約1kmの地点に立地する。方丈跡がある平坦面①を中心に、北西から南東を尾根、北東を山に囲まれ、南には天池（鏡容池と称した）がひかえる。①は高さ4～5mの石積みを伴い、平坦面の北部が一段高く、北西部に方丈、南東部に庫裏、①の北東側に土蔵があったとされる。①への入口は、高石垣の中央に石段跡があり、石垣の東側にスロープ状の入口と長屋門跡がある。方丈跡の正面には石庭があり、「臥竜石」と称される石材を旧寺域図とほぼ同じ位置に確認できる。①の北西部には、沢からの流水を高石垣の下方へ流す溝や土壘があるほか、石積みを伴う方形の高まり（②祠堂跡）がある。②の東側で沢幅が広くなるが、旧寺域図にはこの場所に「泉水」と表記されている。①の北東部は岩盤を削った高い切岸があり、切岸の上には帯状の広い平坦面が連続する。この平坦面へ上がる通路上で大窯の小皿片を確認した。北西側の尾根上には広く安定した平坦面が広がり、平坦面間を往来するための出入り口がある。旧寺域図によると、この尾根上には雲松軒・梅仙庵があり、平坦面や出入り口の形状から、雲松軒跡の位置を特定した。一方、南東側の尾根上にみられる平坦面は、横に伸びる長方形の区画を指向し、土壘や石積みで区画している。③には2間×6間の礎石を伴う基壇があり、徳隣庵跡の可能性がある。この尾根上では、近世陶磁器片や小角礫の集石が散見されるが用途は不明である。



図 50 愚溪寺旧境内（愚溪寺元屋敷跡）地形観察図（1）



図 51 愚溪寺旧境内（愚溪寺元屋敷跡）地形観察図（2）

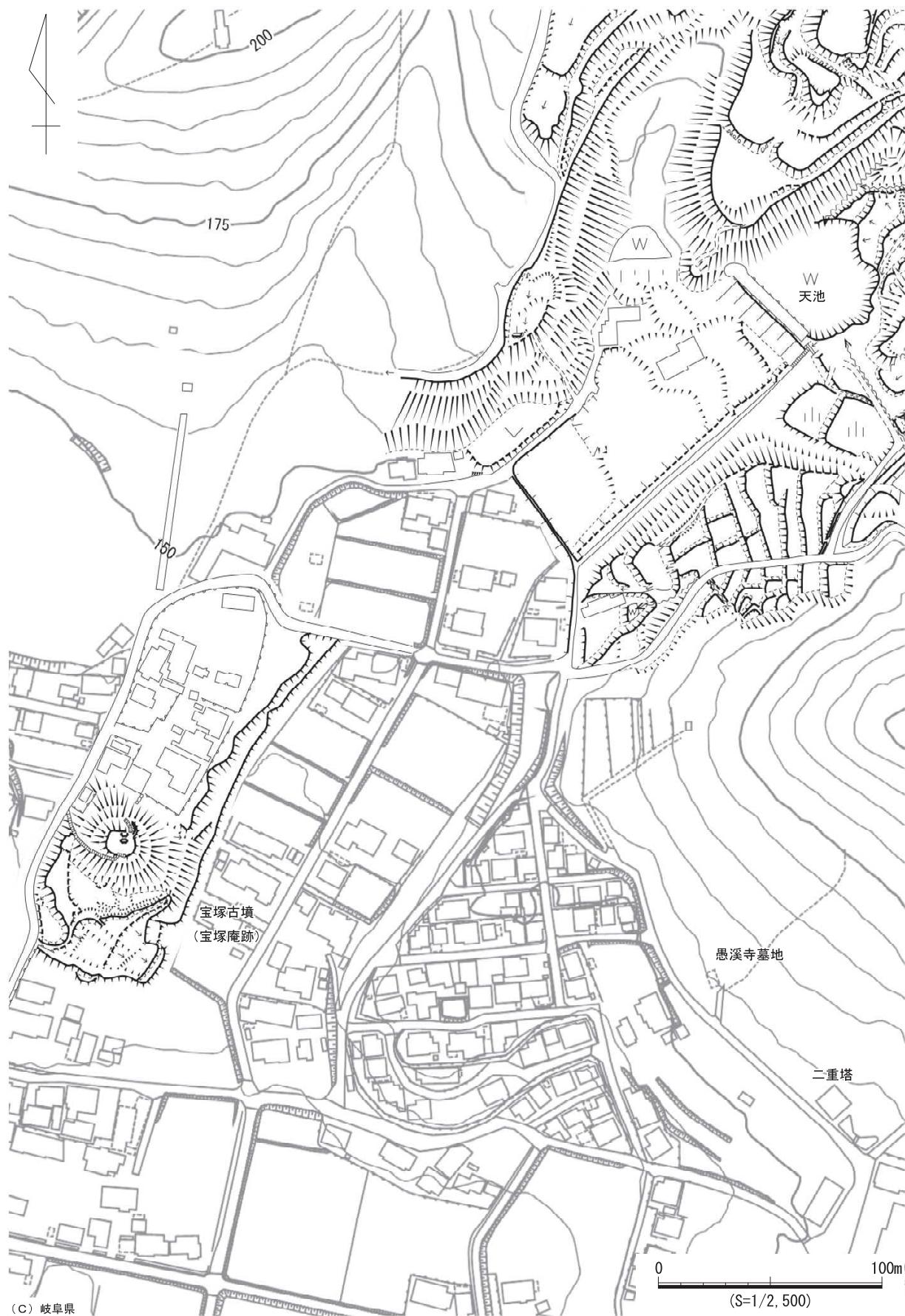


図 52 愚溪寺旧境内（愚溪寺元屋敷跡） 地形観察図（3）

地区	中濃	寺院番号	41016	県遺跡番号	—	分布図番号	M8
ふりがな	いいたかさんごくらくじ	所在地	可児郡御嵩町御嵩				
寺院名 (史跡・遺跡名)	飯高山極楽寺						
時代区分	古代（平安）～	宗派	天台宗				
立地	山腹	現状(植生)	境内地・山林（スギ・ヒノキ）				
東西規模	115m	南北規模	120m	標高(比高差)	197m (47m)	平坦面分類	B+D
沿革	本尊十一面観音は平安時代の延喜年間（901～923）に開眼供養したものと伝わり、また成立は承平2（932）年ともいわれ、一時は41001願興寺の末寺として坊を構えて栄えたという。当寺の成立に関して、以下のように伝えられている。最澄の法孫である淨藏が、師の足跡をたどり東国教化の途中、師によって開かれた御嵩の願興寺に身を寄せていたところ、「寺の東方の地に桂の靈木があり、常に天人がこれに寄る。」と靈夢の告げがあった。早速長岡の地を訪ねると、靈夢のとおり桂の古木を見出すことができ、仏徳を感じた淨藏は、桂の古木を切り出し、一刀三礼して觀音像を彫刻した。これが本尊の十一面觀世音菩薩と伝えられている。この尊像を安置するための堂宇は、桂の古木があった場所に里人によって建立された。						
遺構	—						
遺物	—						
有形文化財等	—						
参考文献	御嵩町史編さん室 1992『御嵩町史』通史編上、御嵩町						
備考	長岡觀音堂ともよばれ、堂には「大悲閣」の額が掛かる。						

調査所見 極楽寺は、御嵩町北部に連なる北山山地の山腹に立地する。周囲を尾根に囲まれた谷地形の最奥に2段の高い石積みを設け、南南西向きの本堂が建つ（①）。石積みの上段は小ぶりな石材を密に積むが、下段は大ぶりな石材を積んでいることから、上・下段で築造に時期差がある可能性がある。境内の東西両側の尾根筋に沿って沢が流れ、東側の沢は本堂正面の池の前を通り西側の沢へ合流するため、本堂は沢に囲まれた範囲の中心に位置する。東側の沢沿いには、輪郭が明瞭な小規模の平坦面が連なる（②）が、各平坦面に木が直線的に並ぶことから、植林等の後世の改変を受けている可能性がある。本堂前の③は、境内の中で最も広い平坦面である。北東から南西に向かってやや傾斜するが、近代の瓦片が散乱しており、建物が建っていた可能性がある。その南側には輪郭がやや不明瞭な平坦面群（④）がみられる。各平坦面間を行き来する出入口は確認できず、沢に沿って擁壁がみられ、②同様後世の改変を受けている可能性がある。



図 53 飯高山極楽寺 地形観察図

中濃圏域参考文献

- 青山貞一 1976 『郷土史池尻村』
- 安藤剛 2007 『富加の古事記』
- 太田成和編 1987 『郡上八幡町史』 下巻、八幡町役場
- 石川力山 1980 『美濃国祥雲山龍泰寺史』
- 板取村教育委員会 1982 『板取村史』
- 上之保村教育委員会 1992 『かみのほの石造物』
- 上之保村教育委員会 2000 『上之保村史誌』
- 可児町郷土史刊行会 1960 『可児町郷土史』
- 可児町 1980 『可児町史』 通史編
- 可児市成人大学歴史講座 1984 『可児市の伝承地名』
- 可児市教育委員会市史編纂室 2006 『薬王寺一仏像 建築 大般若経一』 可児市史調査報告書第1集、可児市教育委員会
- 兼山村史編纂委員会 1972 『兼山村史』
- 苅田乙三郎・佐伯吉六・渡邊紋治郎・堀川芳松編 1914 『東白川村誌』、苅田乙三郎
- 川辺町史編纂室 1996 『川辺町史』 通史編、川辺町教育委員会
- 観音講中 2019 『白雲山観音堂』
- 岐阜県教育委員会 2003 『岐阜県中世城館跡総合調査報告書第2集』(岐阜地区・美濃地区)
- 岐阜県教育委員会 2007 『改訂版岐阜県遺跡地図』
- 岐阜縣加茂郡役所 1921 『美濃國加茂郡誌』
- 岐阜県加茂郡和知尋常高等小学校 1936 『和知村誌』
- 岐阜県仏教会 2001 『寺院名鑑』
- 岐阜県文化財保護センター 2005 『重竹遺跡・上西田遺跡・洞雲戸遺跡』 岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第91号
- 久々利村誌編纂会 1935 『久々利村誌』
- 財団法人岐阜県文化財保護センター 2003 『岩井戸岩陰遺跡』 岐阜県文化財保護センター調査報告書第81集
- 財団法人岐阜県文化財保護センター 2006 『清願寺跡』 岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第100集
- 坂祝町教育委員会町史編纂事務局 2005 『坂祝町史』 通史編、坂祝町教育委員会
- 澤田天瑞 1995 「愚溪寺庭園（竜安寺庭園の原点）」『愚溪寺庭園』、中部庭園同好会七宗町教育委員会
- 七宗町教育委員会 1993 『七宗町史』 通史編
- 莊川村史編集室 1975 『莊川村史』 上巻
- 昭和中学校区地域づくり委員会大矢田部会 2014 『大矢田よもやま見聞録』 第2集
- 白川町誌編纂委員会 1968 『白川町誌』、白川町
- 白鳥町教育委員会 1976 『白鳥町史』 通史編上巻

- 白鳥町教育委員会 1977 『白鳥町史』通史編下巻
- 白鳥町教育委員会 1984 『郷土誌 わが町白鳥』
- 新修武芸川町史編纂委員会編 2005 『新修武芸川町史』
- 関市教育委員会 1986 『国指定史跡 弥勒寺跡』関市文化財調査報告第 11 号
- 関市教育委員会 1987 『坊地廃寺跡・坊地遺跡－範囲確認発掘調査報告書一』関市文化財調査報告第 12 号
- 関市教育委員会 1989 『国指定史跡 弥勒寺跡－範囲確認発掘調査報告書 I・II-』関市文化財調査報告 13・14 号
- 関市教育委員会 1990 『国指定史跡 弥勒寺跡－範囲確認発掘調査報告書III-』関市文化財調査報告 18 号
- 関市教育委員会 1994 『新修関市史』考古・文化財編-
- 関市教育委員会 1995 『新修関市史』史料編-古代・中世・近世-
- 関市教育委員会 1996 『新修関市史』通史編-自然・原始・古代・中世-
- 関市教育委員会 1996 『新修関市史』民俗編
- 関市教育委員会 1999 『新修関市史』通史編-近世・近代・現代-
- 関市教育委員会・共同組合連合会岐阜県中小企業福祉センター 1976 『陽徳寺裏山古墳群』関市文化財調査報告第 3 号
- 関市教育委員会 2009 『国指定遺跡 弥勒寺官衙遺跡群 弥勒寺跡 講堂跡発掘調査 平成 9・10 年度』
関市文化財調査報告 26 号
- 関市教育委員会 2011 『関市埋蔵文化財発掘調査報告書平成 19~20 年度』関市文化財調査報告第 29 号
- 関市教育委員会 2015 『関市埋蔵文化財発掘調査報告書-平成 21 年度-』関市文化財調査報告第 33 号
- 曹洞宗岐阜県宗務所 2002 『曹洞宗岐阜県寺院名鑑』
- 高鷲村役場 1960 『高鷲村史』
- 高鷲村史編纂委員会 1986 『高鷲村史』続編、岐阜県高鷲村
- 中濃八十八ヶ所中興会 2015 『中濃八十八ヶ所靈場奉納経』
- 富加町教育委員会 1991 『とみかの石造物』
- 富加町史編集委員会 1975 『富加町史』上巻史料編、岐阜県加茂郡富加町
- 富加町史編集委員会 1980 『富加町史』下巻通史編、岐阜県加茂郡富加町
- 富加町文化財審議会 2010 『とみかの文化財』、富加町教育委員会
- 名古屋大学文学部考古学教室 1974 『大和村の遺跡』(上段古墓群発掘調査報告書)
- 梅龍寺 1995 『第廿九世隆廣紹天和尚晋山記念 梅龍寺史』
- 白華山清水寺総代会 1992 『白華山清水寺』、白華山清水寺
- 蜂屋郷土史研究会 1978 『蜂屋の歴史』
- 東白川村誌編纂委員会 1982 『新修東白川村誌』通史編、岐阜県加茂郡東白川村
- 東白川村教育委員会 1983 『東白川村の石造物』第一集
- 東白川村教育委員会 1990 『東白川村の石造物』第二集
- 東白川村教育委員会 1990 『東白川村の廃仏毀釈』ふるさとシリーズ④
- 洞戸村史編集委員会編集 1988 『洞戸村史』上巻

- 洞戸村史編集委員会編集1997『洞戸村史』下巻
洞戸村教育委員会 1992『ほらど村の石造物』
御嵩町史編さん室 1985『御嵩町史』民俗編、御嵩町
御嵩町史編さん室 1990『御嵩町史』通史編下、御嵩町
御嵩町史編さん室 1992『御嵩町史』通史編上、御嵩町
美並村教育委員会 1981『美並村史』通史編上巻
美並村教育委員会 1984『美並村史』通史編下巻
美濃加茂市 1978『美濃加茂市史』民俗編
美濃加茂市 1980『美濃加茂市史』通史編
美濃加茂市教育委員会 1988『美濃加茂の石仏』
美濃加茂市・坂祝町・富加町 2017『夕雲の城』
美濃市 1979『美濃市史』通史編上巻
美濃市 1980『美濃市史』通史編下巻
美濃市教育委員会 1999『美濃市遺跡分布地図』美濃市文化財調査報告第12号
美濃市教育委員会 2012『美濃観音寺山古墳・長福寺遺跡・西観音寺跡・東観音寺跡』美濃市文化財調査報告第34号
美濃市教育委員会 2014『観音堂遺跡他』美濃市文化財調査報告第36号
美濃西国三十三番霊場事務所 1979『東海百観音霊場めぐり—美濃三十三観音』
美濃市役所 2019『広報みの』No.947
武儀町教育委員会 1992『武儀町史』
武芸川町郷土史研究会 1986『武芸川の石造物』
武芸川町町史同好会 1995『宇多天皇と武芸川町』
明宝村教育委員会編 1993『明宝村史』下巻
八百津町史編纂委員会 1976『八百津町史』通史編、八百津町教育委員会
八百津町教育委員会 1977『八百津町の文化財』
大和町 1988『大和町史』通史編下巻
大和村編 1984『大和村史』通史編上巻、大和村
吉岡勲監修 1987『岐阜県百寺』、株式会社郷土出版社

第 4 節 寺 院 分 布 図

136° 37' 30.00"
36° 5' 0.00"

134

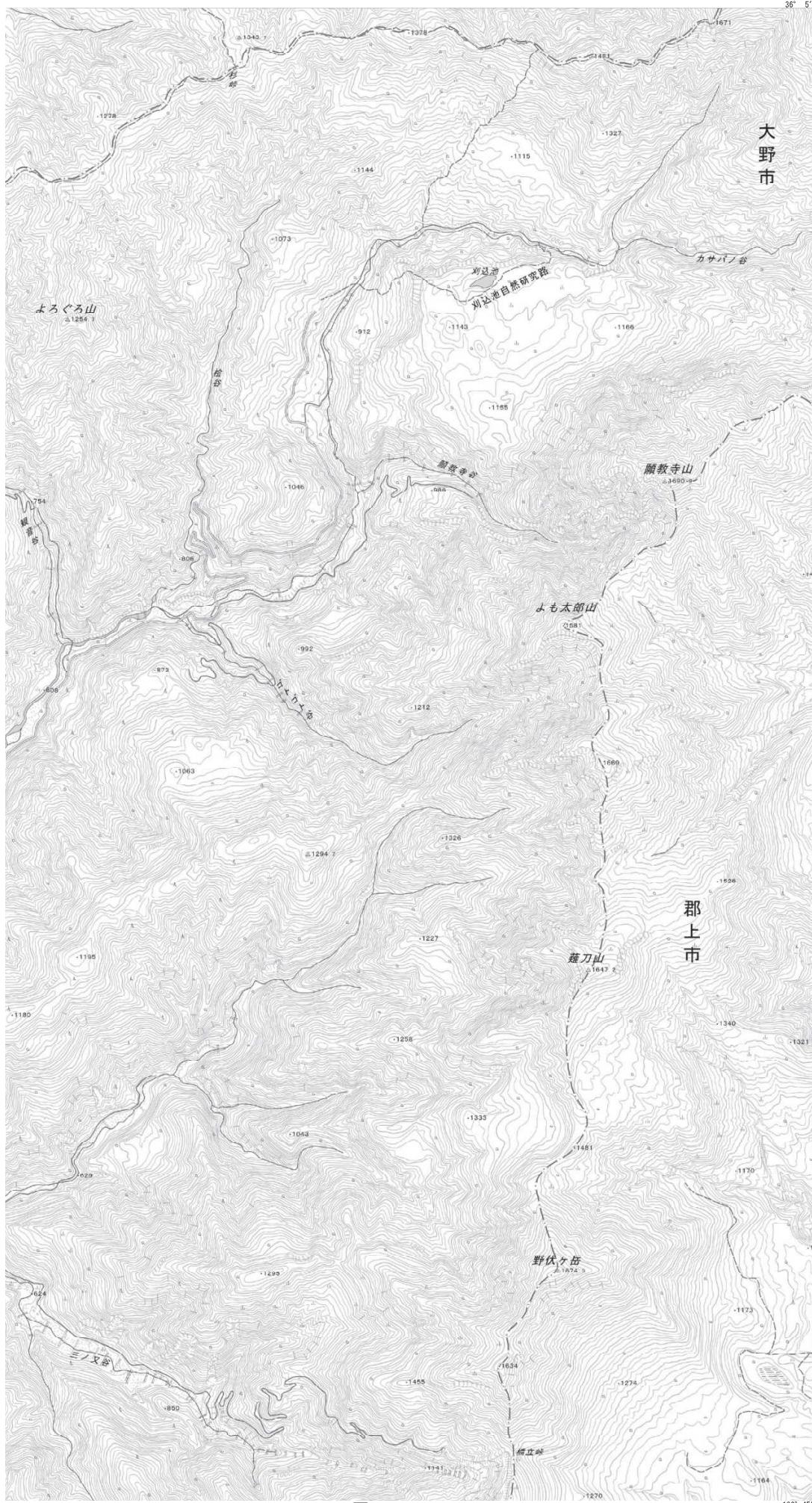


136° 37' 30.00"
36° 0' 0.00"

G4

136° 45' 0.00"
36° 5' 0.00"

F4 願教寺山 135

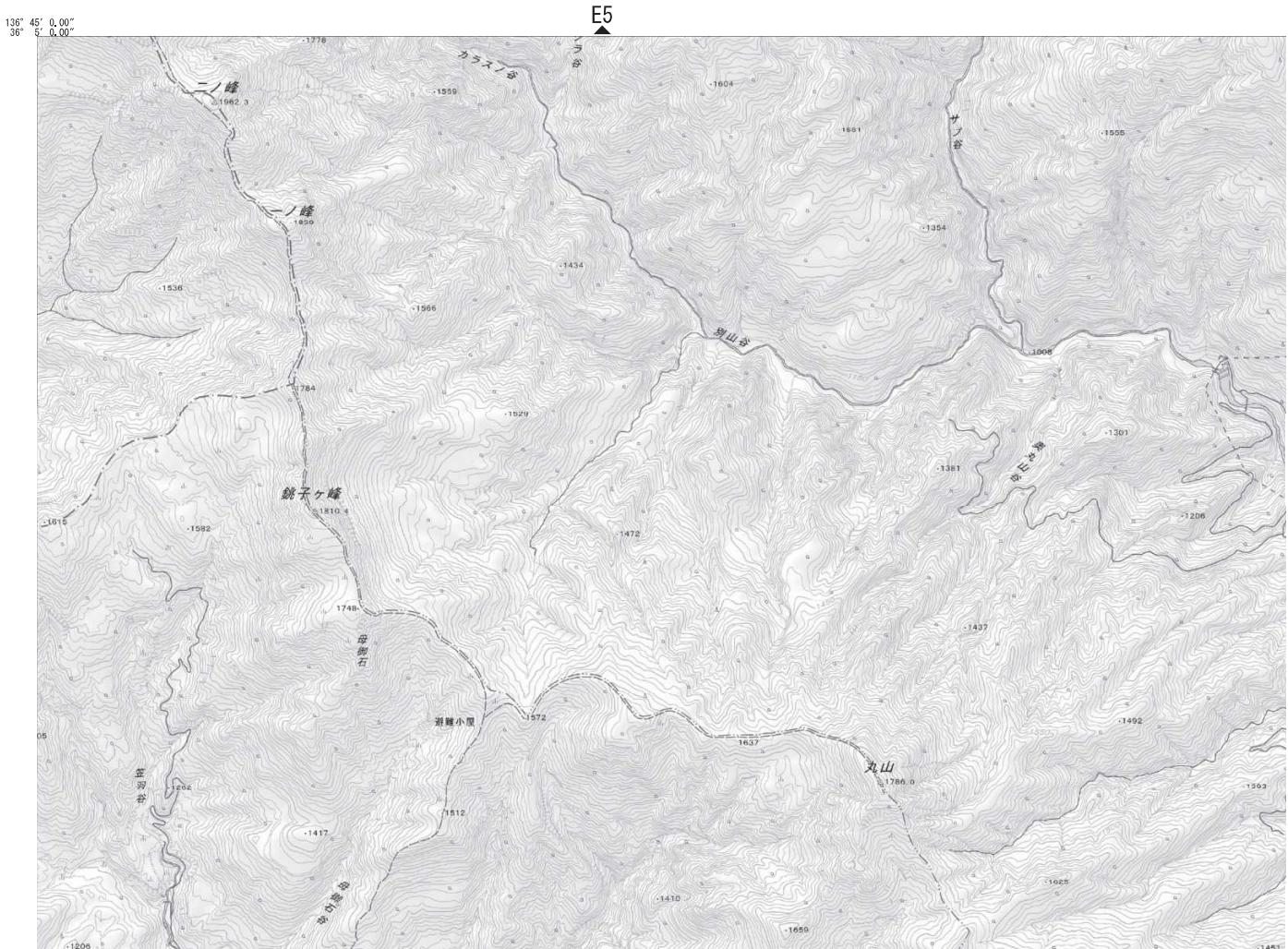


►F5

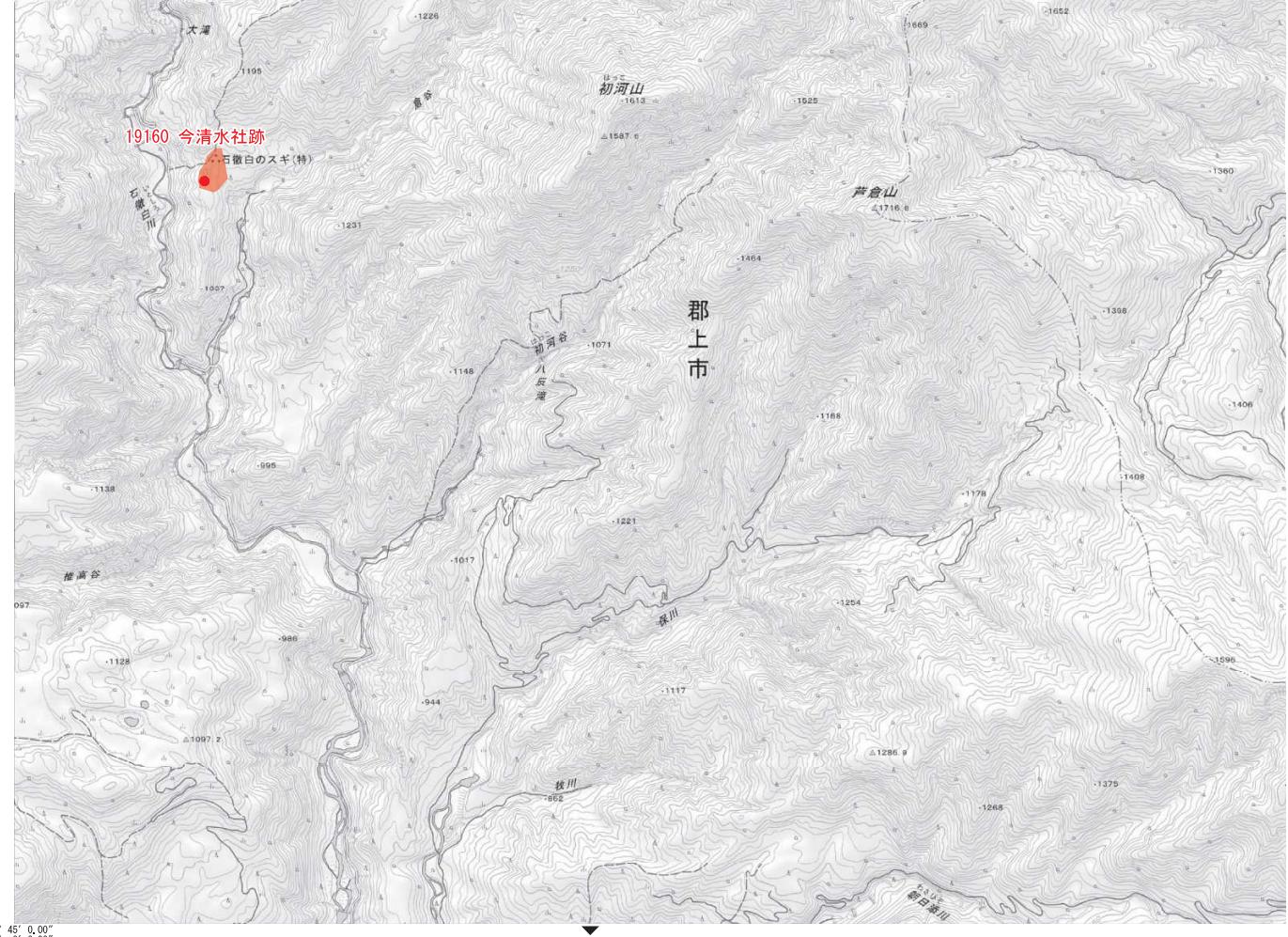
		E5 白山
	F4 願教寺山	F5 二ノ峰
G4 下山		G5 石徹白

▼G4

136° 45' 0.00"
36° 0' 0.00"



F4



E5

136° 52' 30.00"

36° 5' 0.00"

F5 二ノ峰

137

郡上市

19160 今清水社跡

高山市

小シウド谷

大シウド谷

天狗山

大日ヶ岳

G5

►F6

136° 52' 30.00"
36° 0' 0.00"

	E5 白山	E6 御母衣
F4 願教寺山	F5 二ノ峰	F6 新渕
G4 下山	G5 石徹白	G6 大鷲

136° 52' 30.00"
36° 5' 0.00"

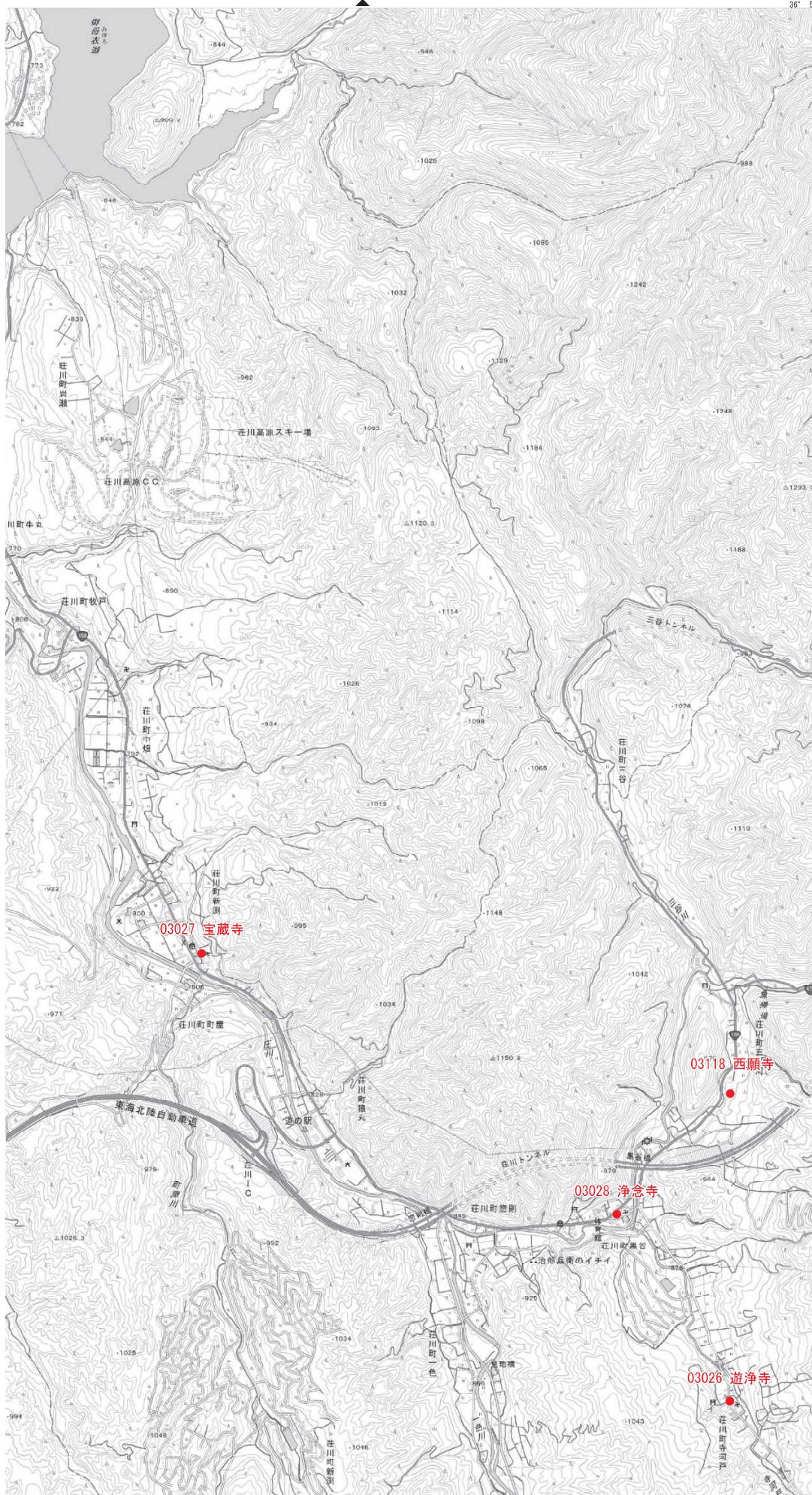
138



F6 新潟

高山市

- 03026 遊淨寺
03027 宝藏寺
03028 淨念寺
03118 西願寺



►F7

03118 西願寺

03028 淨念寺

03026 遊淨寺

E5 白山	E6 御母衣	E7 夏厩
F5 二ノ峰	F6 新潟	F7 六厩
G5 石徹白	G6 大鰐	G7 飛驒大原



F4

136° 45' 0.00"
36° 0' 0.00"

郡上市

G4 下山

141

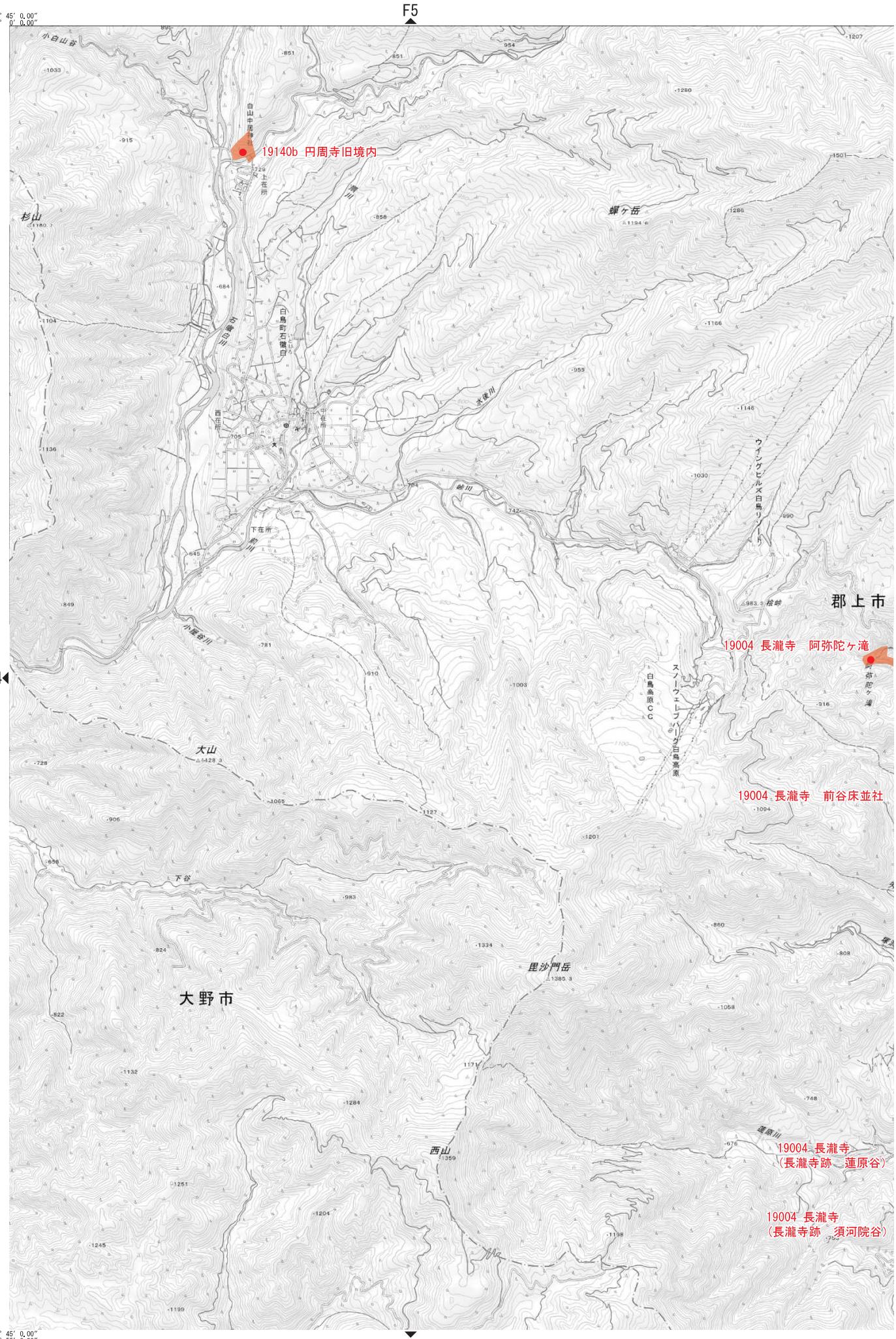


	F4 願教寺山	F5 二ノ峰
	G4 下山	G5 石徹白
		H5 白鳥

136° 45' 0.00"
35° 55' 0.00"

136° 45' 0.00"
36° 0' 0.00"

142



136° 45' 0.00"
35° 55' 0.00"

郡上市

- 19004 長瀧寺 阿弥陀ヶ滝
 19004 長瀧寺 前谷床並社
 19004 長瀧寺(長瀧寺跡)
 19013 長善寺
 19059 通入寺
 19061 悲願寺
 19083 真觀寺
 19084 聞因寺
 19131 奥の森白山社別當寺(奥の宮跡)
 19140b 円周寺旧境内

19131 奥の森白山社別當寺(奥の宮跡)

19059 通入寺

19013 長善寺

19084 聞因寺

19061 悲願寺

19083 真觀寺

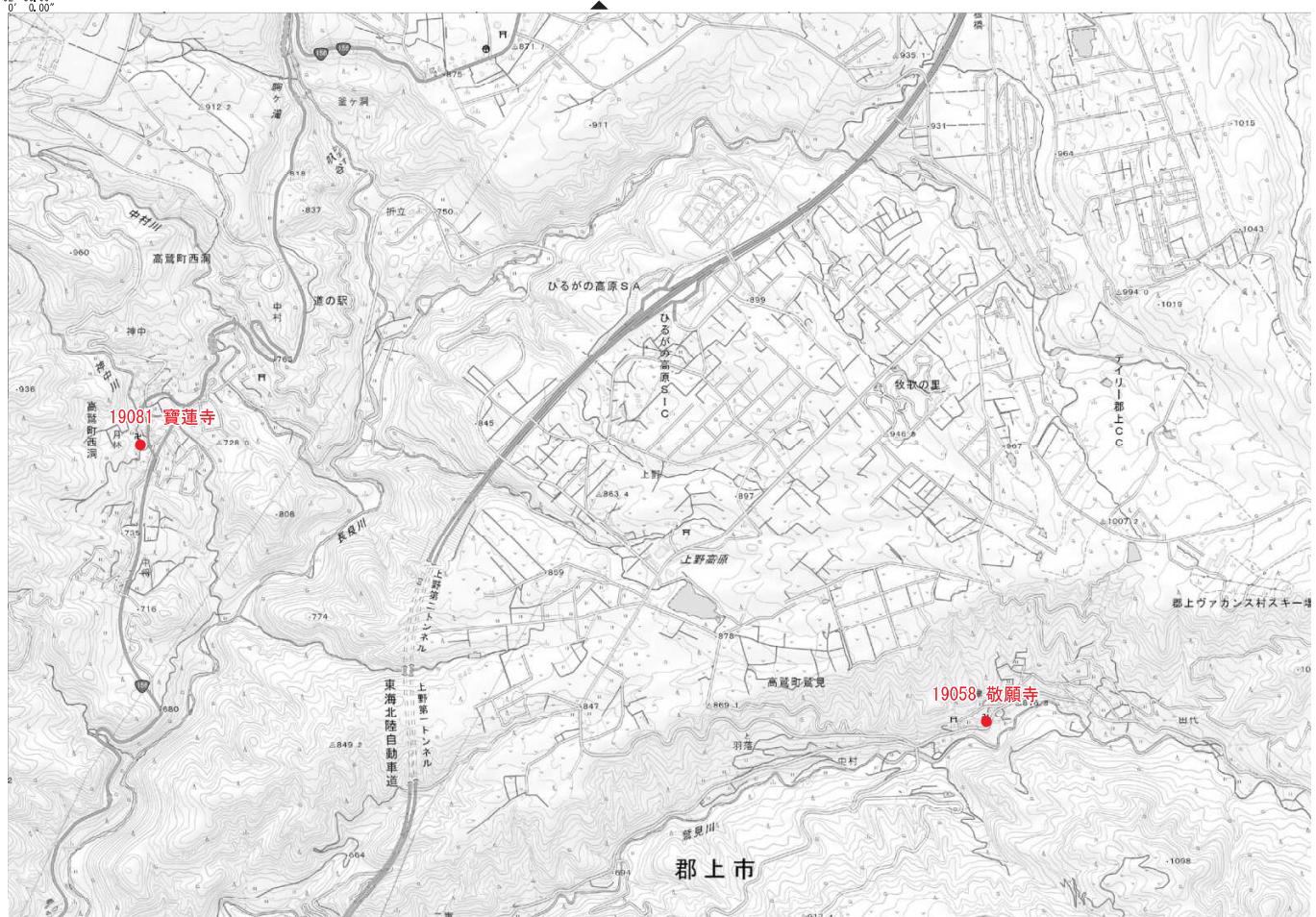
19004 長瀧寺(長瀧寺跡)

F4 願教寺山	F5 二ノ峰	F6 新渕
G4 下山	G5 石徹白	G6 大鷲
	H5 白鳥	H6 那留

136° 52' 30.00"
36° 0' 0.00"

144

F6



G5



136° 52' 30.00"
35° 55' 0.00"

H6

F6

137° 0' 0.00"

36° 0' 0.00"

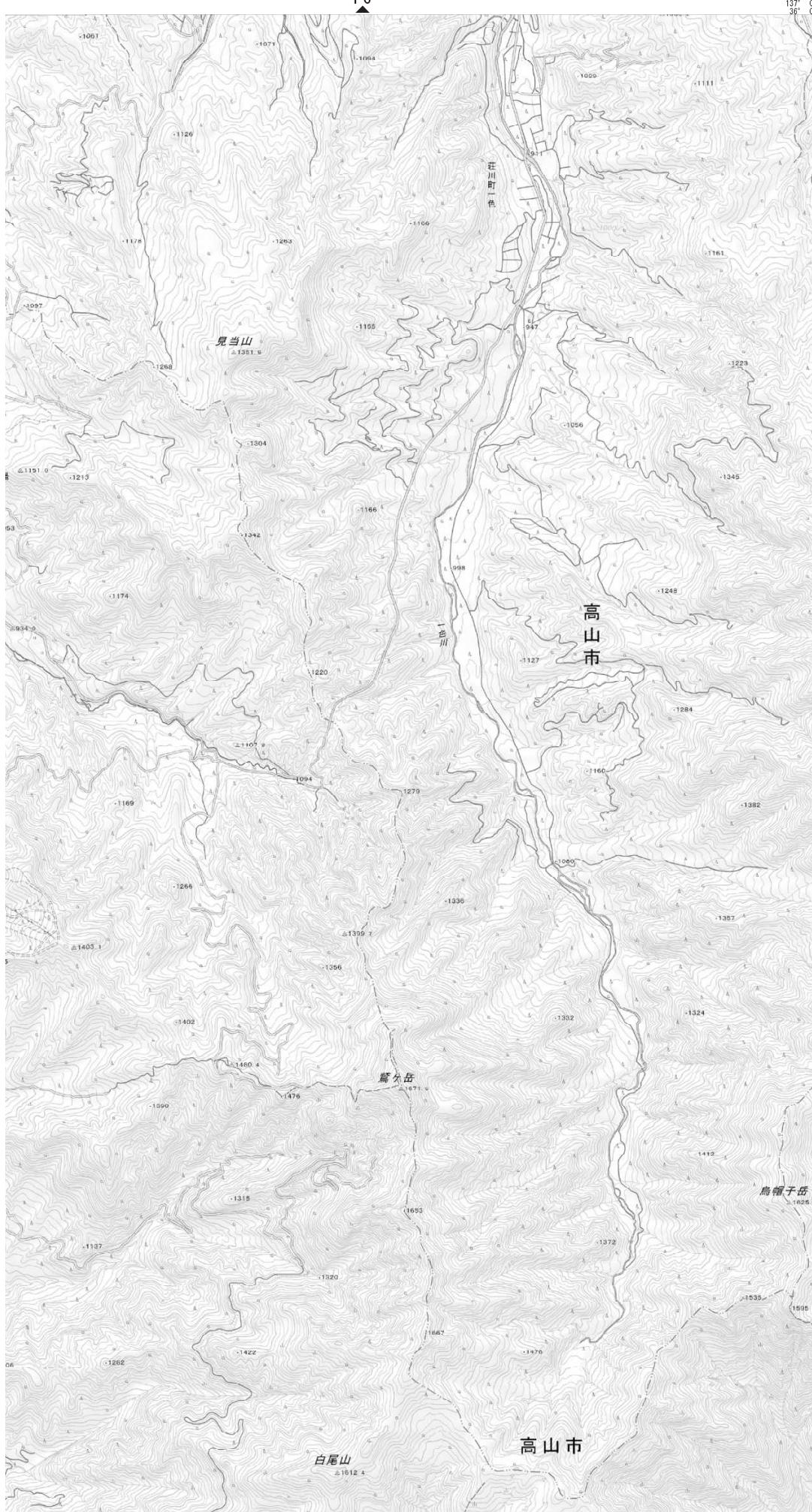
G6 大鷲

145

郡上市

19058 敬願寺

19081 寶蓮寺



►G7

137° 0' 0.00"

35° 55' 0.00"

F5 二ノ峰	F6 新潟	F7 六厩
G5 石徹白	G6 大鷲	G7 飛騨大原
H5 白鳥	H6 那留	H7 二間手

137° 0' 0.00"
36° 0' 0.00"

146

F7



G6

中山山
△1631.3

郡上市

H7

137° 0' 0.00"
35° 55' 0.00"



F7

137° 7' 30.00"

36° 0' 0.00"

G7 飛驒大原

147

高山市

03021 長林寺

03063 榛谷寺



►G8

下呂市

F6 新潟	F7 六厩	F8 位山
G6 大鷲	G7 飛驒大原	G8 山之口
H6 那留	H7 二間手	H8 萩原

137° 7' 30.00"

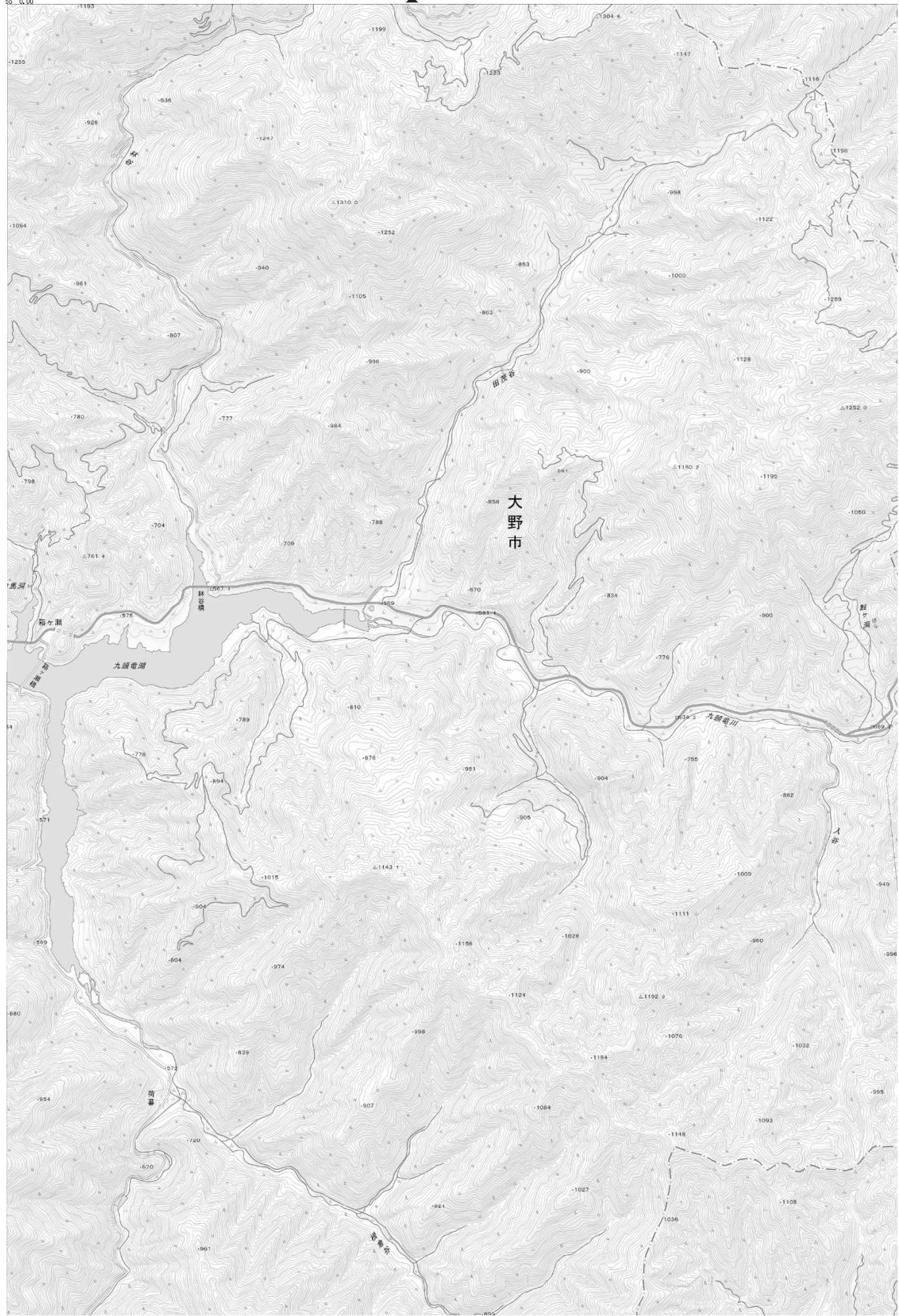
35° 55' 0.00"

H7

136° 45' 0.00"
35° 55' 0.00"

G5

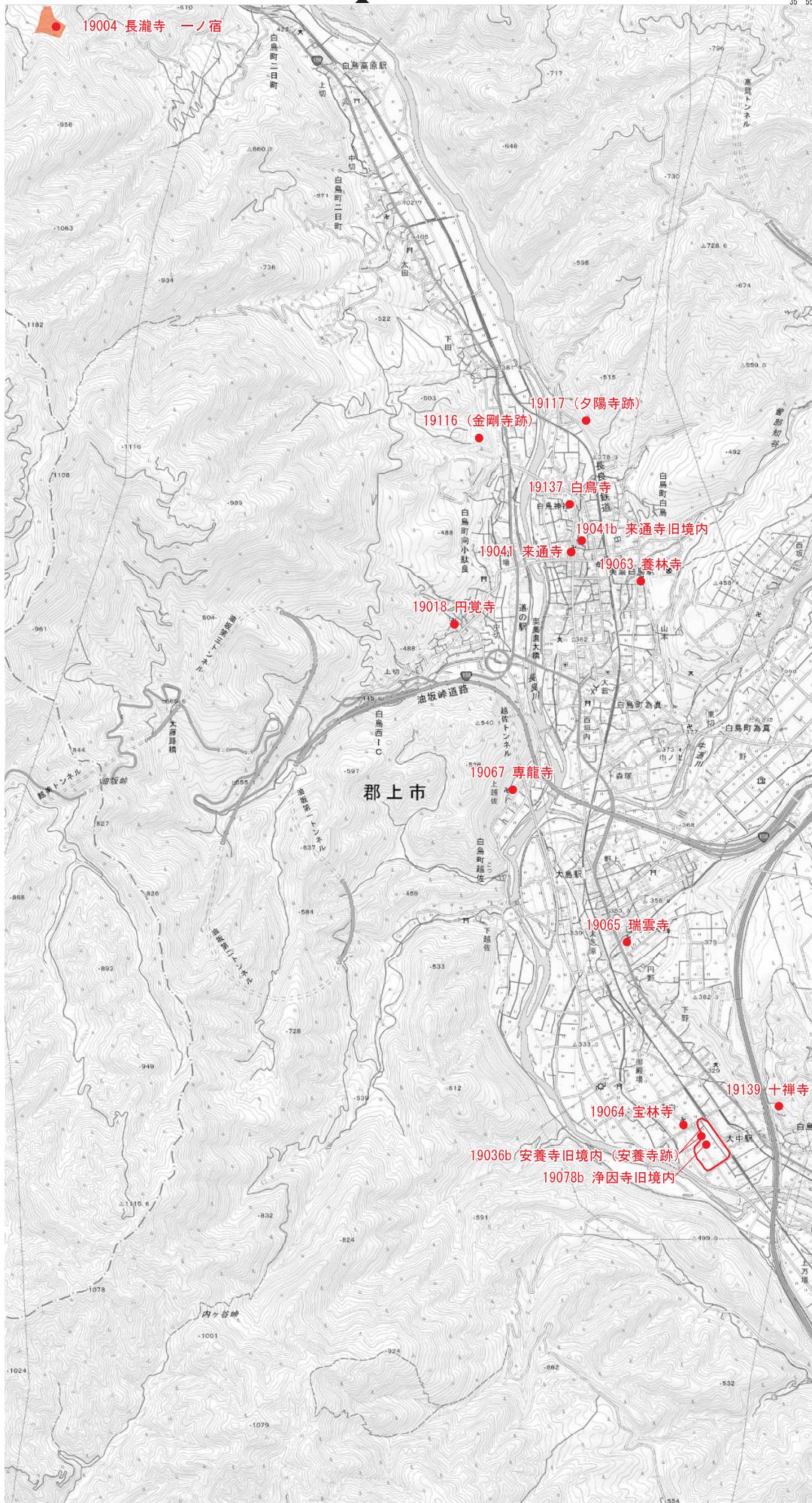
148



136° 45' 0.00"
35° 50' 0.00"

I5

19004 長瀧寺 一ノ宿



H5 白鳥

149

郡上市

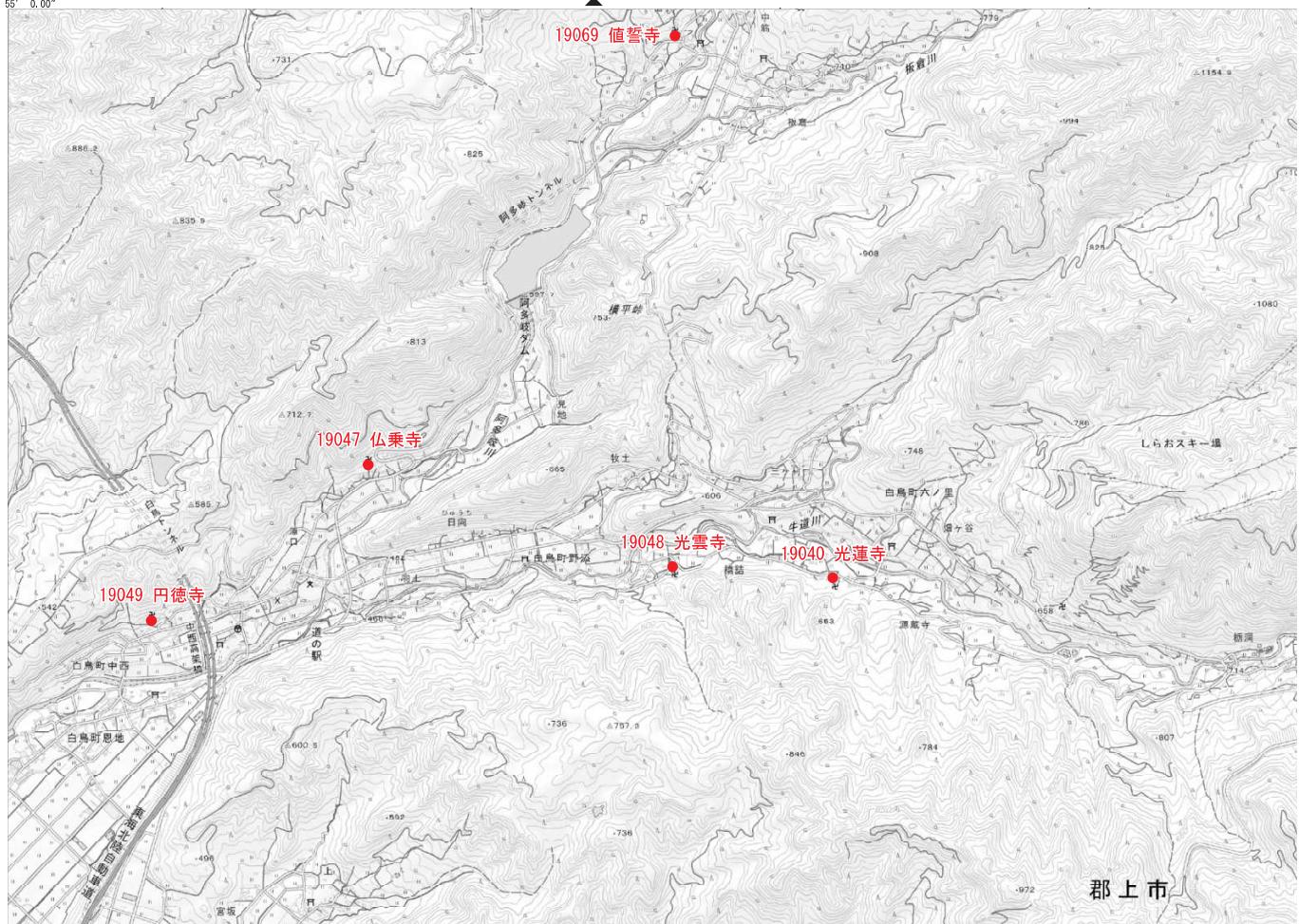
- 19004 長瀧寺 一ノ宿
19018 円覚寺
19036b 安養寺旧境内 (安養寺跡)
19041 来通寺
19041b 来通寺旧境内
19063 養林寺
19064 宝林寺
19065 瑞雲寺
19067 専龍寺
19078b 淨因寺旧境内
19116 (金剛寺跡)
19117 (夕陽寺跡)
19137 白鳥寺
19139 十禪寺

G4 下山	G5 石徹白	G6 大鷲
	H5 白鳥	H6 那留
I4 平家岳	I5 門原	I6 德永

136° 52' 30.00"
35° 55' 0.00"

G6

150



H5

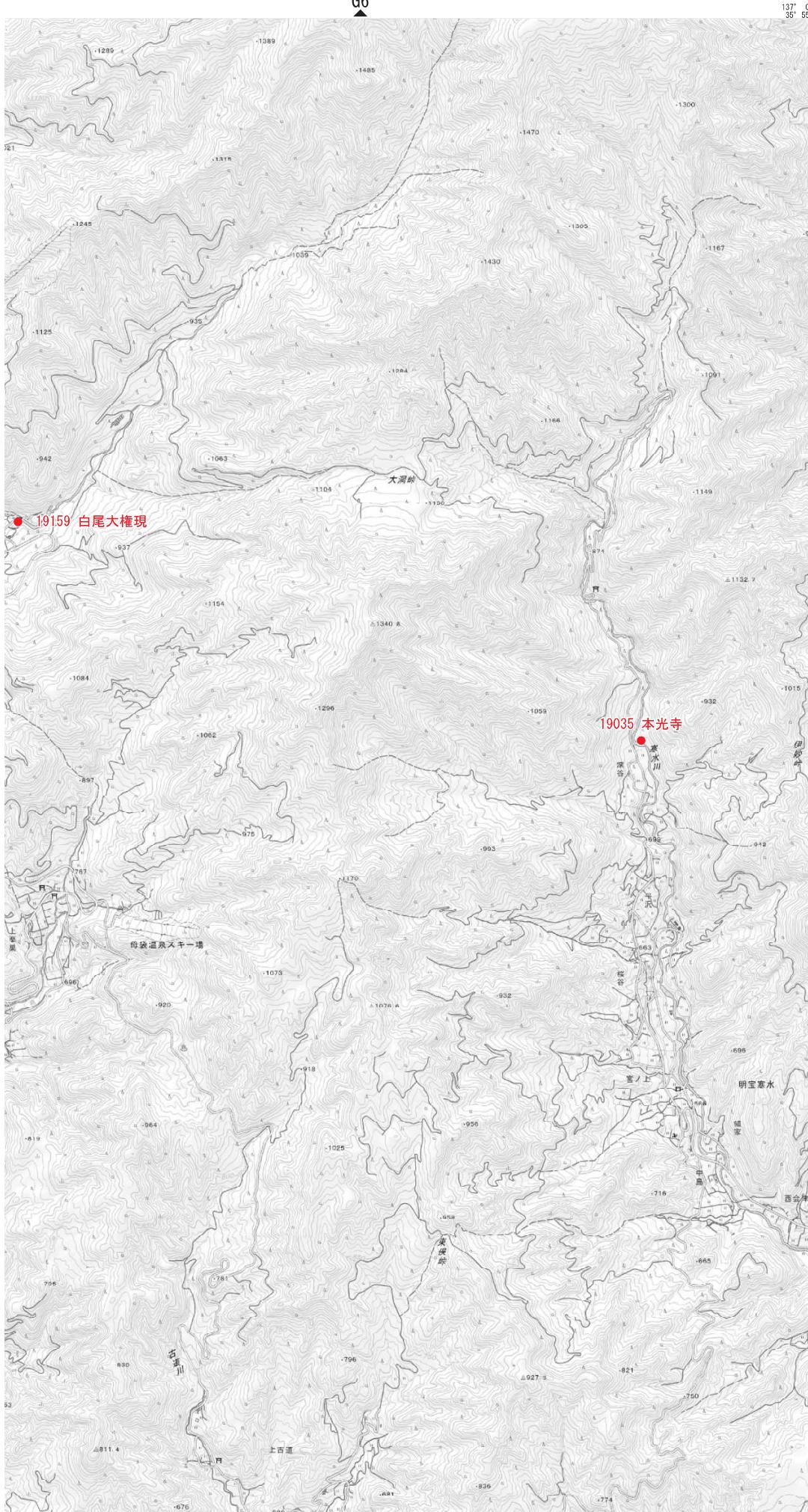


136° 52' 30.00"
35° 50' 0.00"

I6

郡上市

- 19035 本光寺
 19040 光蓮寺
 19047 仏乘寺
 19048 光雲寺
 19049 円徳寺
 19069 値誓寺
 19080 教円寺
 19159 白尾大権現



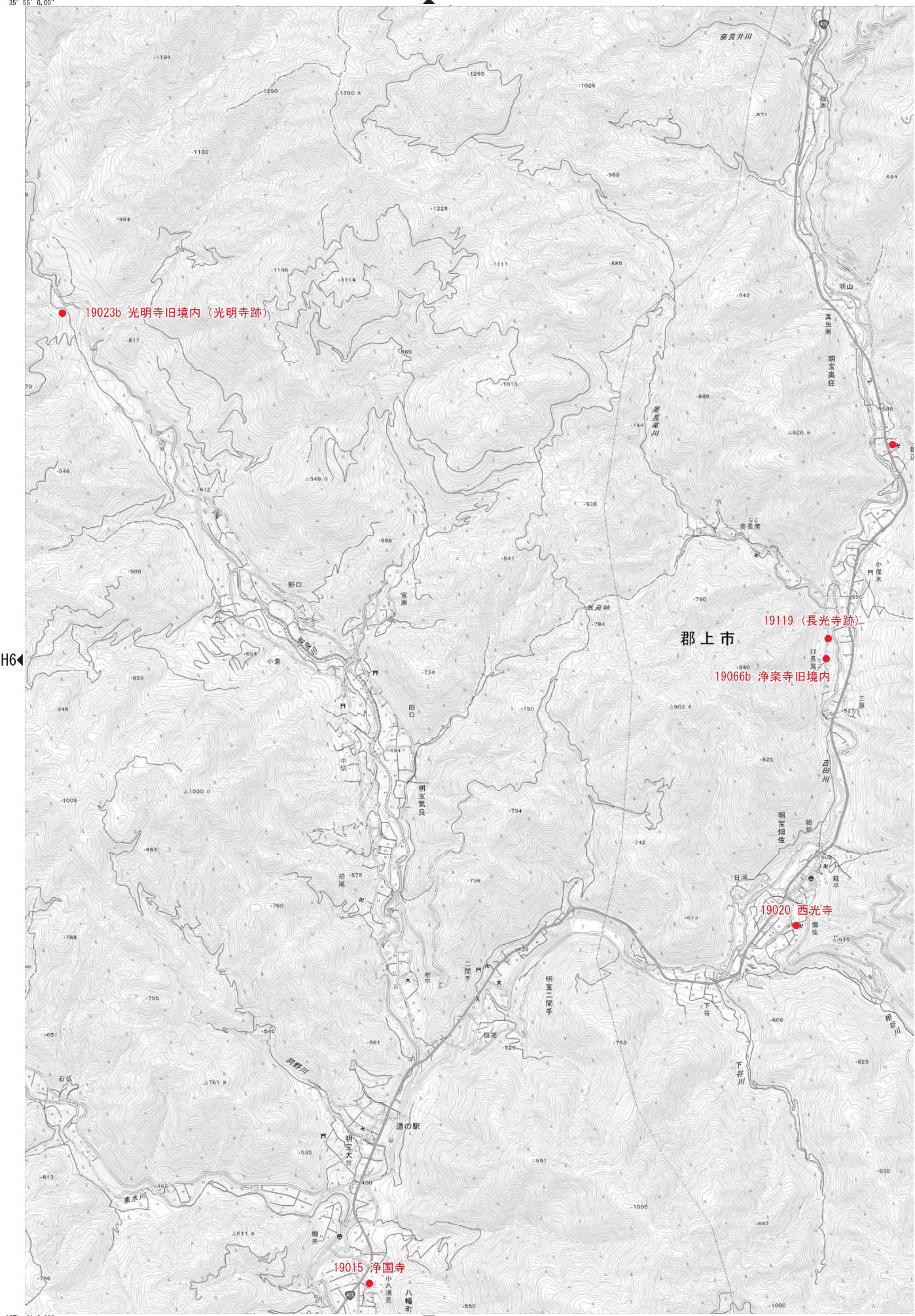
H7

G5 石徹白	G6 大鷦	G7 飛騨大原
H5 白鳥	H6 那留	H7 二間手
I5 門原	I6 徳永	I7 郡上市島

137° 0' 0.00"
35° 55' 0.00"

G7

152



137° 0' 0.00"
35° 50' 0.00"

I7

郡上市

- 19010 佛號寺
 19012 常妙寺
 19015 净国寺
 19020 西光寺
 19023b 光明寺旧境内（光明寺跡）
 19066b 淨樂寺旧境内
 19119（長光寺跡）

19012 常妙寺

19010 佛號寺

►H8

G6 大鷲	G7 飛驒大原	G8 山之口
H6 那留	H7 二間手	H8 萩原
I6 德永	I7 郡上市島	I8 下呂

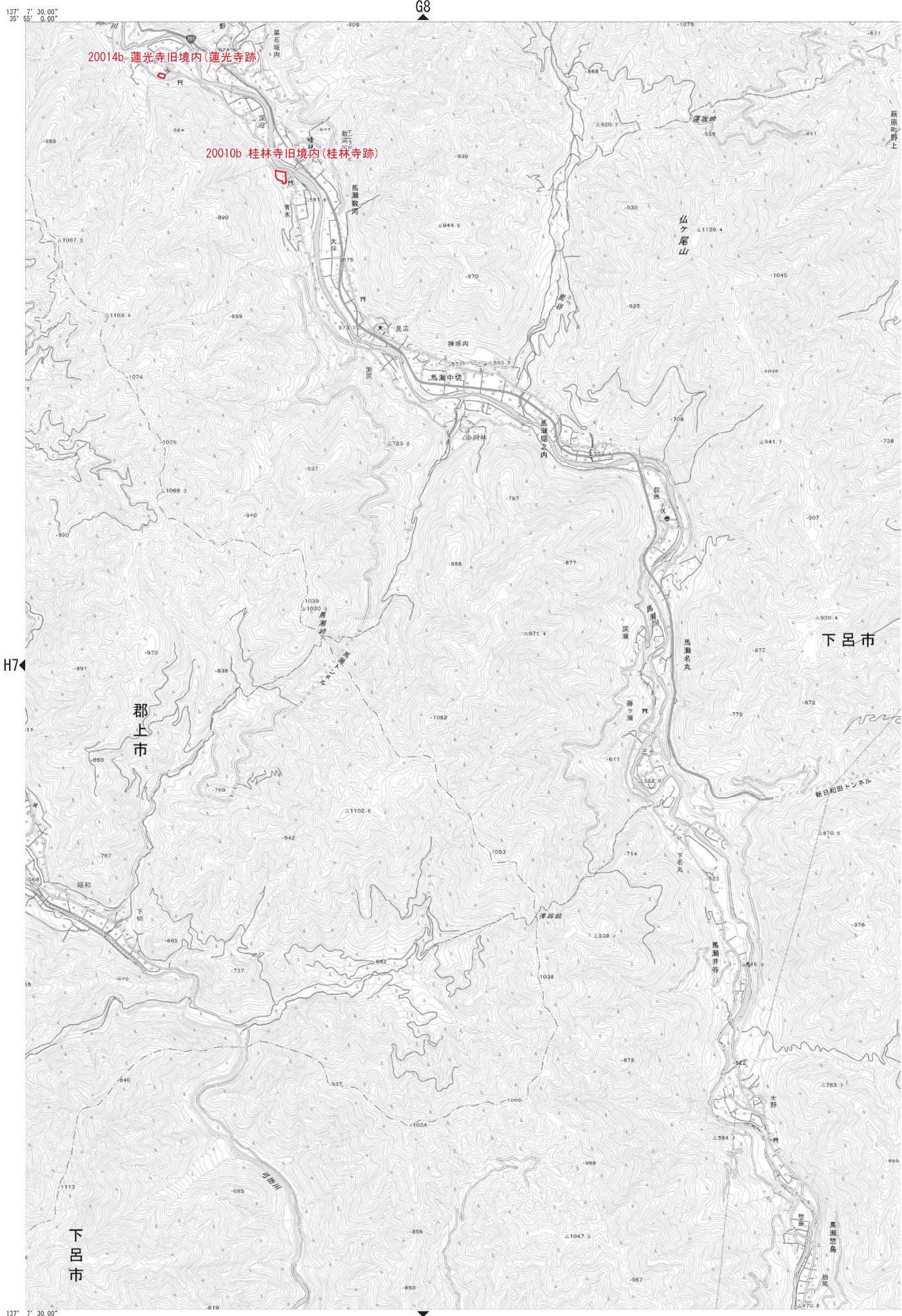
137° 7' 30.00"
35° 55' 0.00"

G8

154

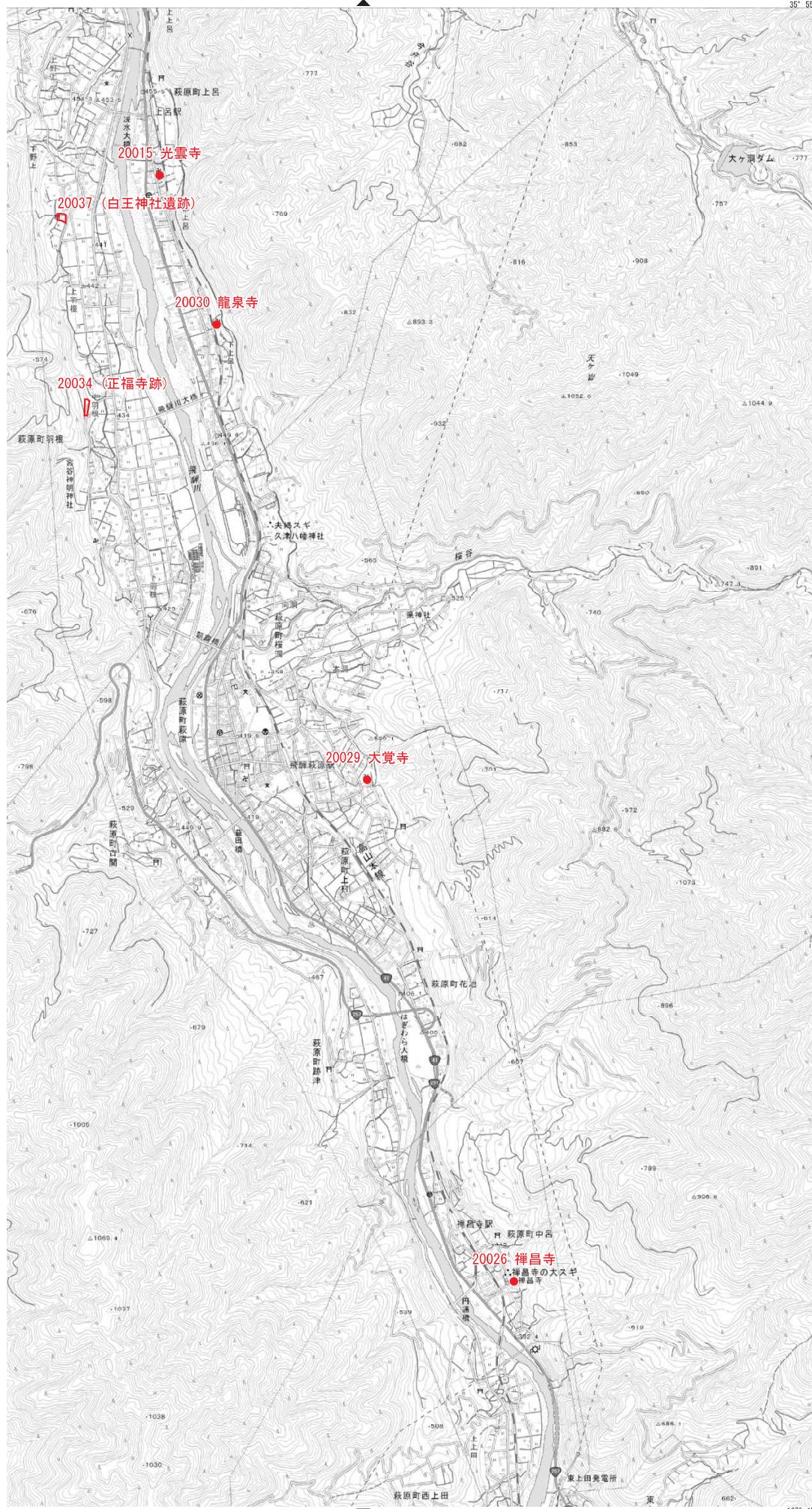
20014b 蓮光寺旧境内(蓮光寺跡)

20010b 桂林寺旧境内(桂林寺跡)



137° 7' 30.00"
35° 50' 0.00"

I8



下呂市

- 20010b 桂林寺旧境内(桂林寺跡)
- 20014b 蓮光寺旧境内(蓮光寺跡)
- 20015 光雲寺
- 20026 禪昌寺
- 20029 大覺寺
- 20030 龍泉寺
- 20034 (正福寺跡)
- 20037 (白王神社遺跡)

►H9

G7 飛騨大原	G8 山之口	G9 飞驥小坂
H7 二間手	H8 萩原	H9 湯屋
I7 郡上市島	I8 下呂	I9 宮地

136° 37' 30.00"
35° 50' 0.00"

156



13



136° 37' 30.00"
35° 45' 0.00"

J4

136° 45' 0.00"
35° 50' 0.00"

I4 平家岳

157



► I5

		H5 白鳥
I3 能郷白山	I4 平家岳	I5 門原
J3 能郷	J4 下大須	J5 上ヶ瀬

▼ J4

136° 45' 0.00"
35° 45' 0.00"

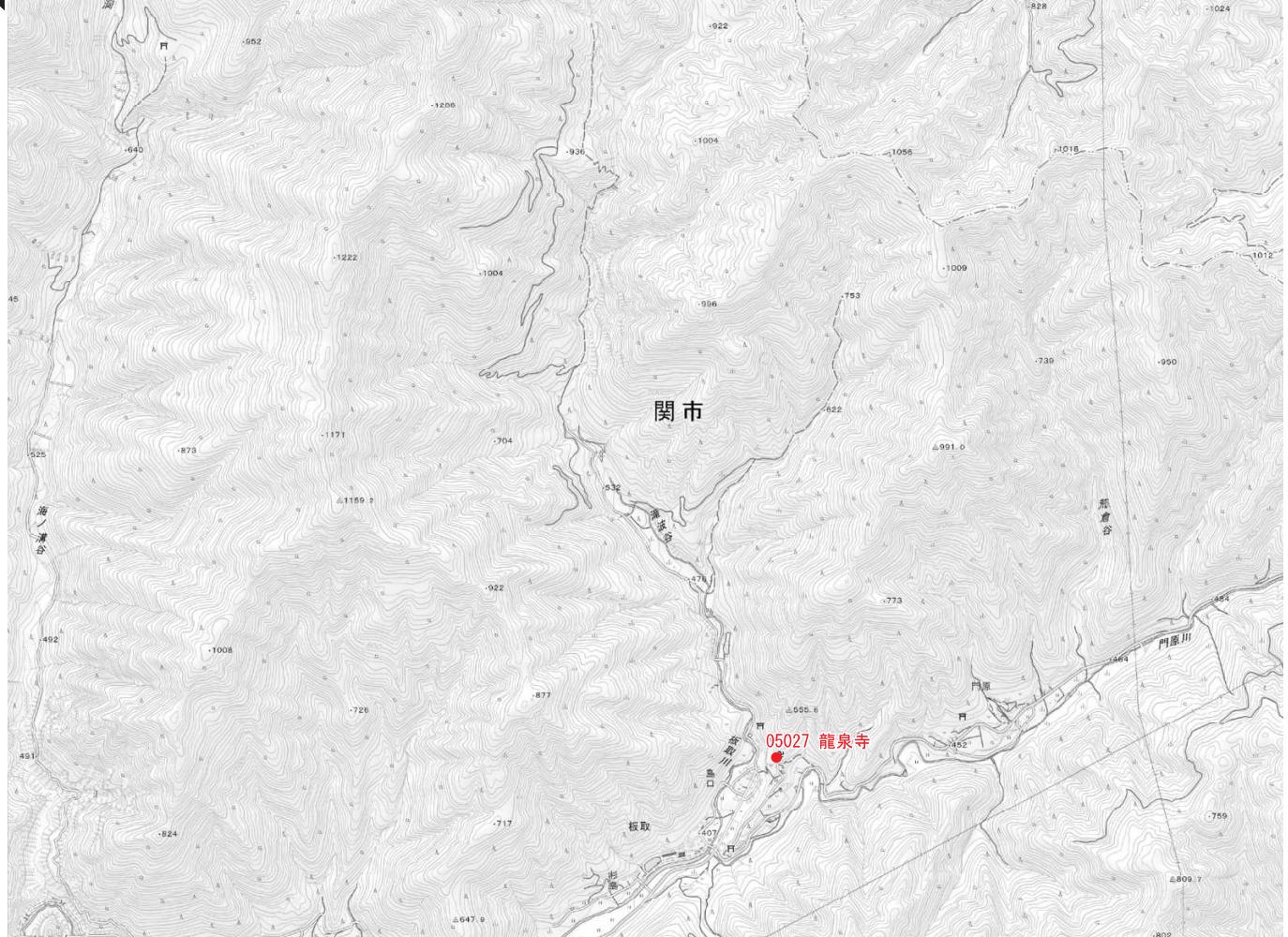
136° 45' 0.00"
35° 50' 0.00"

158

H5



I4



136° 45' 0.00"
35° 45' 0.00"

J5

H5

136° 52' 30.00"
35° 50' 0.00"

I5 門原

159

関市

05027 龍泉寺

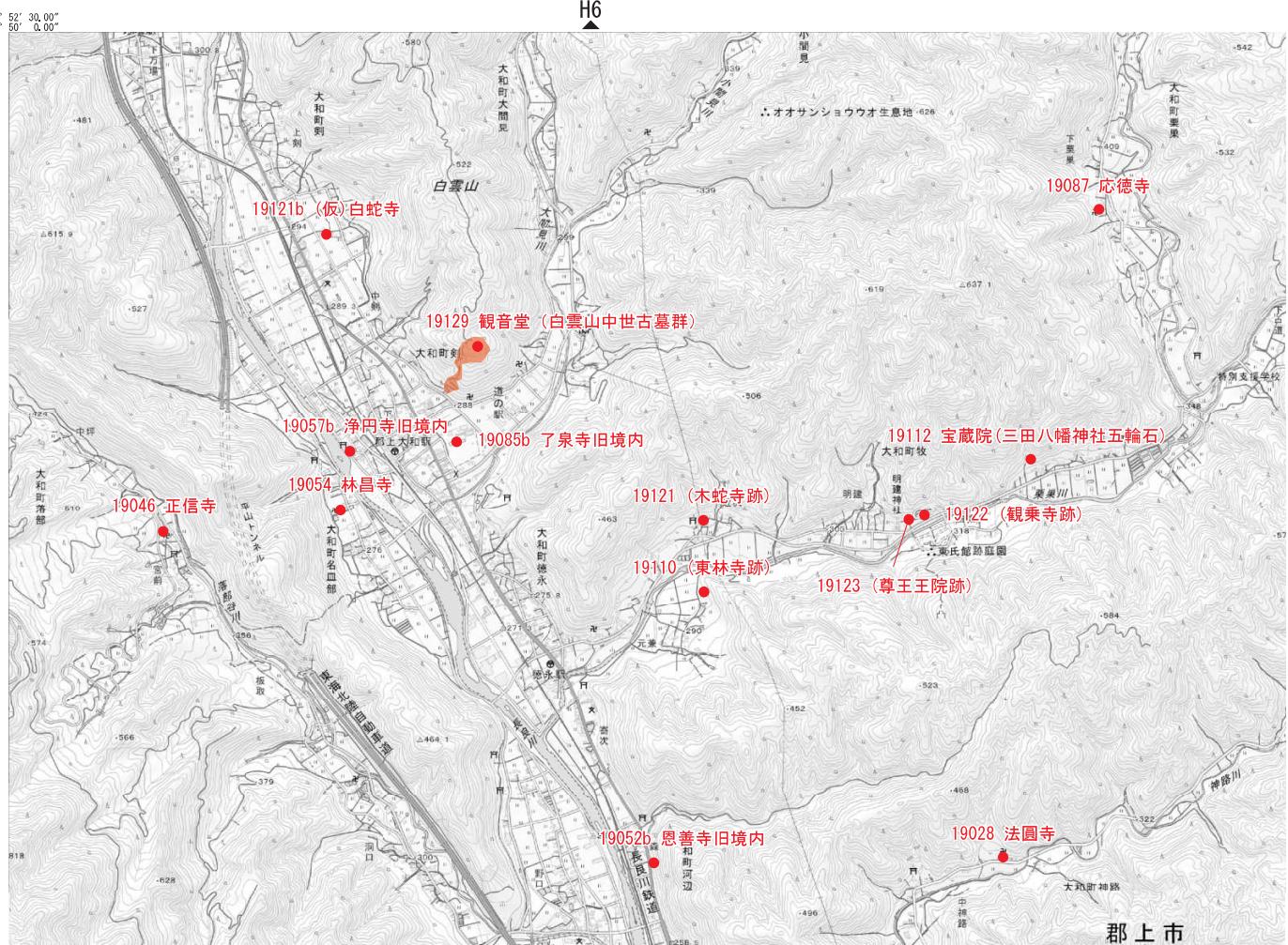


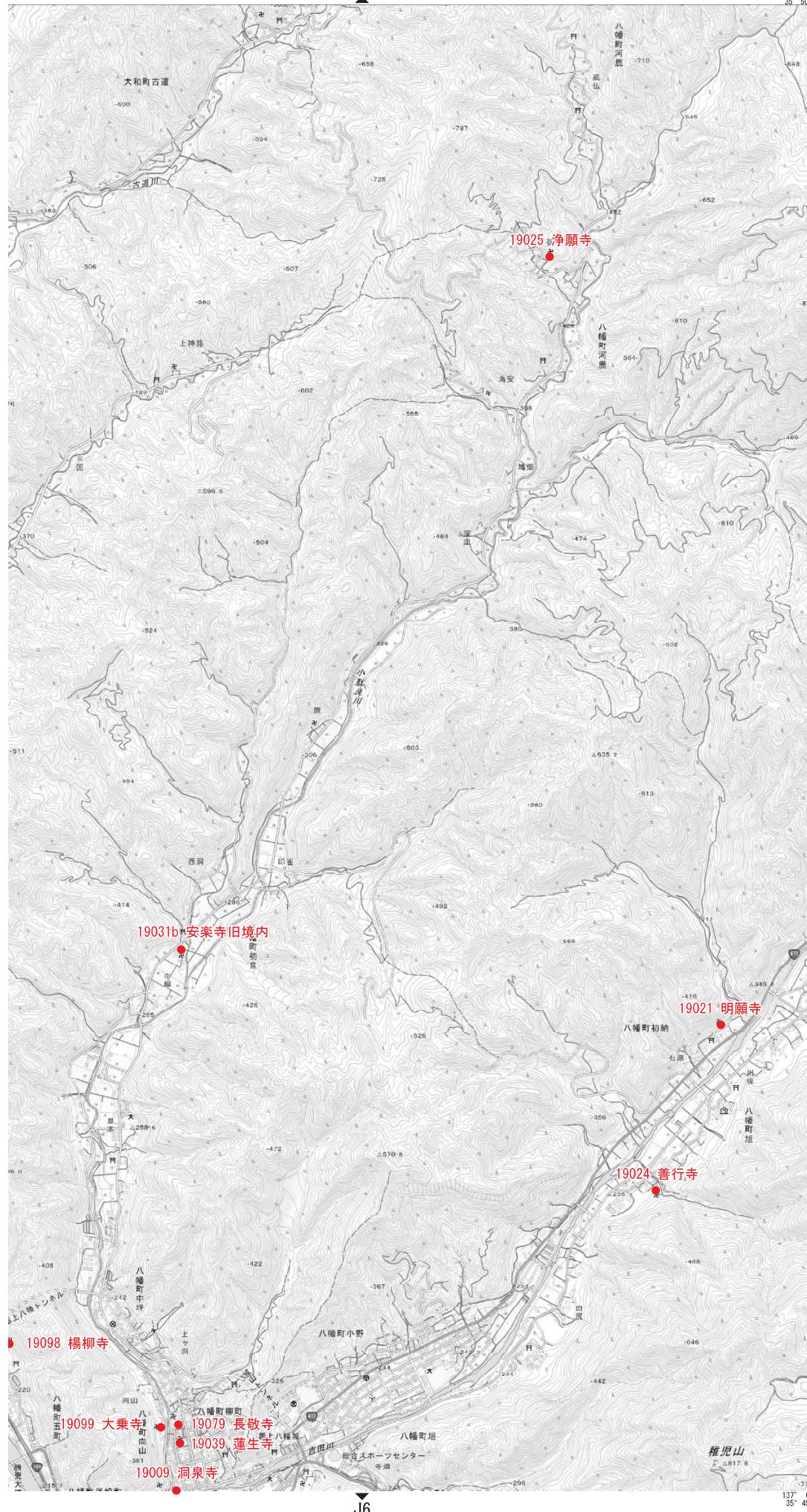
► I6

136° 52' 30.00"
35° 45' 0.00"

	H5 白鳥	H6 那留
I4 平家岳	I5 門原	I6 徳永
J4 下大須	J5 上ヶ瀬	J6 郡上八幡

J5





郡上市

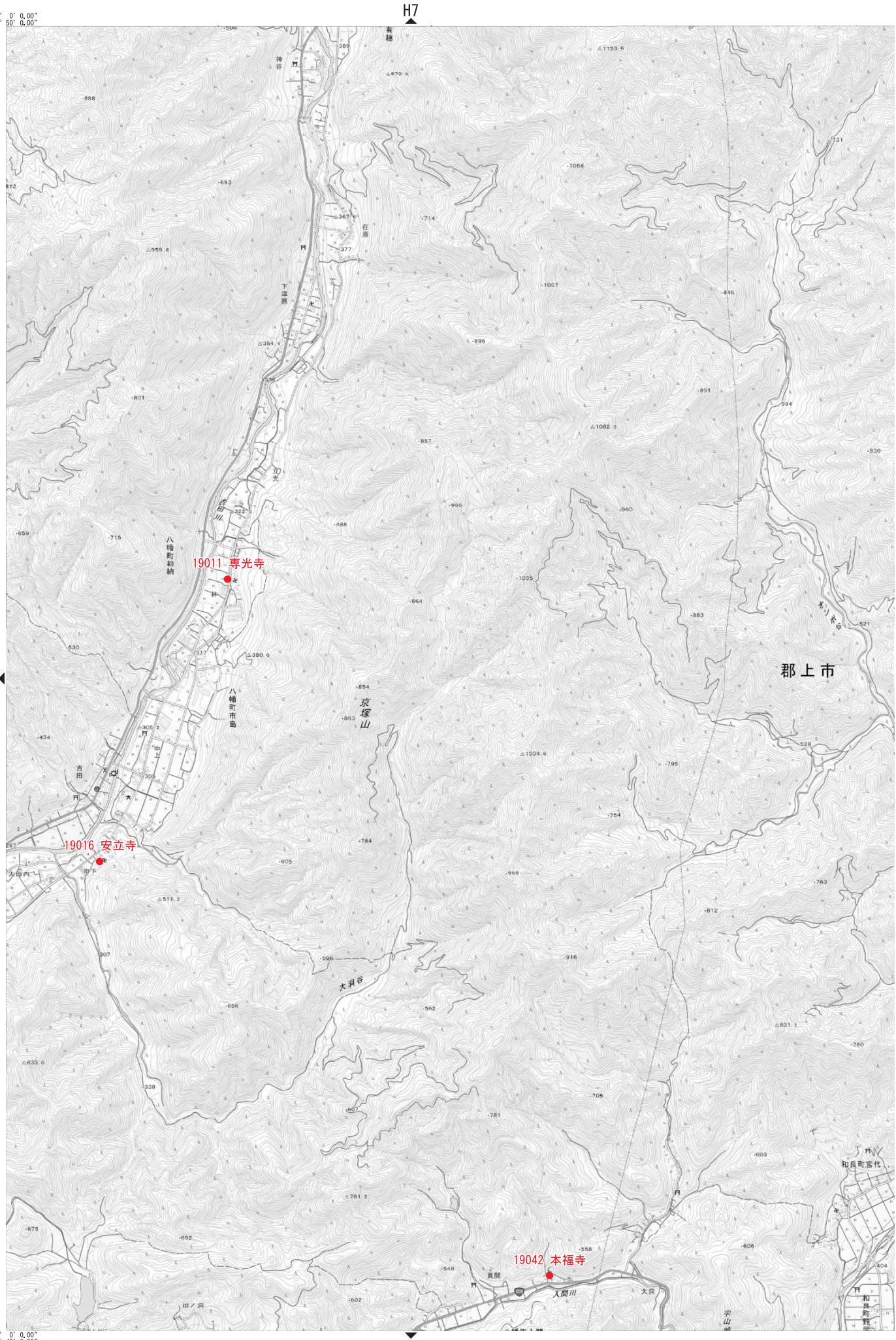
- 19009 洞泉寺
- 19021 明顯寺
- 19024 善行寺
- 19025 浄願寺
- 19028 法圓寺
- 19031b 安樂寺旧境内
- 19039 蓮生寺
- 19046 正信寺
- 19052b 恩善寺旧境内
- 19054 林昌寺
- 19057b 浄円寺旧境内
- 19079 長敬寺
- 19085b 了泉寺旧境内
- 19087 応徳寺
- 19098 楊柳寺
- 19099 大乗寺
- 19110 (東林寺跡)
- 19112 宝蔵院 (三田八幡神社五輪石)
- 19121 (木蛇寺跡)
- 19121b (仮)白蛇寺
- 19122 (觀乘寺跡)
- 19123 (尊王院跡)
- 19129 観音堂 (白雲山中世古墓群)
- 19157 比丘尼屋敷

▶ I7

H5 白鳥	H6 那留	H7 二間手
I5 門原	I6 德永	I7 郡上市島
J5 上ヶ瀬	J6 郡上八幡	J7 沢

137° 0' 0.00"
35° 50' 0.00"

162



137° 0' 0.00"
35° 45' 0.00"

J7

H7

137° 7' 30.00"

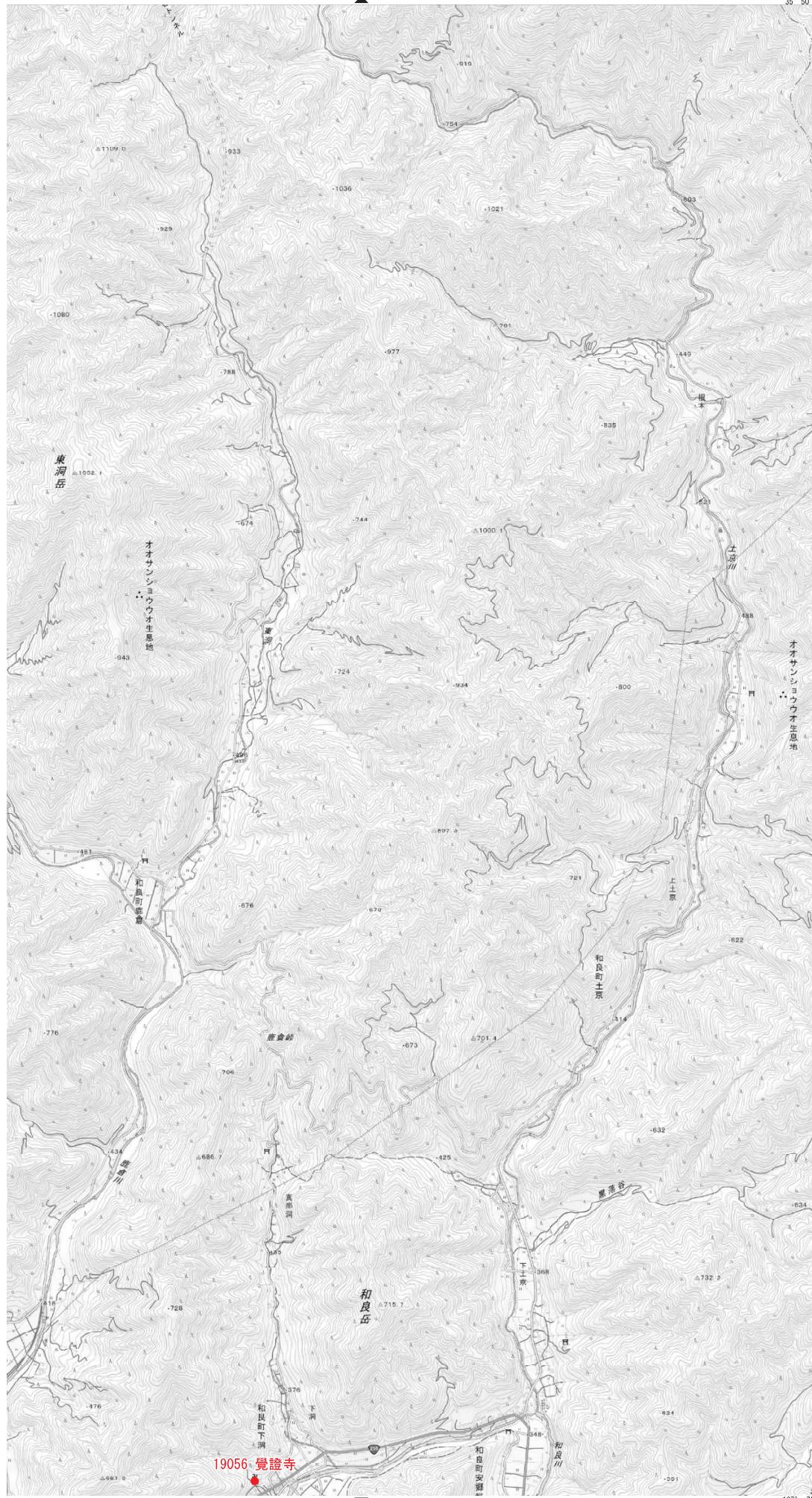
35° 50' 0.00"

I7 郡上市島

163

郡上市

- 19011 専光寺
- 19016 安立寺
- 19042 本福寺
- 19056 覚證寺



J7

137° 7' 30.00"
35° 45' 0.00"

H6 那留	H7 二間手	H8 萩原
I6 德永	I7 郡上市島	I8 下呂
J6 郡上八幡	J7 沢	J8 焼石

137° 7' 30.00"
35° 50' 0.00"

164

H8



17

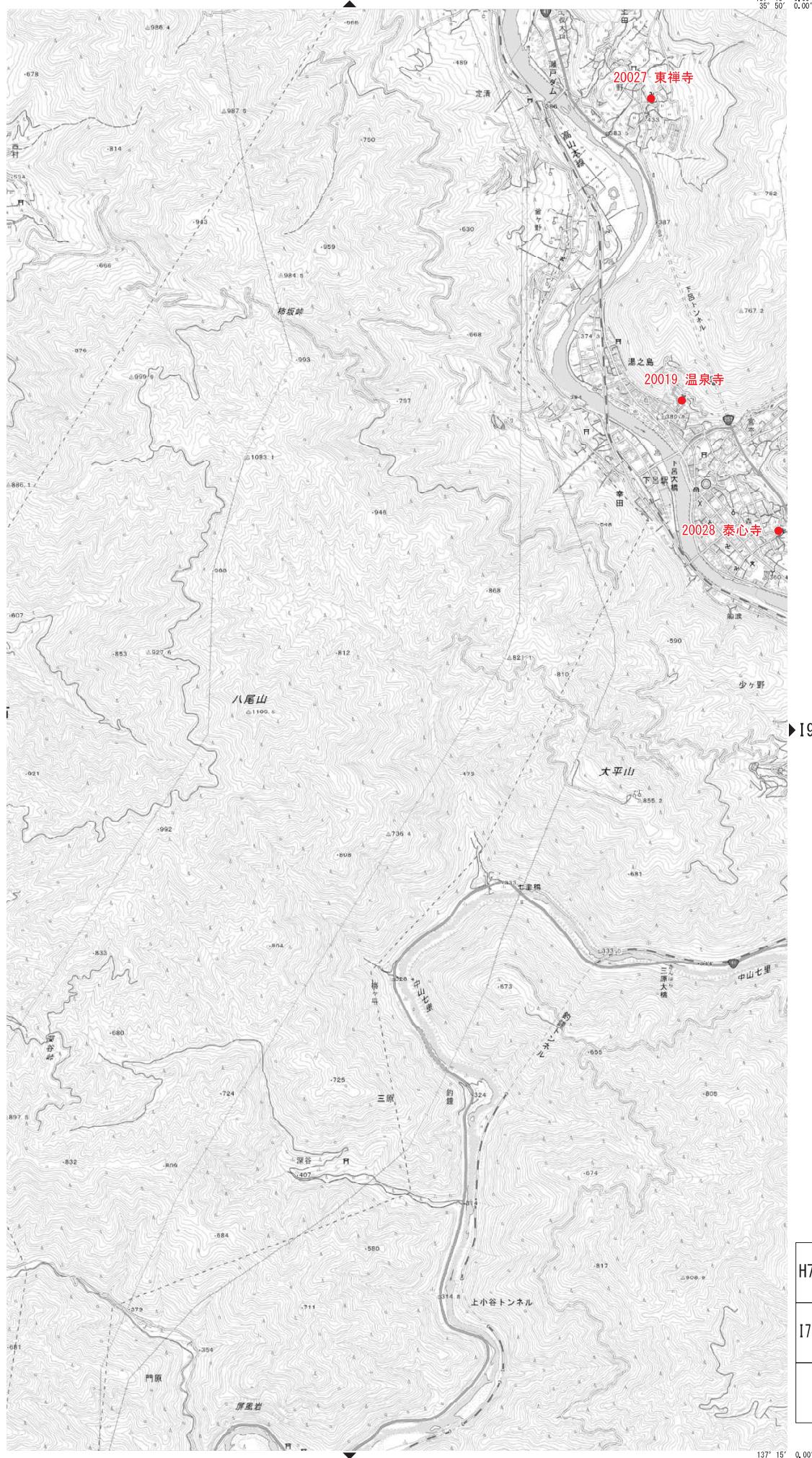
J8

137° 7' 30.00"
35° 45' 0.00"

I8 下呂

下呂市

20019 温泉寺
20027 東禪寺
20028 泰心寺

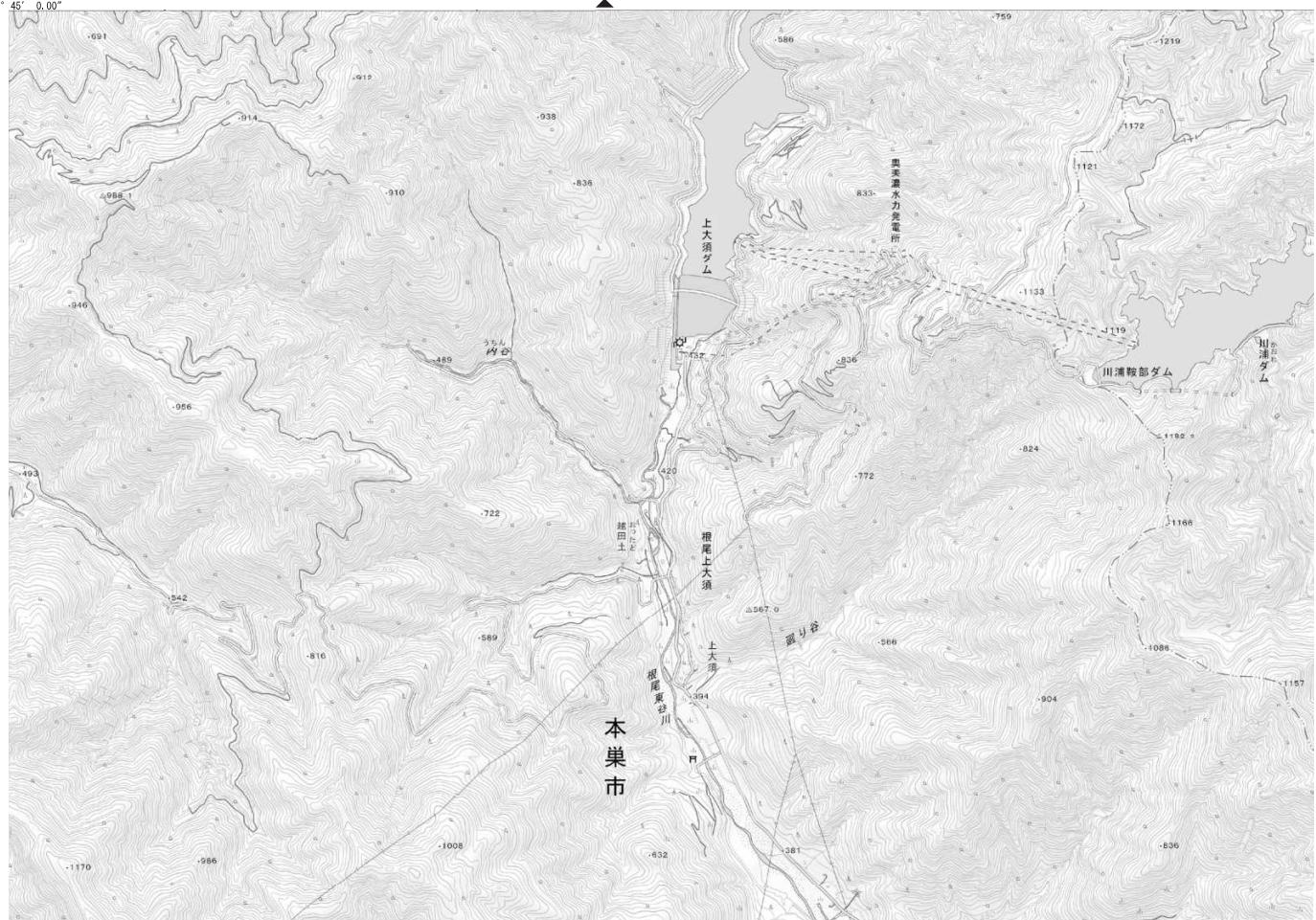


H7 二間手	H8 萩原	H9 湯屋
I7 郡上市島	I8 下呂	I9 宮地
J7 沢	J8 焼石	J9 小和知

136° 37' 30.00"
35° 45' 0.00"

I4

166



J3



136° 37' 30.00"
35° 40' 0.00"

K4

本巣市

18070 福寿寺

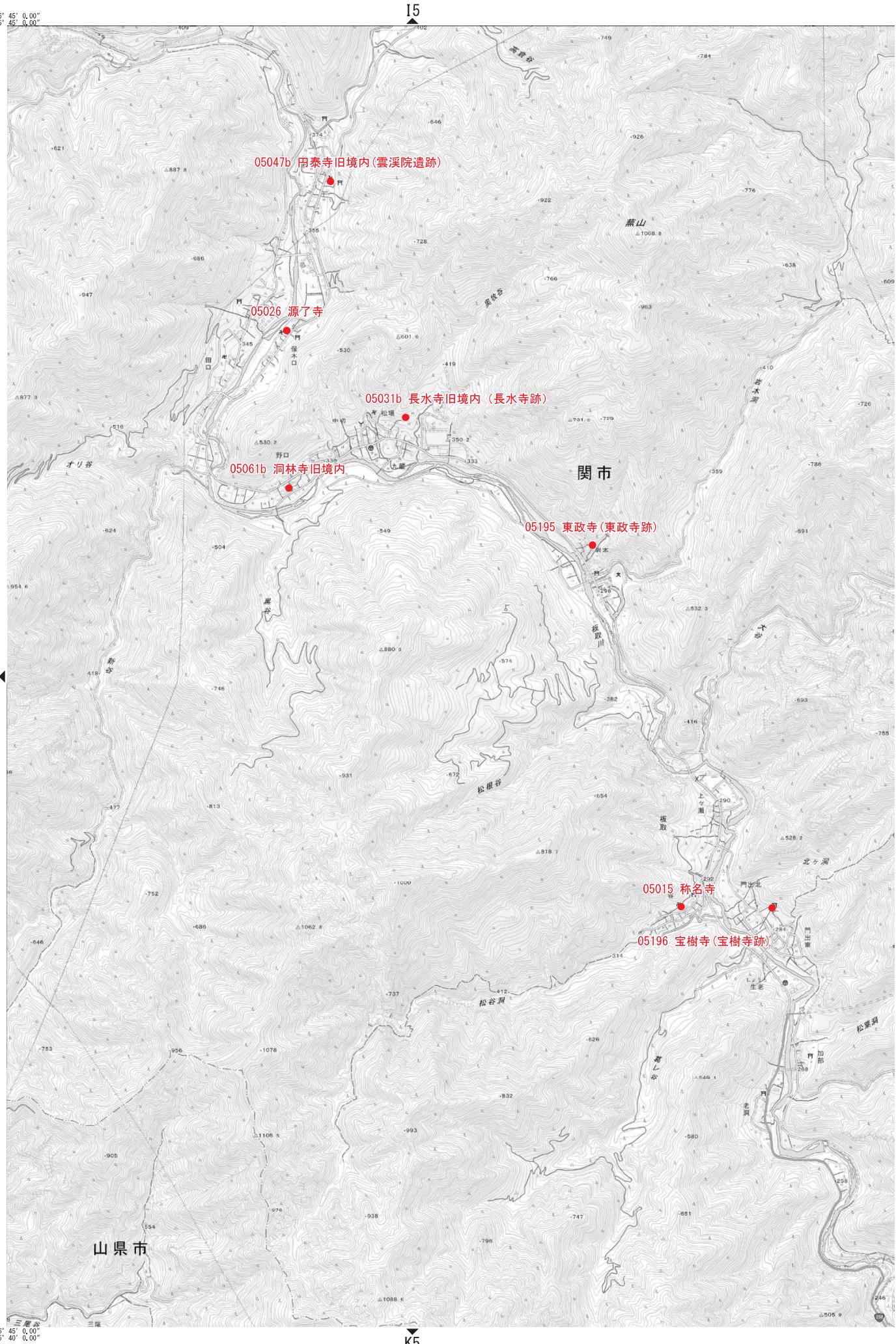
►J5



I3 能郷白山	I4 平家岳	I5 門原
J3 能郷	J4 下大須	J5 上ヶ瀬
K3 樽見	K4 谷合	K5 洞戸

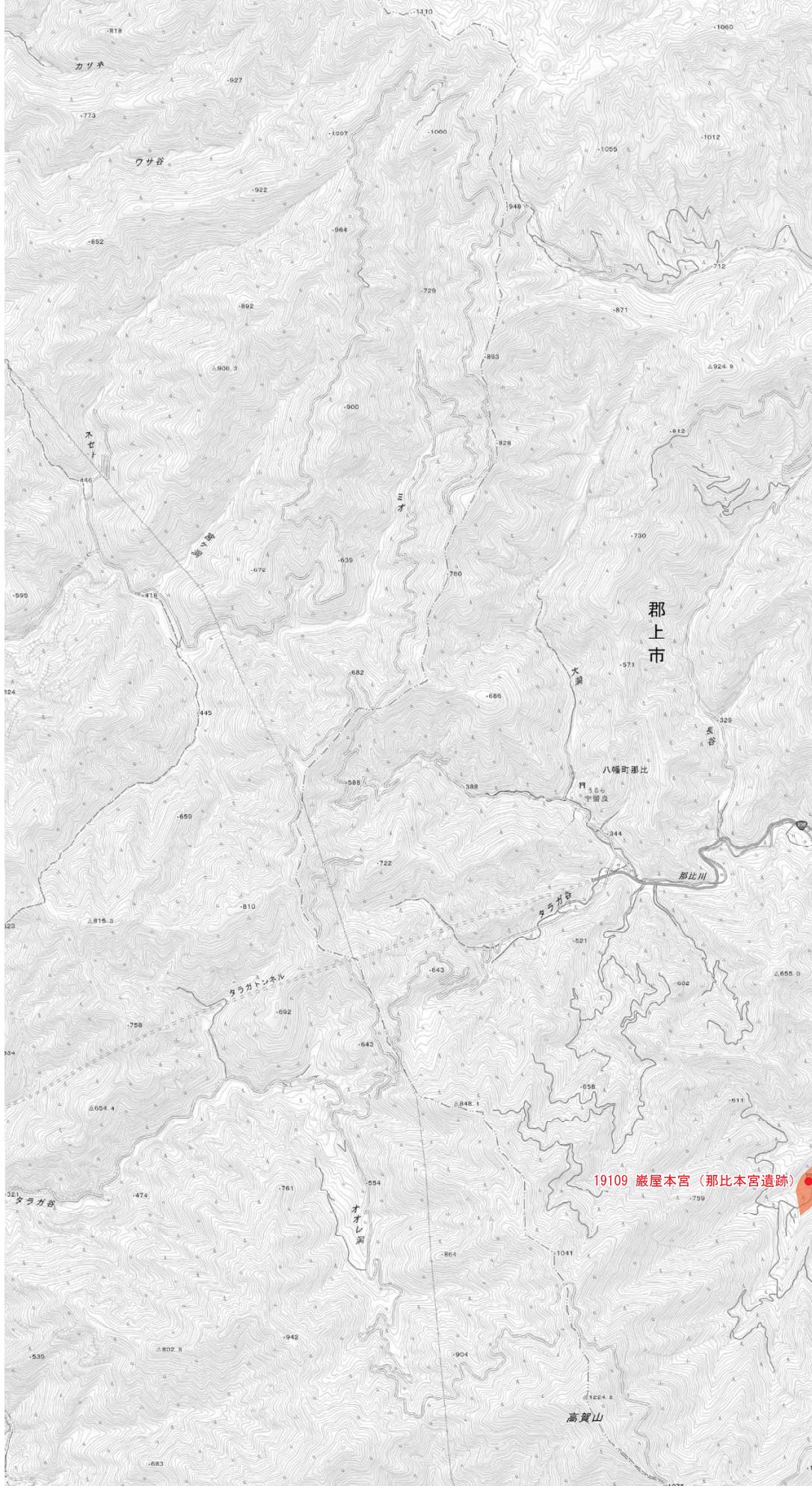
136° 45' 0.00"
35° 45' 0.00"

168



J4

K5



J5 上ヶ瀬

169

関市

- 05015 称名寺
 05026 源了寺
 05031b 長水寺旧境内（長水寺跡）
 05047b 円泰寺旧境内（雲渓院遺跡）
 05061b 洞林寺旧境内
 05195 東政寺（東政寺跡）
 05196 宝樹寺（宝樹寺跡）

郡上市

- 19109 巖屋本宮（那比本宮遺跡）

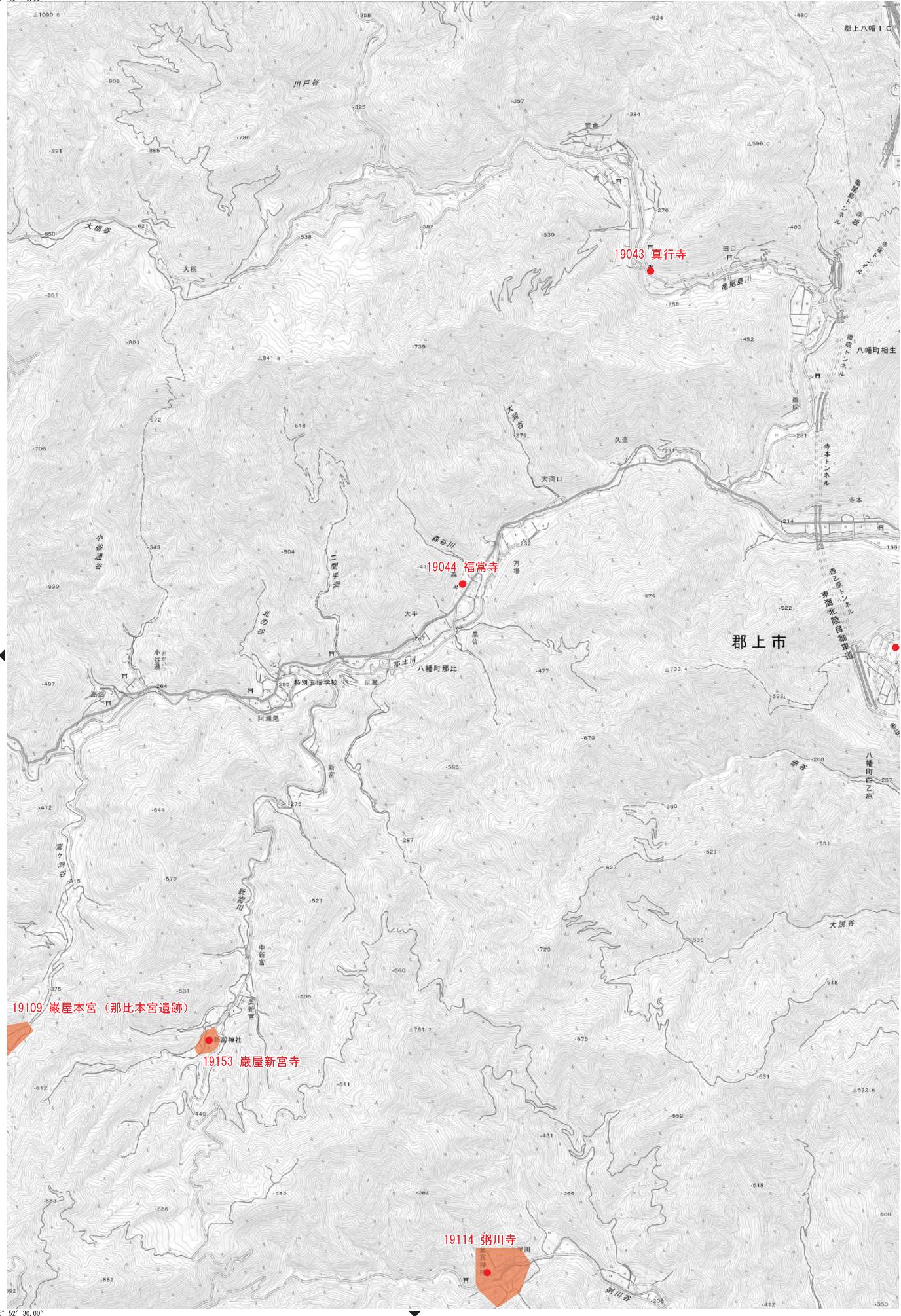
►J6

I4 平家岳	I5 門原	I6 德永
J4 下大須	J5 上ヶ瀬	J6 郡上八幡
K4 谷合	K5 洞戸	K6 荘安

136° 52' 30.00"
35° 45' 0.00"

I6

170



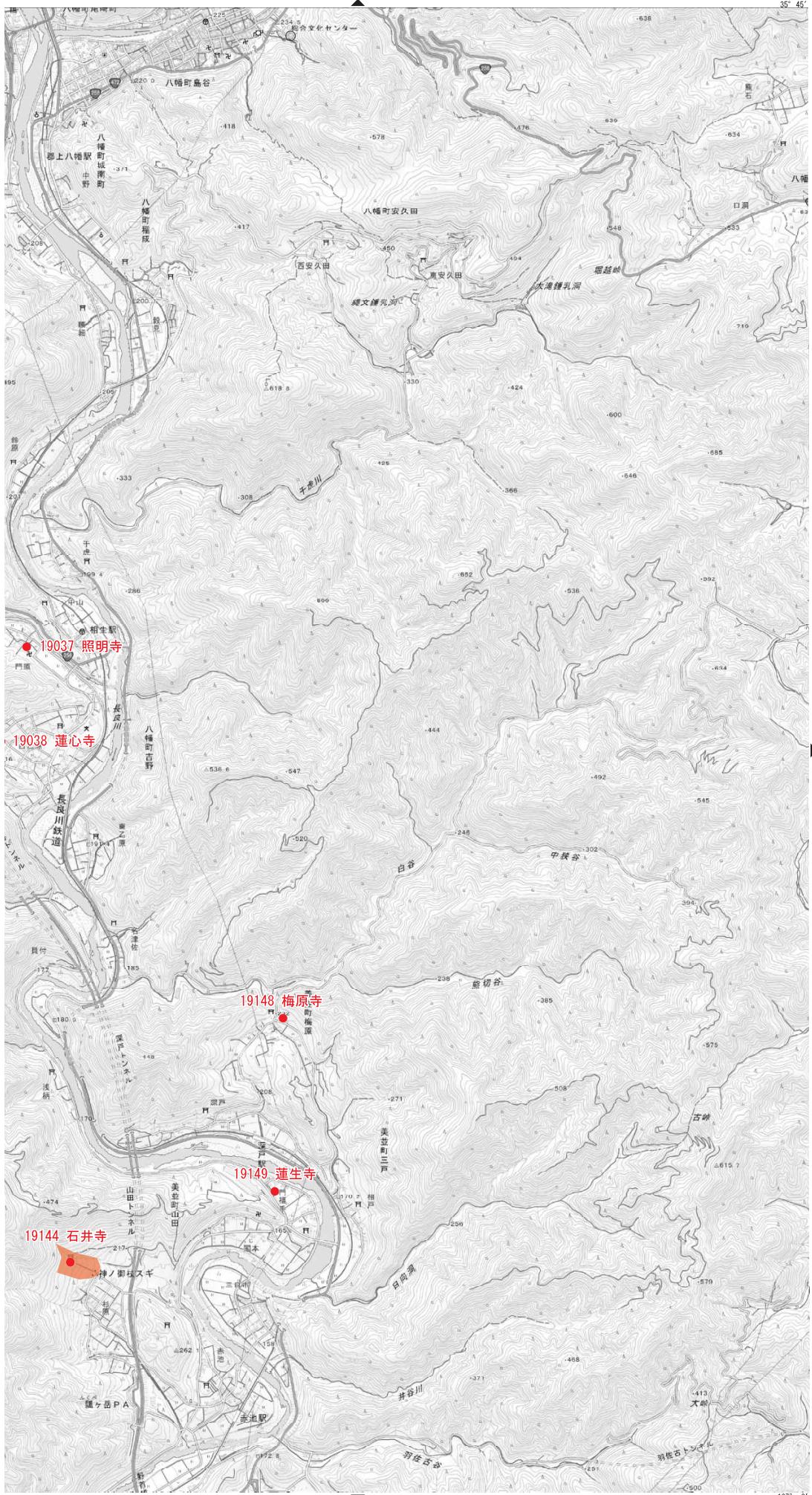
136° 52' 30.00"
35° 40' 0.00"

K6

J6 郡上八幡 171

郡上市

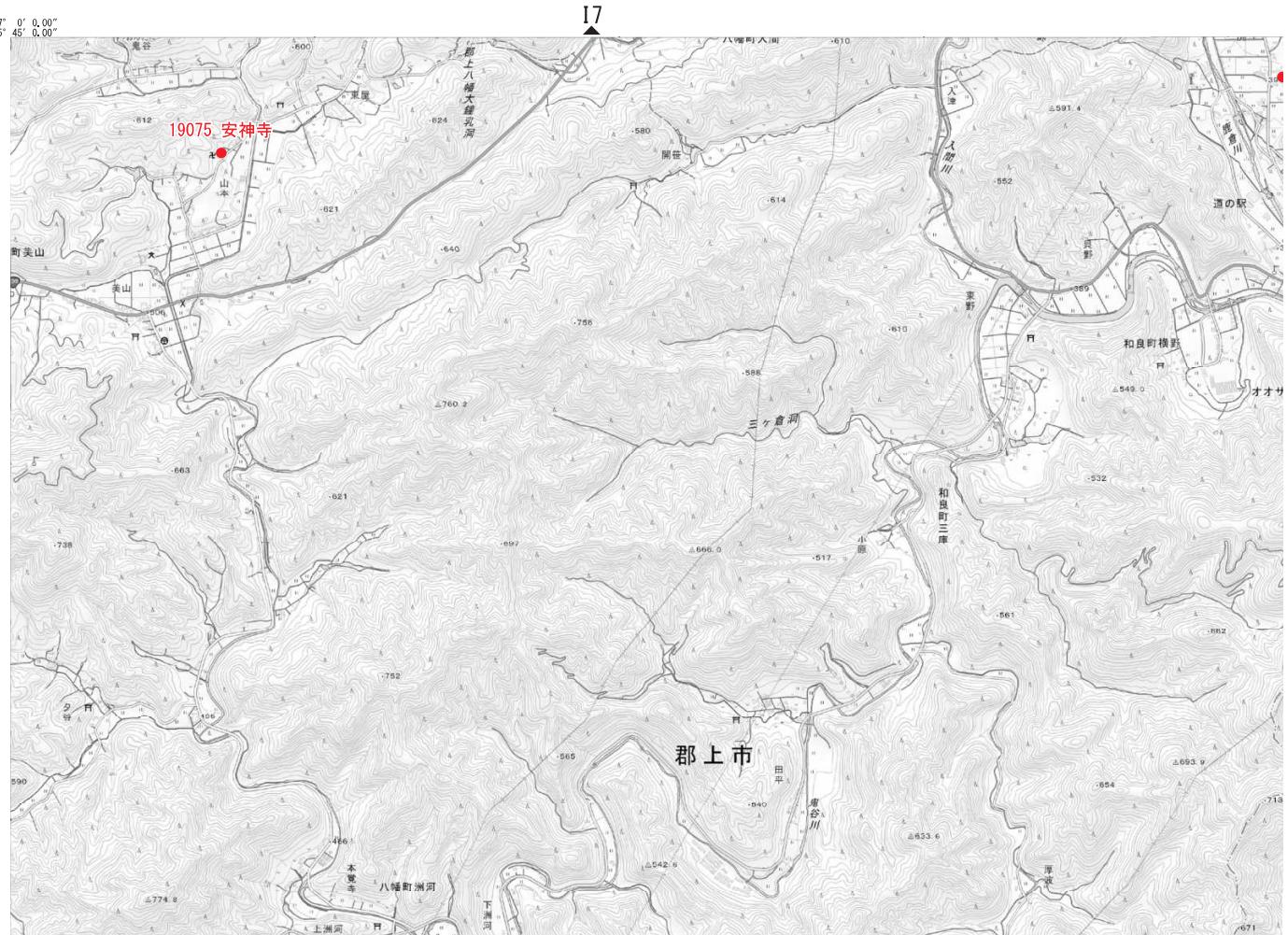
- 19037 照明寺
 19038 蓮心寺
 19043 真行寺
 19044 福常寺
 19109 巍屋本宮（那比本宮遺跡）
 19114 粥川寺
 19144 石井寺
 19148 梅原寺
 19149 蓮生寺
 19153 巍屋新宮寺



I5 門原	I6 徳永	I7 郡上市島
J5 上ヶ瀬	J6 郡上八幡	J7 沢
K5 洞戸	K6 莉安	K7 上之保

137° 0' 0.00"
35° 45' 0.00"

172



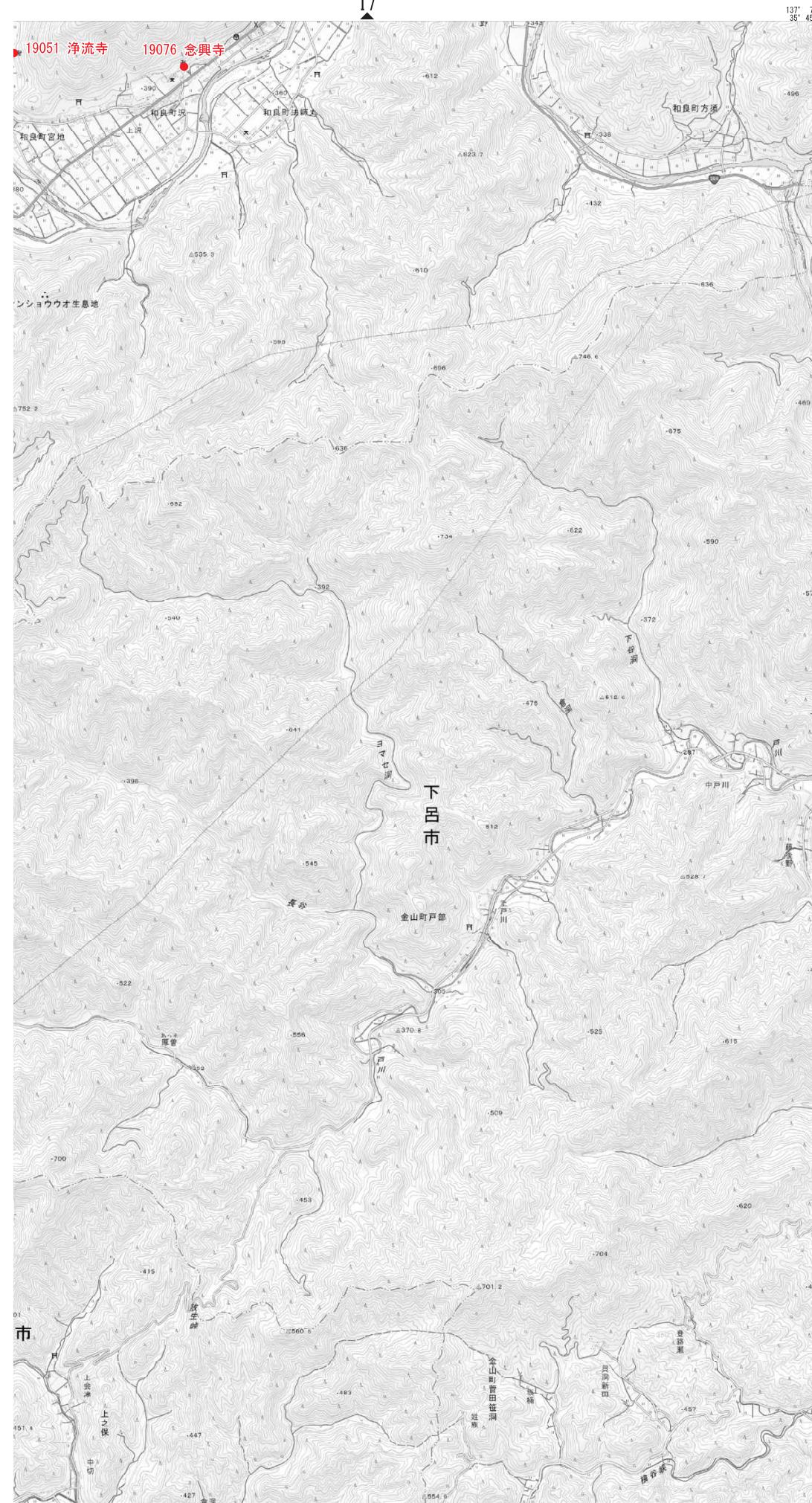
J6



137° 0' 0.00"
35° 40' 0.00"

K7

19051 浄流寺 19076 念興寺



J7 泽

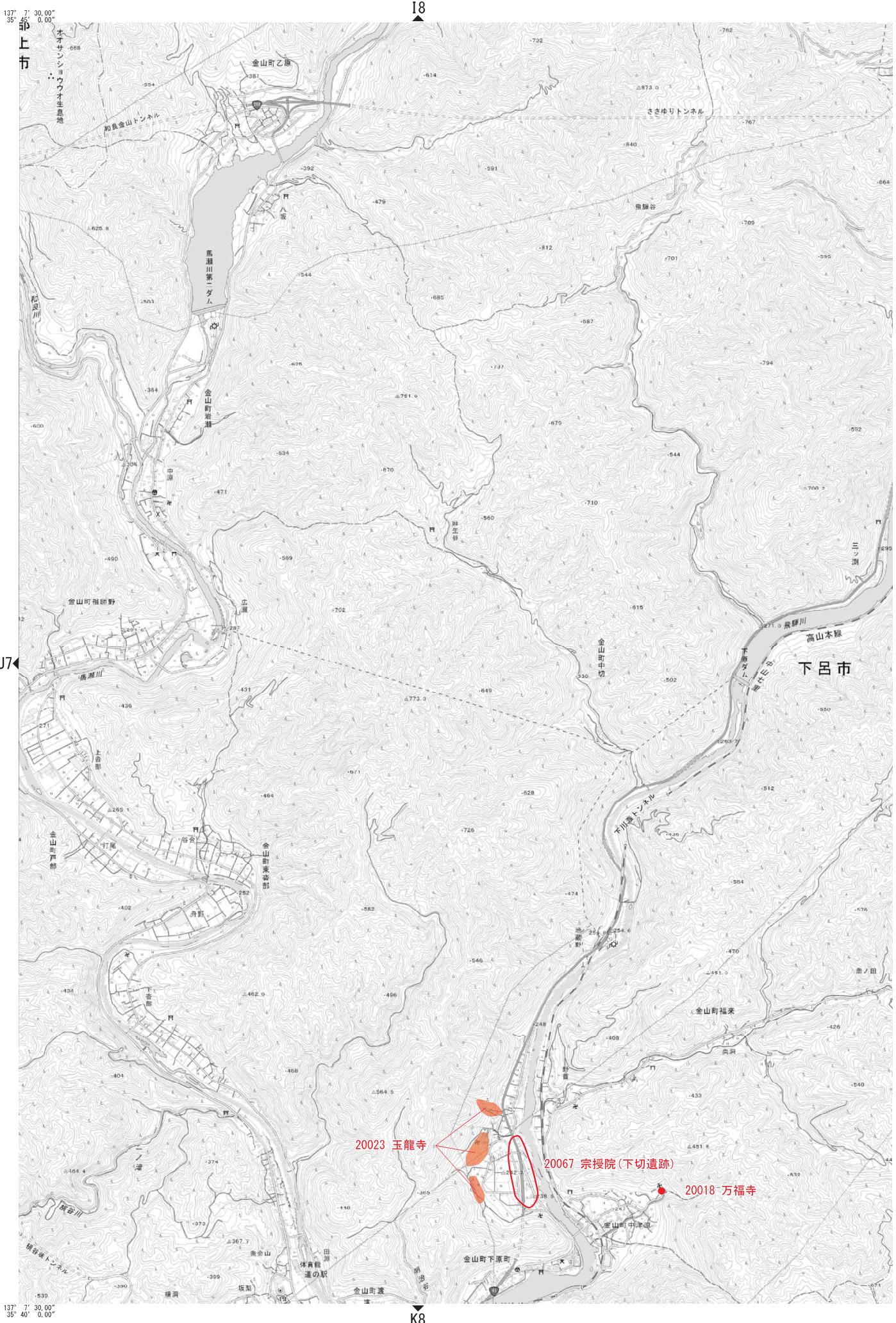
郡上市

19051 浄流寺

19075 安神寺

19076 念興寺

I6 德永	I7 郡上市島	I8 下呂
J6 郡上八幡	J7 泽	J8 烧石
K6 莖安	K7 上之保	K8 金山



J8 烧石

下呂市

20022b 東泉寺

- 20018 万福寺
20022b 東泉寺
20023 玉龍寺
20067 宗授院(下切遺跡)

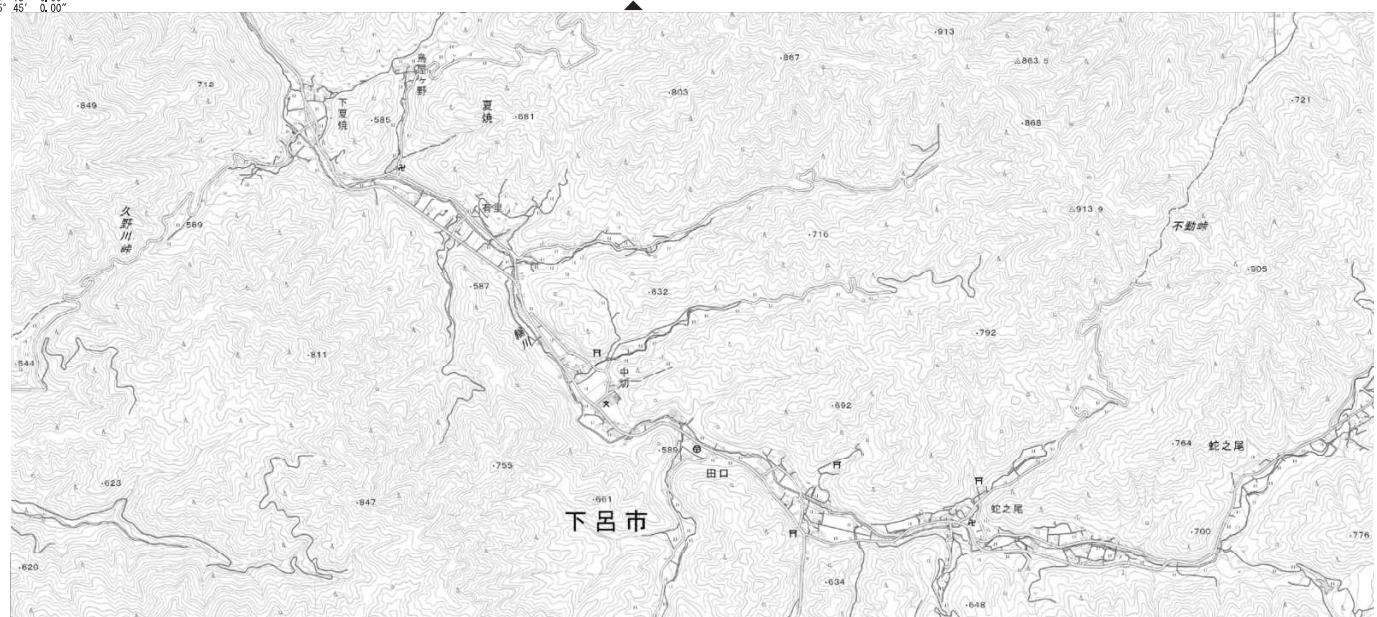
J9

I7 郡上市島	I8 下呂	I9 宮地
J7 沢	J8 烧石	J9 小和知
K7 上之保	K8 金山	K9 神土

137° 15' 0.00"
35° 45' 0.00"

176

I9



J8

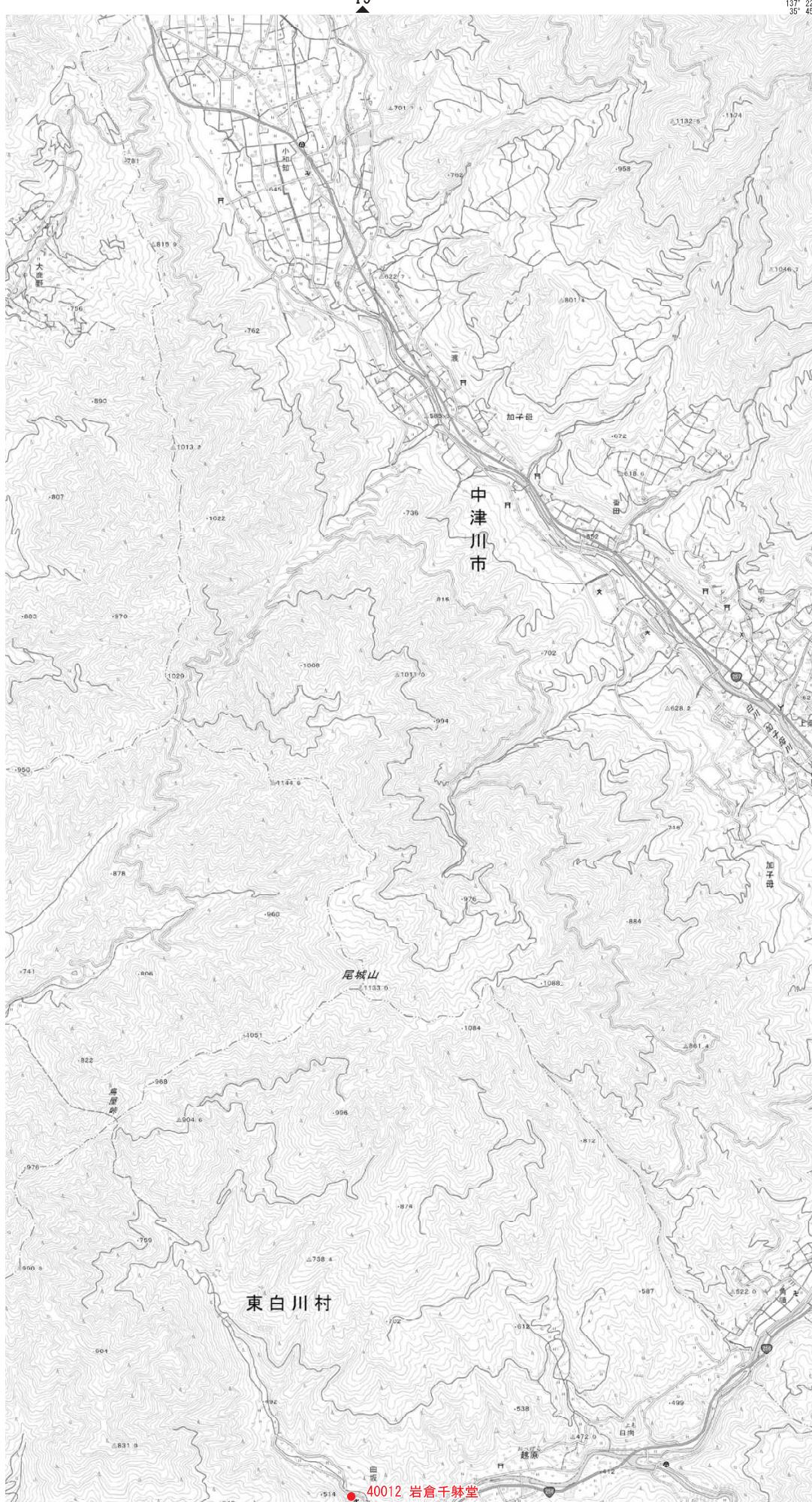


137° 15' 0.00"
35° 40' 0.00"

K9

東白川村

40012 岩倉千駄堂



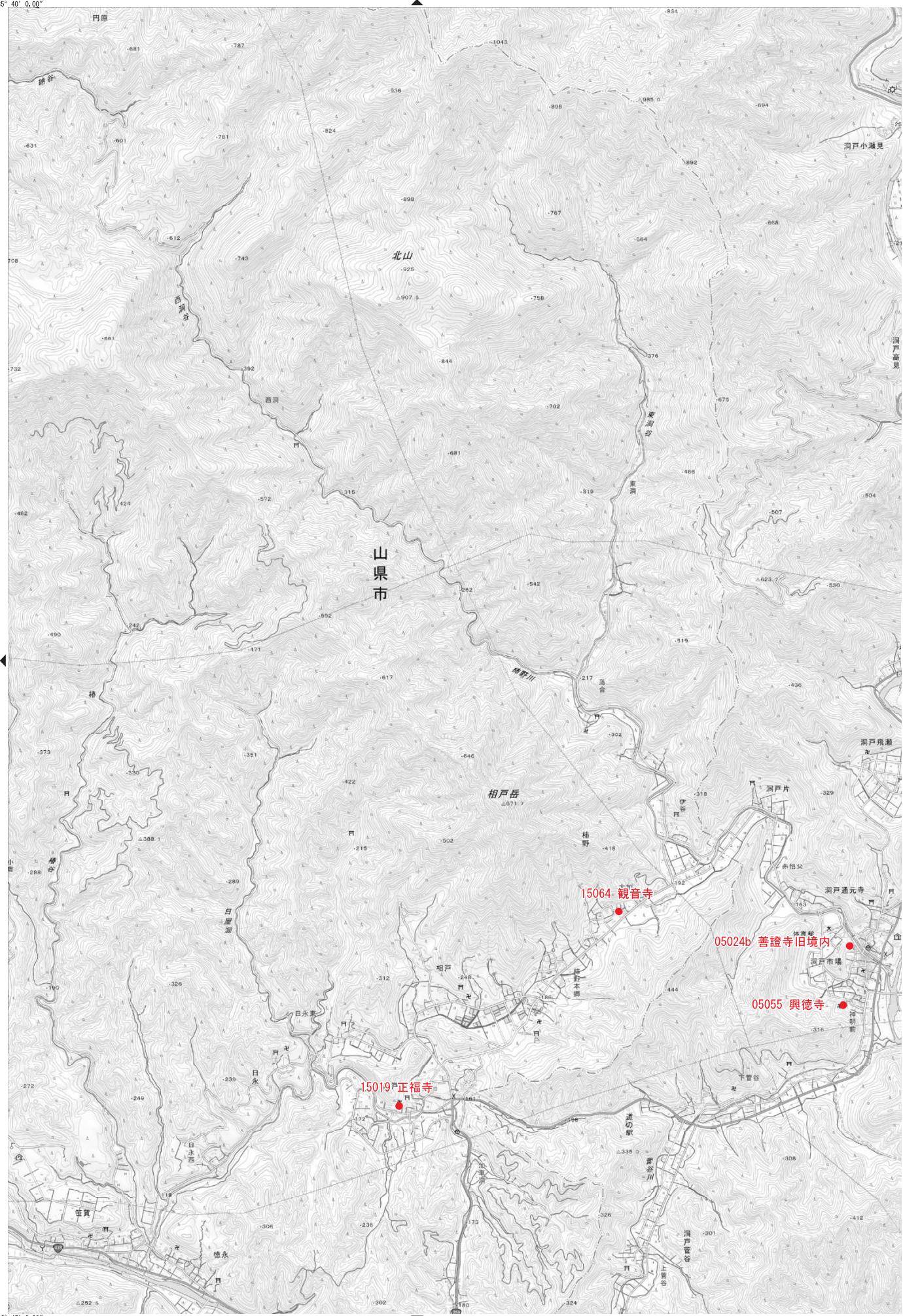
J10

I8 下呂	I9 宮地	I10 滝越
J8 烧石	J9 小和知	J10 加子母
K8 金山	K9 神土	K10 付知

136° 45' 0.00"
35° 35' 0.00"

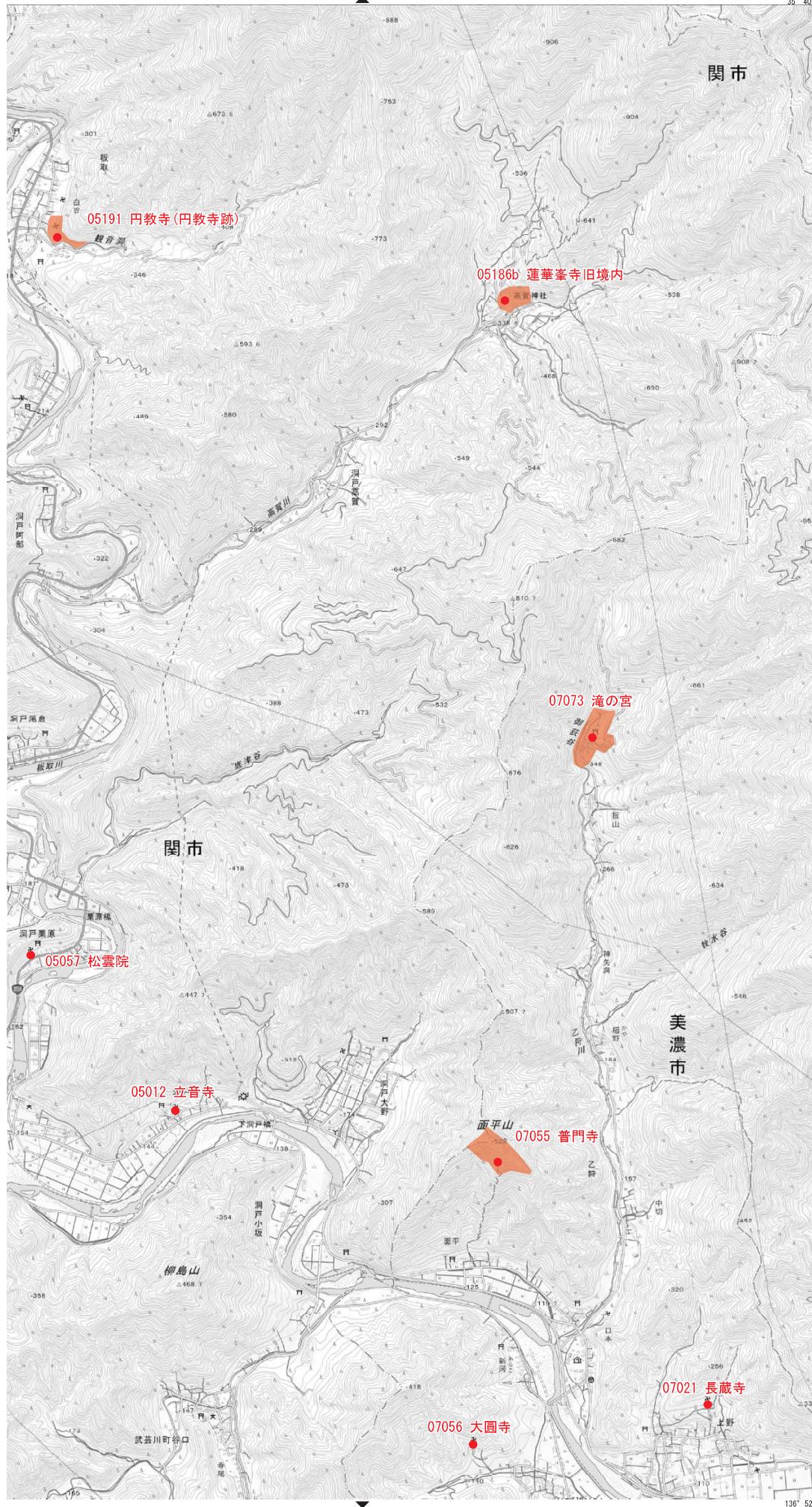
178

J5



136° 45' 0.00"
35° 35' 0.00"

K5 洞戸



関市

- 05012 立音寺
05024b 善證寺旧境内
05055 興徳寺
05057 松雲院
05186b 蓮華峯寺旧境内
05191 円教寺 (円教寺跡)

美濃市

- 07021 長蔵寺
07055 普門寺
07056 大圓寺
07073 滝の宮

山県市

- 15019 正福寺
15064 観音寺

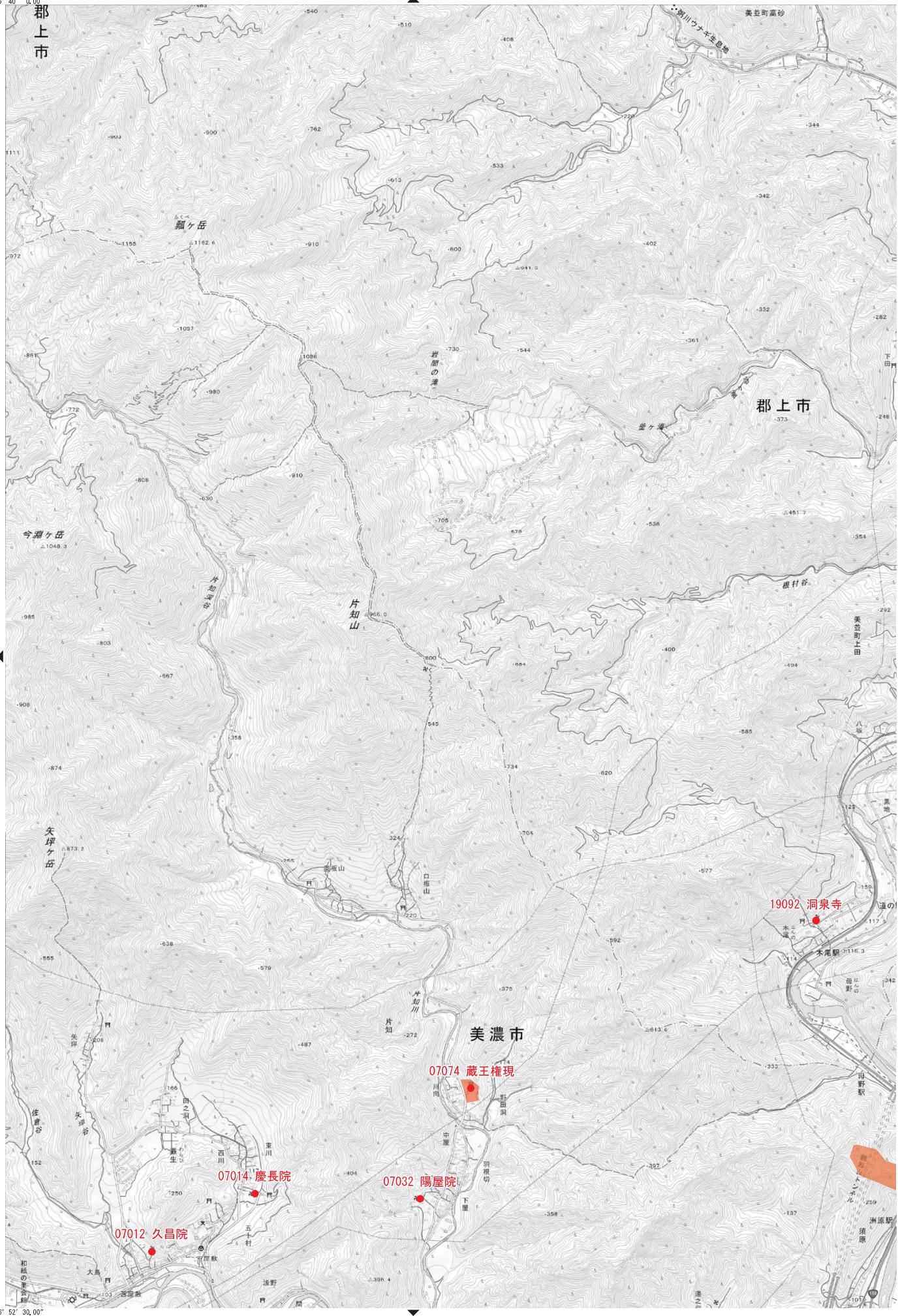
►K6

J4 下大須	J5 上ヶ瀬	J6 郡上八幡
K4 谷合	K5 洞戸	K6 茹安
L4 美濃神海	L5 岩佐	L6 美濃

136° 52' 30.00"
35° 40' 0.00"

180

J6



136° 52' 30.00"
35° 35' 0.00"

L6

K6 莖安

美濃市

- 07012 久昌院
07013 龍泉寺
07014 慶長院
07032 陽屋院
07043 靈泉寺
07072 洲原白山権現
07074 戒王権現

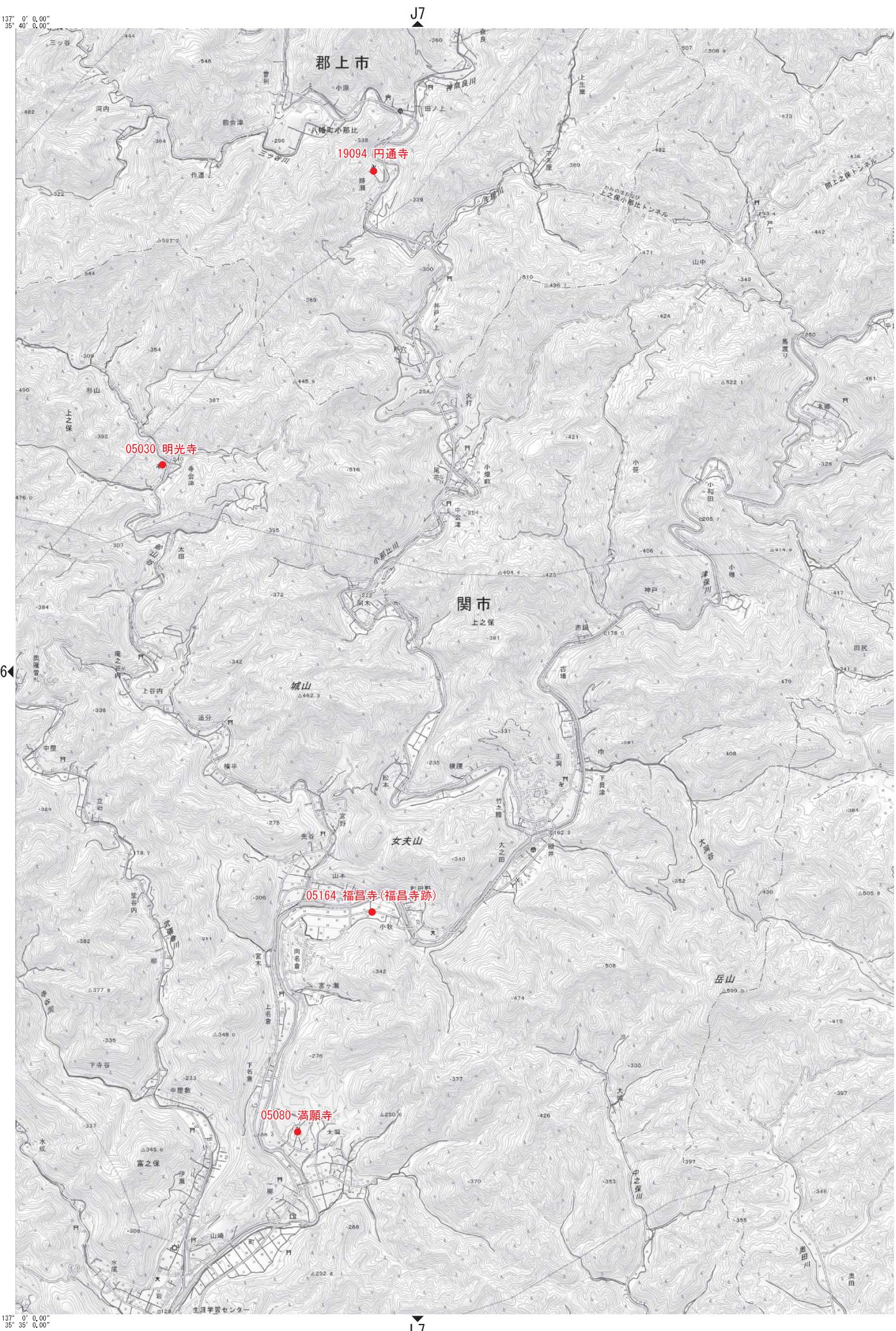
郡上市

- 19033 専念寺
19070 乗性寺
19092 洞泉寺
19093 林廣院
19096 桂昌寺
19097 北辰寺
19128 東光密寺(東光寺跡)

K7

- 19033 専念寺
19093 林廣院
19070 乗性寺
19097 北辰寺
19096 桂昌寺
19128 東光密寺(東光寺跡)
07043 靈泉寺
07072 洲原白山権現
07013 龍泉寺

J5 上ヶ瀬	J6 郡上八幡	J7 沢
K5 洞戸	K6 莖安	K7 上之保
L5 岩佐	L6 美濃	L7 上麻生



K7 上之保

関市

05030 明光寺
05080 満願寺
05164 福昌寺(福昌寺跡)

郡上市

19094 円通寺

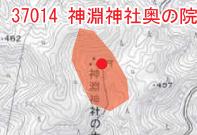
七宗町

37010 慈恩院
37014 神淵神社奥の院

►K8

37010 慈恩院

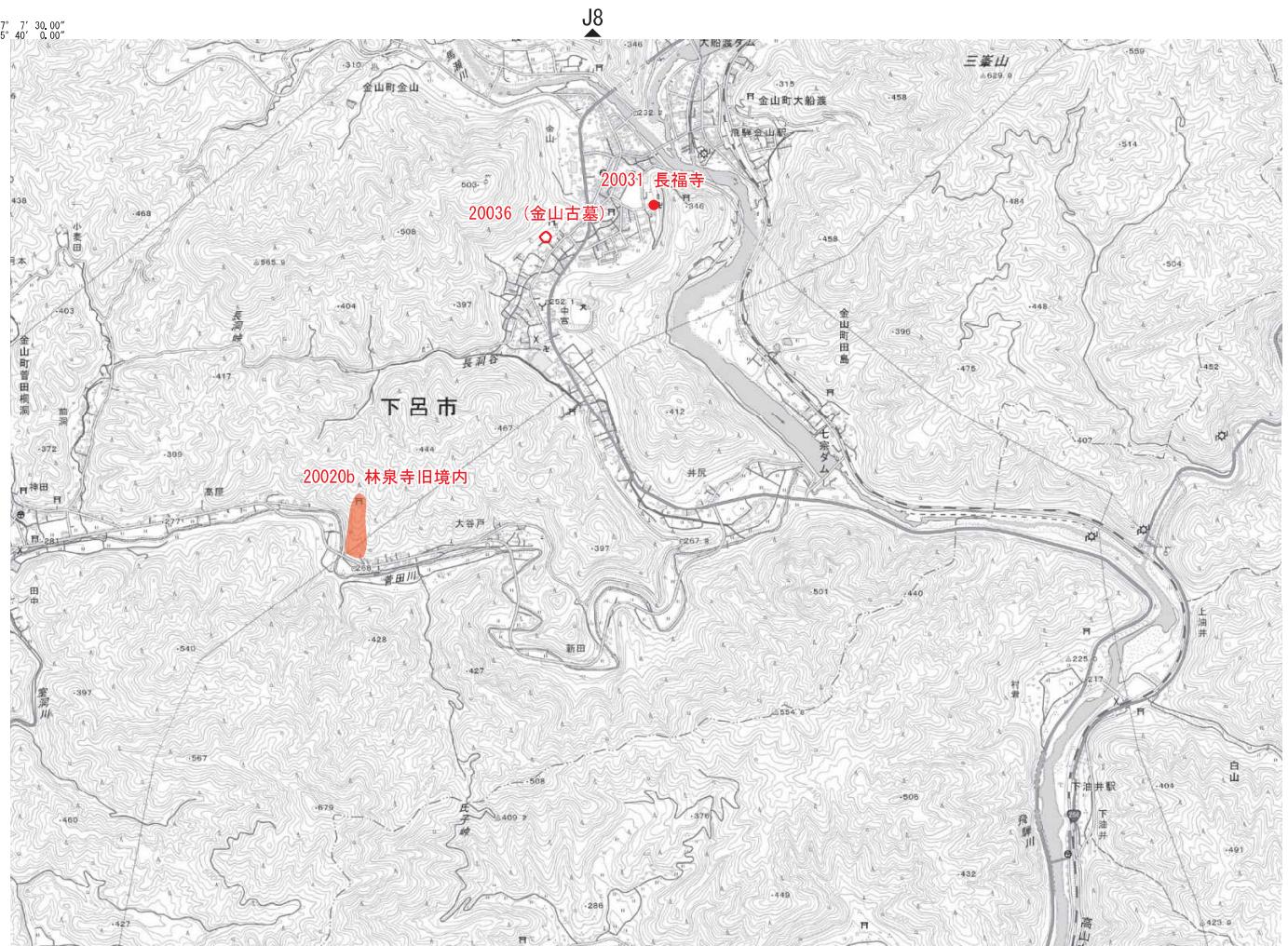
37014 神淵神社奥の院



J6 郡上八幡	J7 沢	J8 焼石
K6 荊安	K7 上之保	K8 金山
L6 美濃	L7 上麻生	L8 河岐

137° 7' 30.00"
35° 40' 0.00"

184



K7



137° 7' 30.00"
35° 35' 0.00"

L8

K8 金山

下呂市

20020b 林泉寺旧境内
20031 長福寺
20036 (金山古墓)

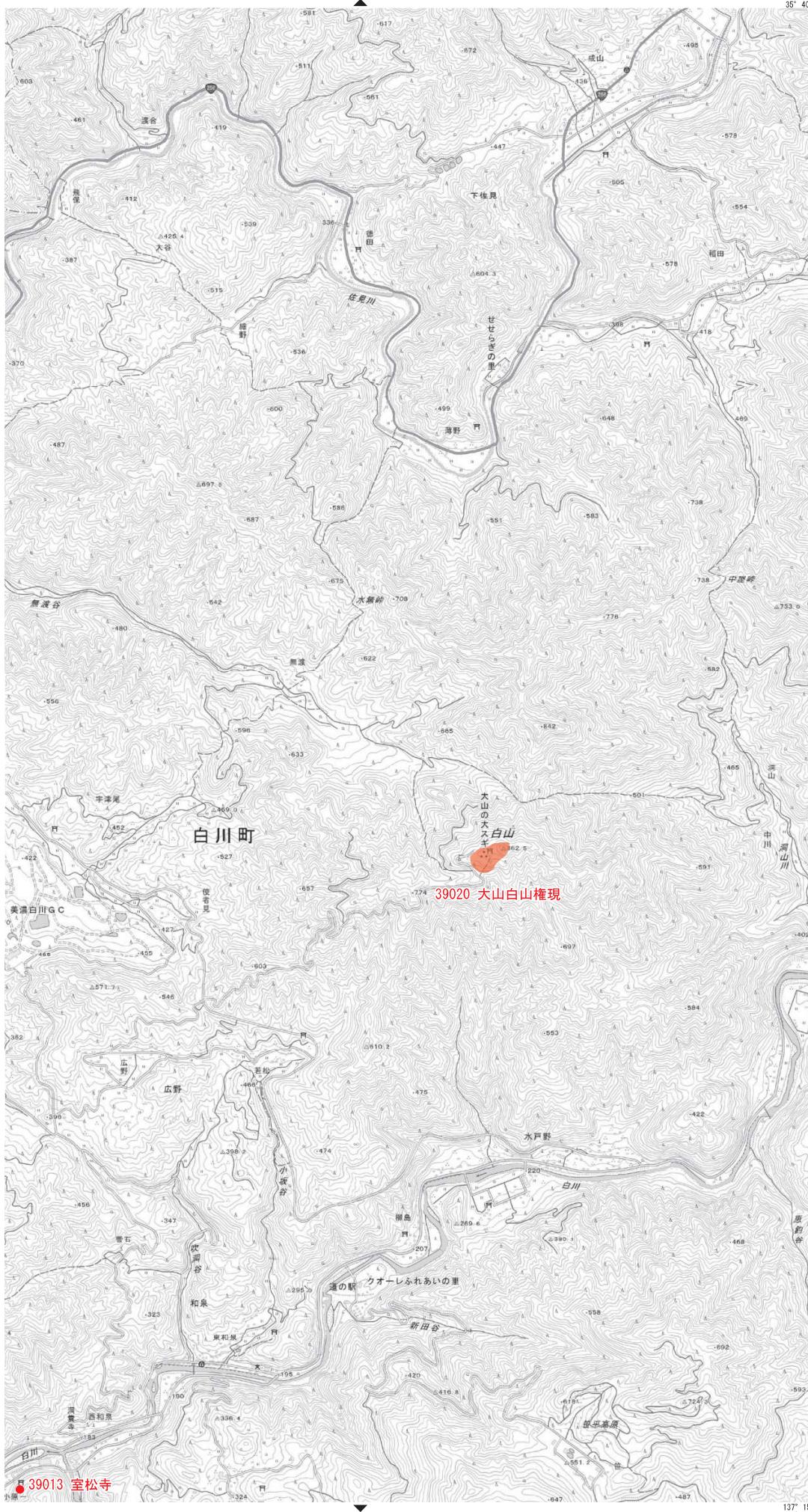
白川町

39005b 洞雲寺旧境内(田代洞雲寺跡)
39013 室松寺
39020 大山白山権現

►K9

39020 大山白山権現

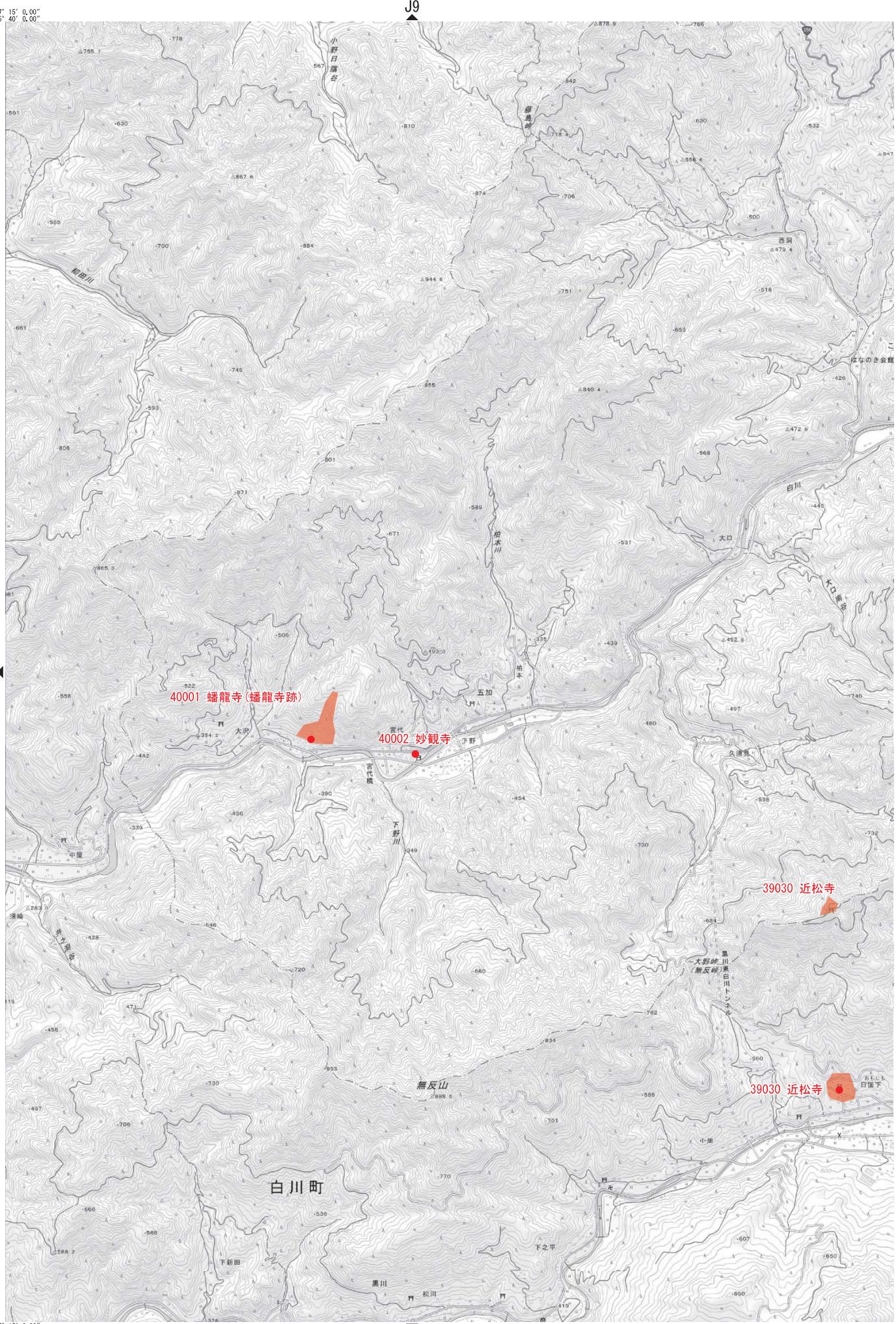
白川町



J7 沢	J8 焼石	J9 小和知
K7 上之保	K8 金山	K9 神土
L7 上麻生	L8 河岐	L9 切井

137° 15' 0.00"
35° 40' 0.00"

186



137° 15' 0.00"
35° 35' 0.00"

J9
L9

J9

137° 22' 30.00"
35° 40' 00.00"

K9 神土

187

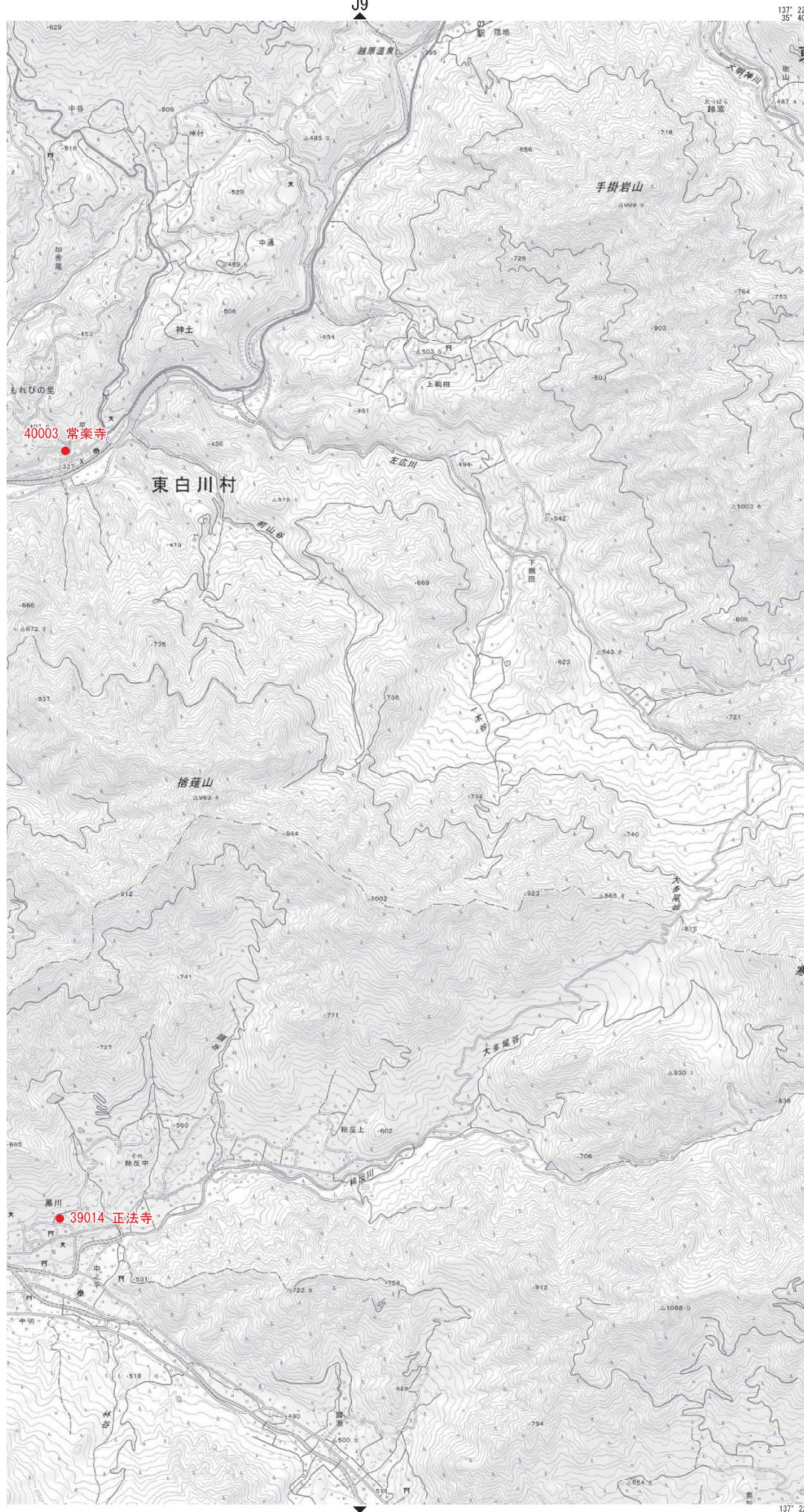
白川町

39014 正法寺
39030 近松寺

東白川村

40001 蟠龍寺(蟠龍寺跡)
40002 妙観寺
40003 常楽寺

K10

137° 22' 30.00"
35° 35' 00.00"

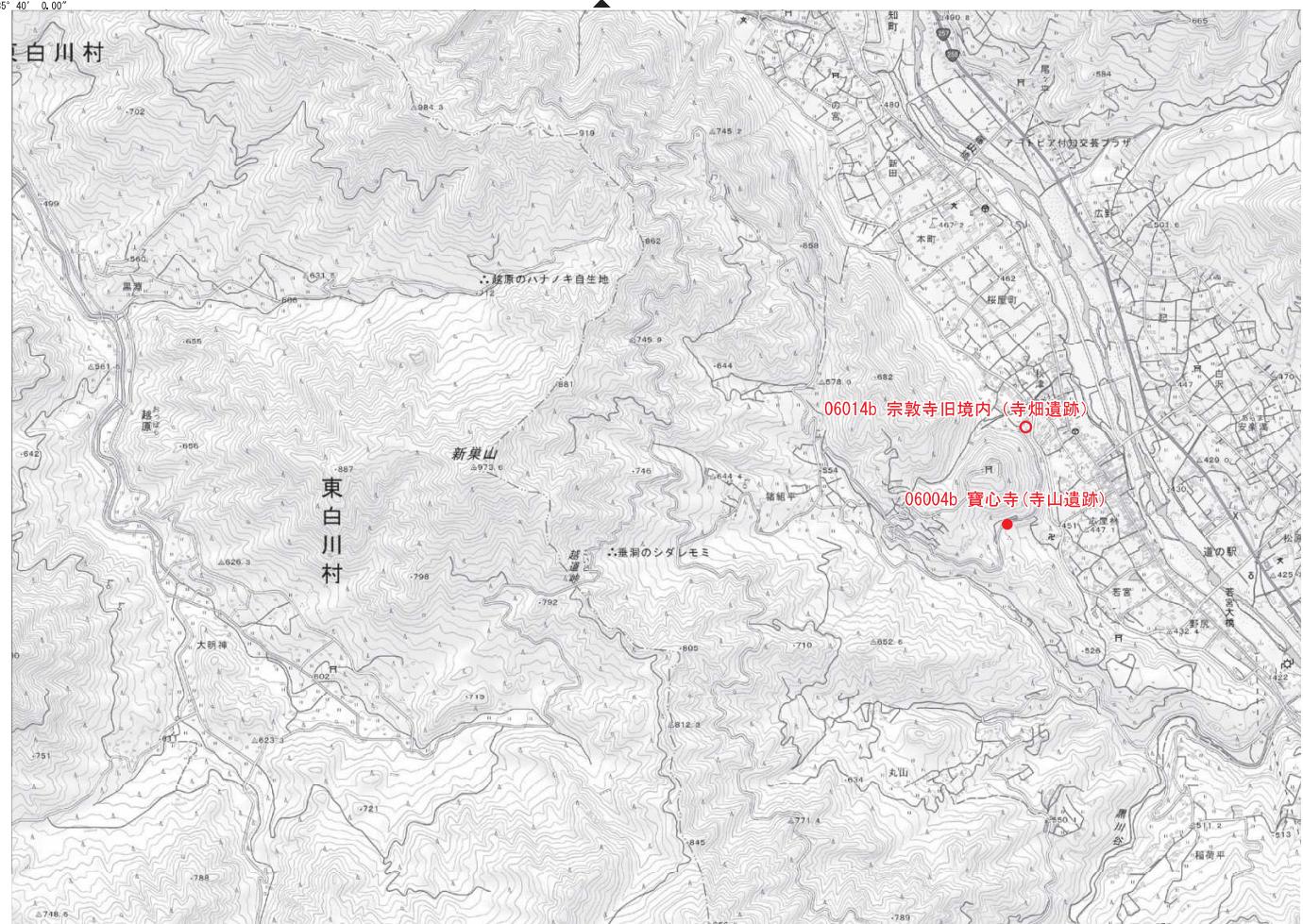
L9

J8 烧石	J9 小和知	J10 加子母
K8 金山	K9 神土	K10 付知
L8 河岐	L9 切井	L10 美浓福岡

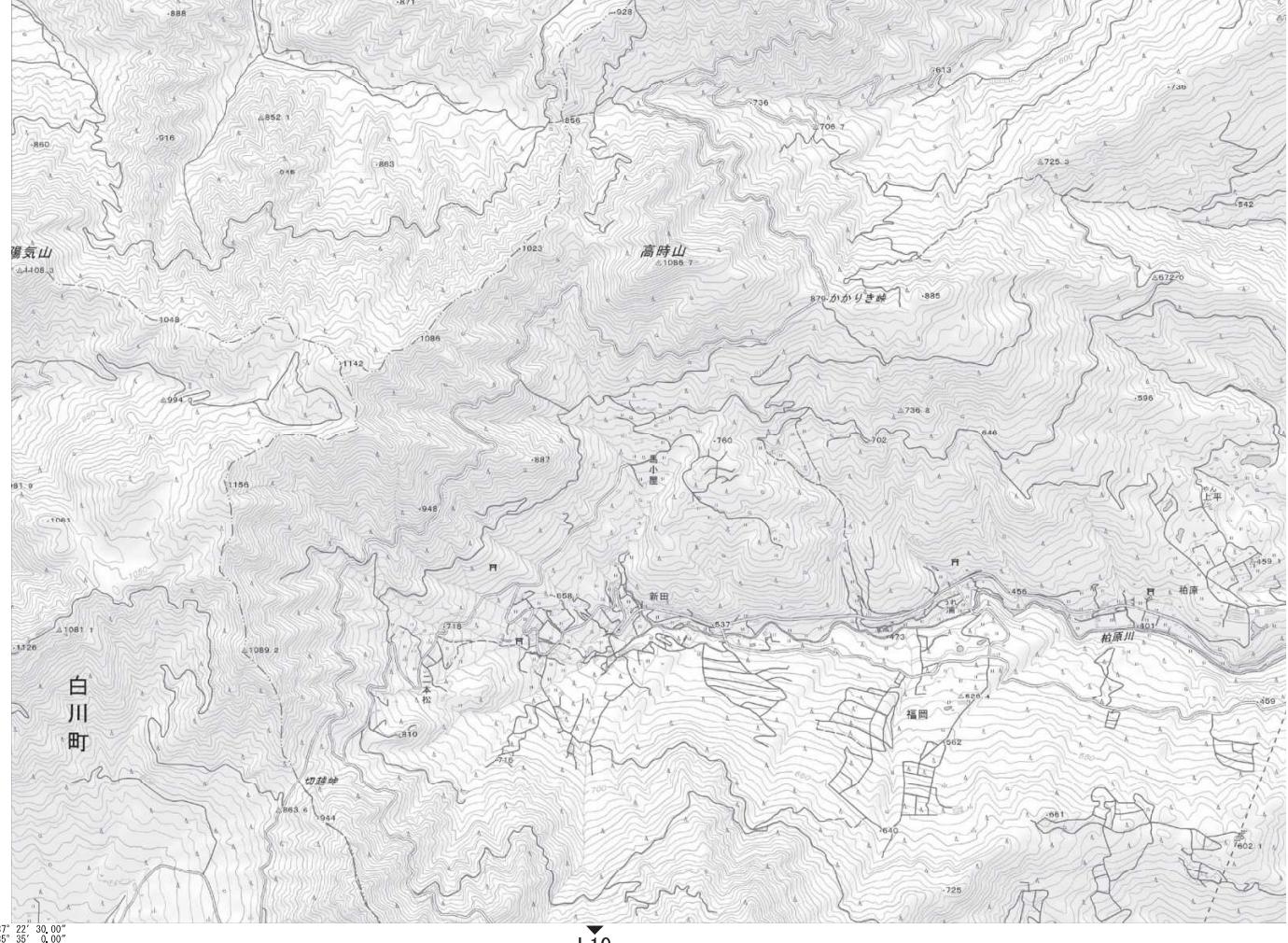
137° 22' 30.00"
35° 40' 0.00"

188

J10



K9



137° 22' 30.00"
35° 35' 0.00"

L10

J10

137° 30' 0.00"
35° 40' 0.00"

K10 付知

189

中津川市

- 06004b 寶心寺(寺山遺跡)
 06014b 宗敦寺旧境内(寺畠遺跡)
 06109 下野庚申堂

中津川市

K11

06109 下野庚申堂

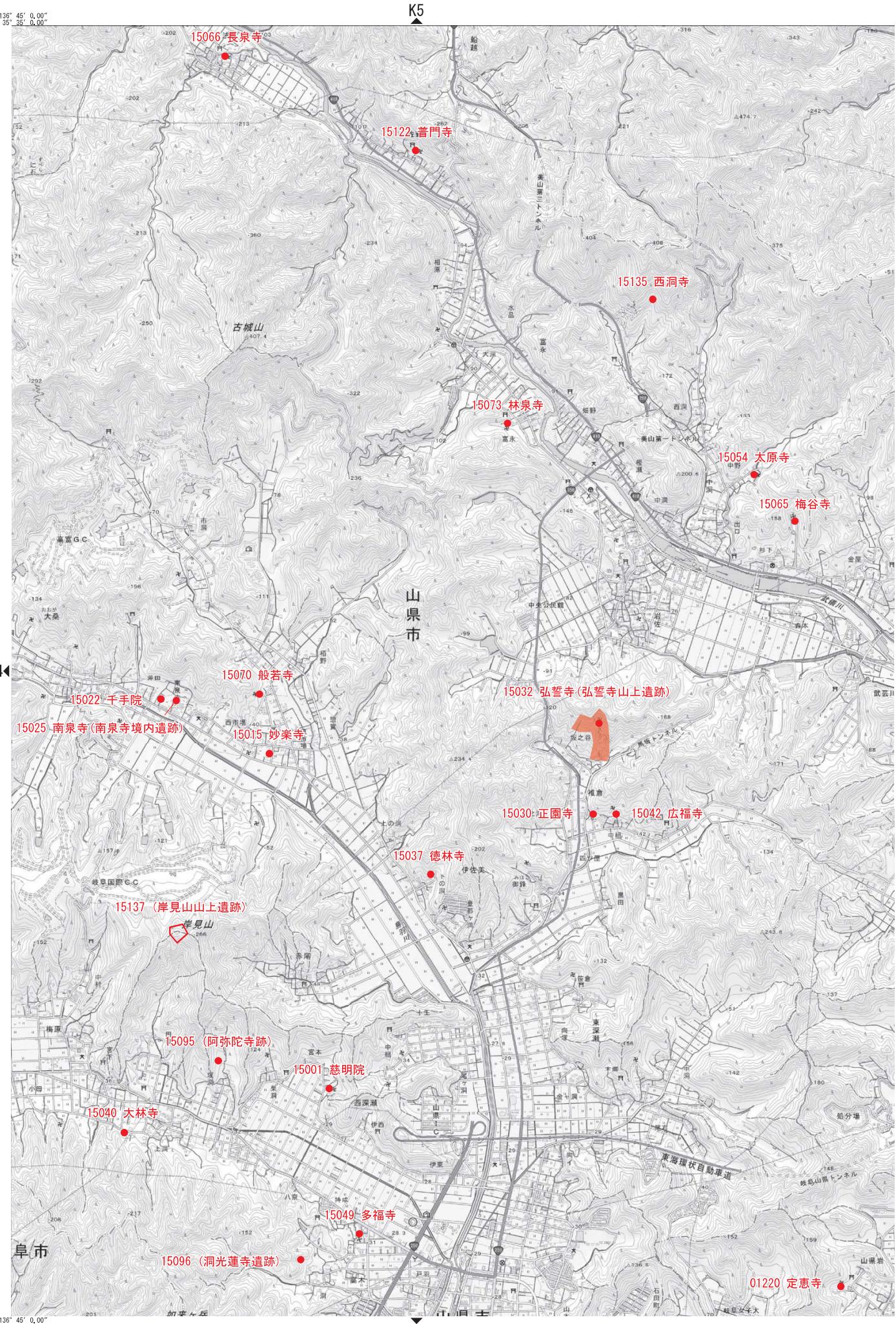
L10

137° 30' 0.00"
35° 35' 0.00"

J9 小和知	J10 加子母	J11 奥三界岳
K9 神土	K10 付知	K11 三留野
L9 切井	L10 美濃福岡	L11 妻籠

136° 45' 0.00"
35° 35' 0.00"

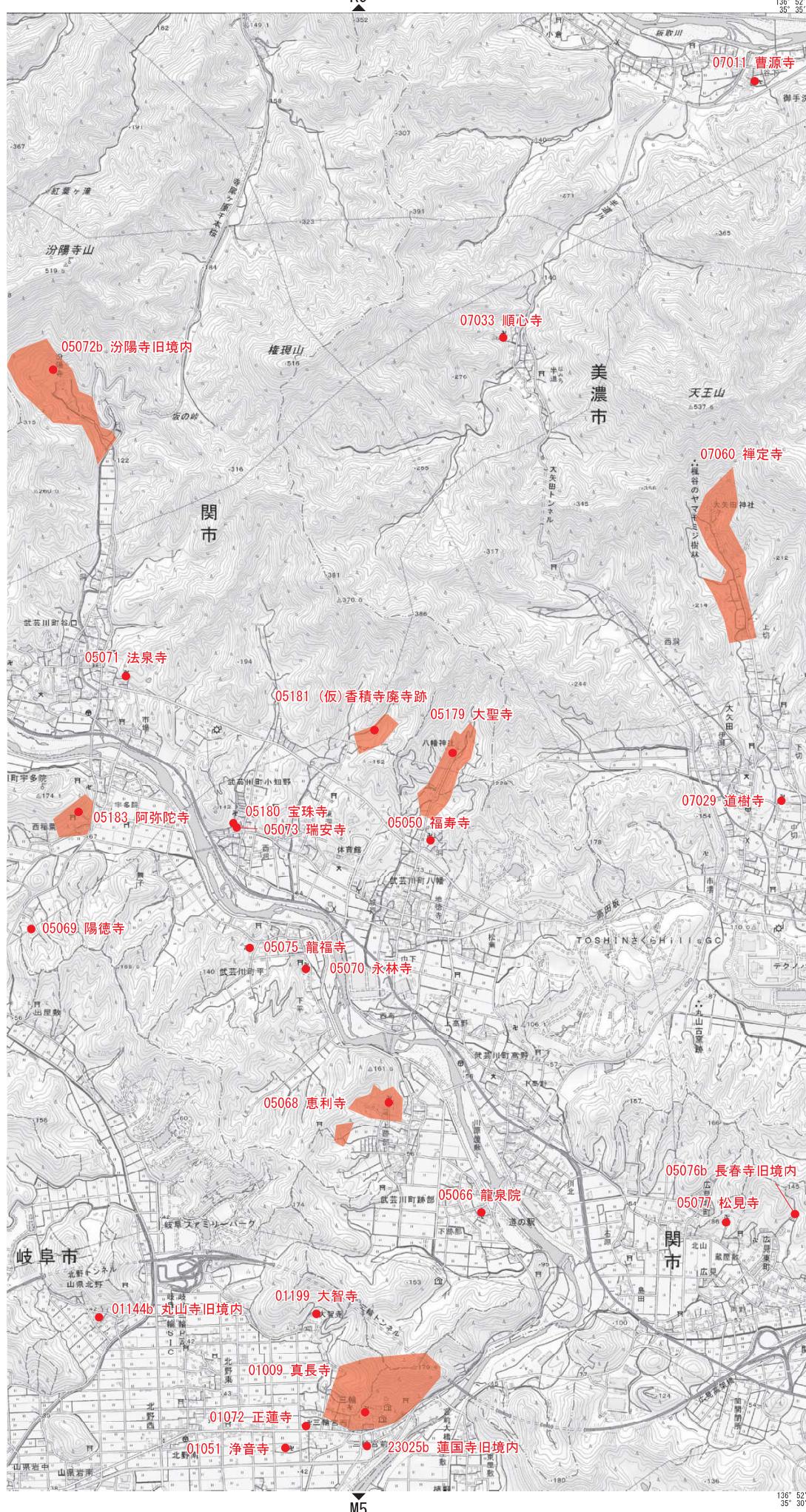
190



136° 45' 0.00"
35° 35' 0.00"

K5
M5

L5 岩佐



岐阜市

- 01009 真長寺
- 01051 净音寺
- 01072 正蓮寺
- 01144b 丸山寺旧境内
- 01199 大智寺
- 01220 定惠寺

関市

- 05050 福寿寺
- 05066 龍泉院
- 05068 惠利寺
- 05069 陽德寺
- 05070 永林寺
- 05071 法泉寺
- 05072b 汾陽寺旧境内
- 05073 瑞安寺
- 05075 龍福寺
- 05076b 長春寺旧境内
- 05077 松見寺
- 05179 大聖寺
- 05180 宝珠寺
- 05181 (仮)香積寺廃寺跡
- 05183 阿弥陀寺
- 05069 陽德寺
- 05075 龍福寺
- 05070 永林寺
- 05068 惠利寺
- 05066 龍泉院
- 05076b 長春寺旧境内
- 05077 松見寺
- 05179 大聖寺
- 05180 宝珠寺
- 05181 (仮)香積寺廃寺跡
- 05183 阿弥陀寺

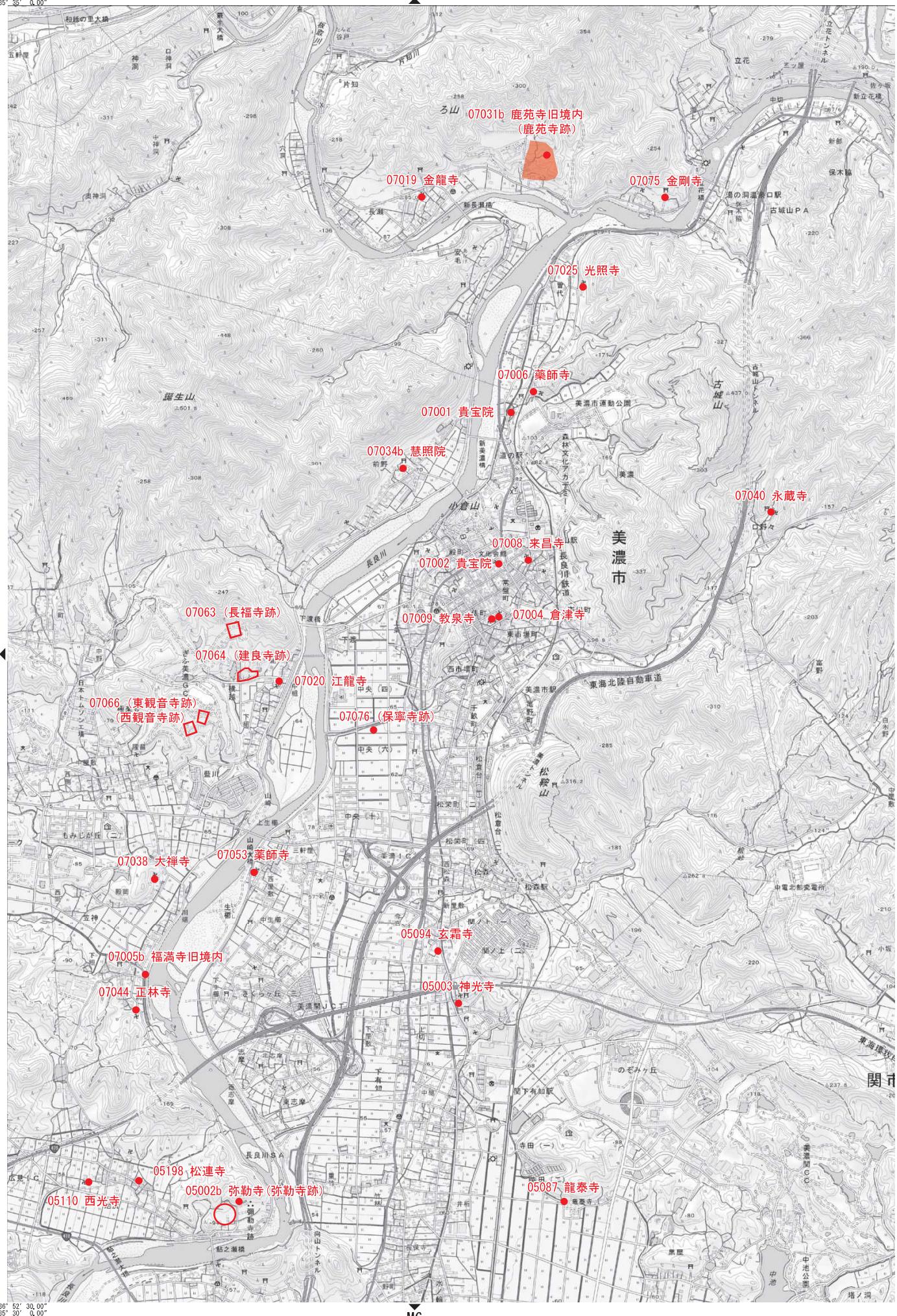
美濃市

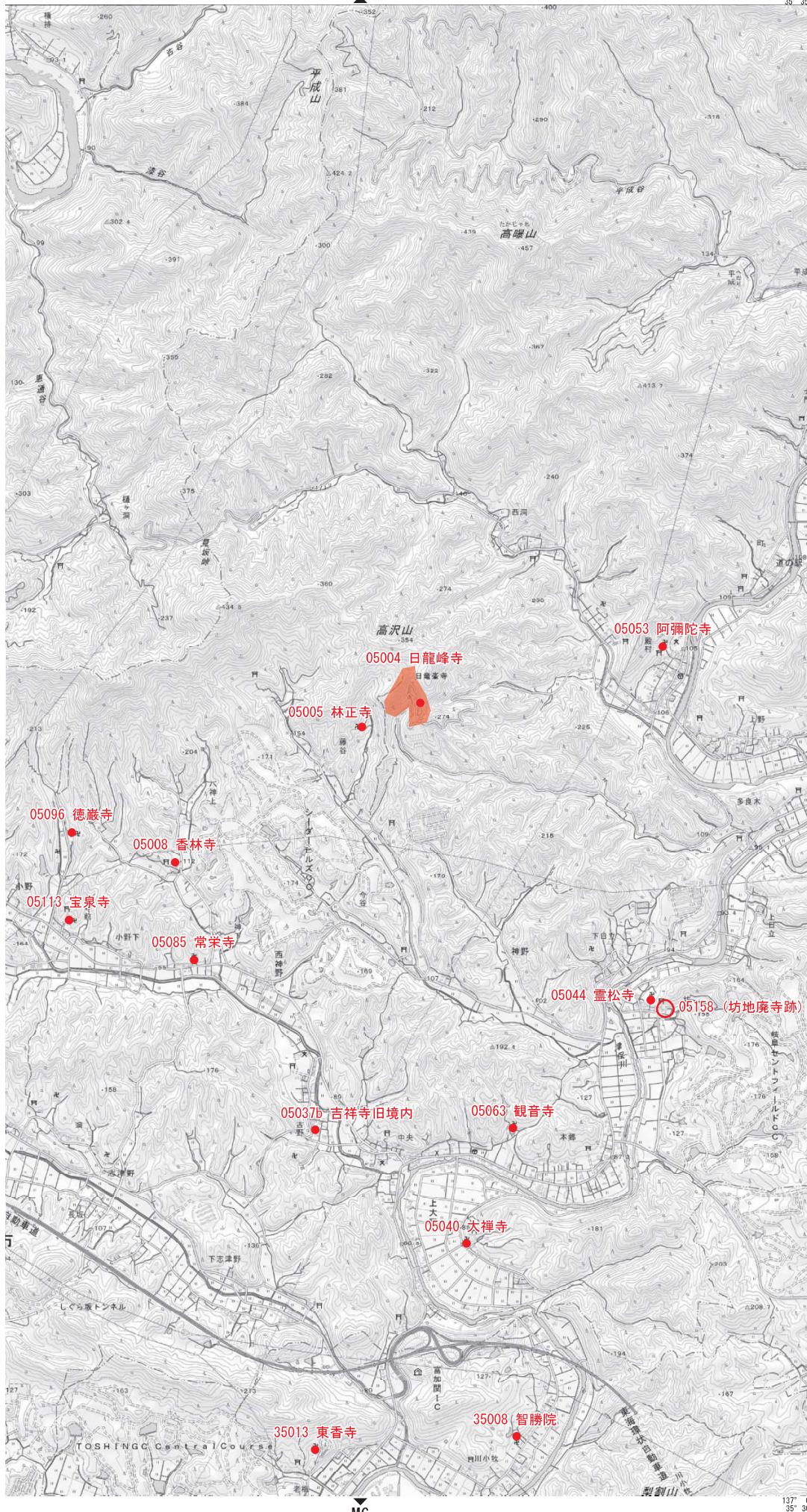
- 07011 曹源寺
- 07029 道樹寺
- 07033 順心寺
- 07060 禪定寺

山県市

- 15001 慈明院
- 15015 妙樂寺
- 15022 千手院
- 15025 南泉寺 (南泉寺境内遺跡)
- 15030 正園寺
- 15032 弘誓寺 (弘誓寺山上遺跡)
- 15037 德林寺
- 15040 大林寺
- 15042 広福寺
- 15049 多福寺
- 15054 太原寺
- 15065 梅谷寺
- 15066 長泉寺
- 15070 般若寺
- 15073 林泉寺
- 15095 (阿弥陀寺跡)
- 15096 (洞光蓮寺遺跡)
- 15122 普門寺
- 15135 西洞寺
- 15137 (岸見山山上遺跡)

K4 谷合	K5 洞戸	K6 茹安
L4 美濃神海	L5 岩佐	L6 美濃
M4 北方	M5 岐阜北部	M6 美濃関





関市

- 05002b 弥勒寺 (弥勒寺跡)
 05003 神光寺
 05004 日龍峰寺
 05005 林正寺
 05008 香林寺
 05037b 吉祥寺旧境内
 05040 大禪寺
 05044 靈松寺
 05053 阿彌陀寺
 05063 観音寺
 05085 常栄寺
 05087 龍泰寺
 05094 玄霜寺
 05096 德巌寺
 05110 西光寺
 05113 宝泉寺
 05158 (坊地廃寺跡)
 05198 松連寺

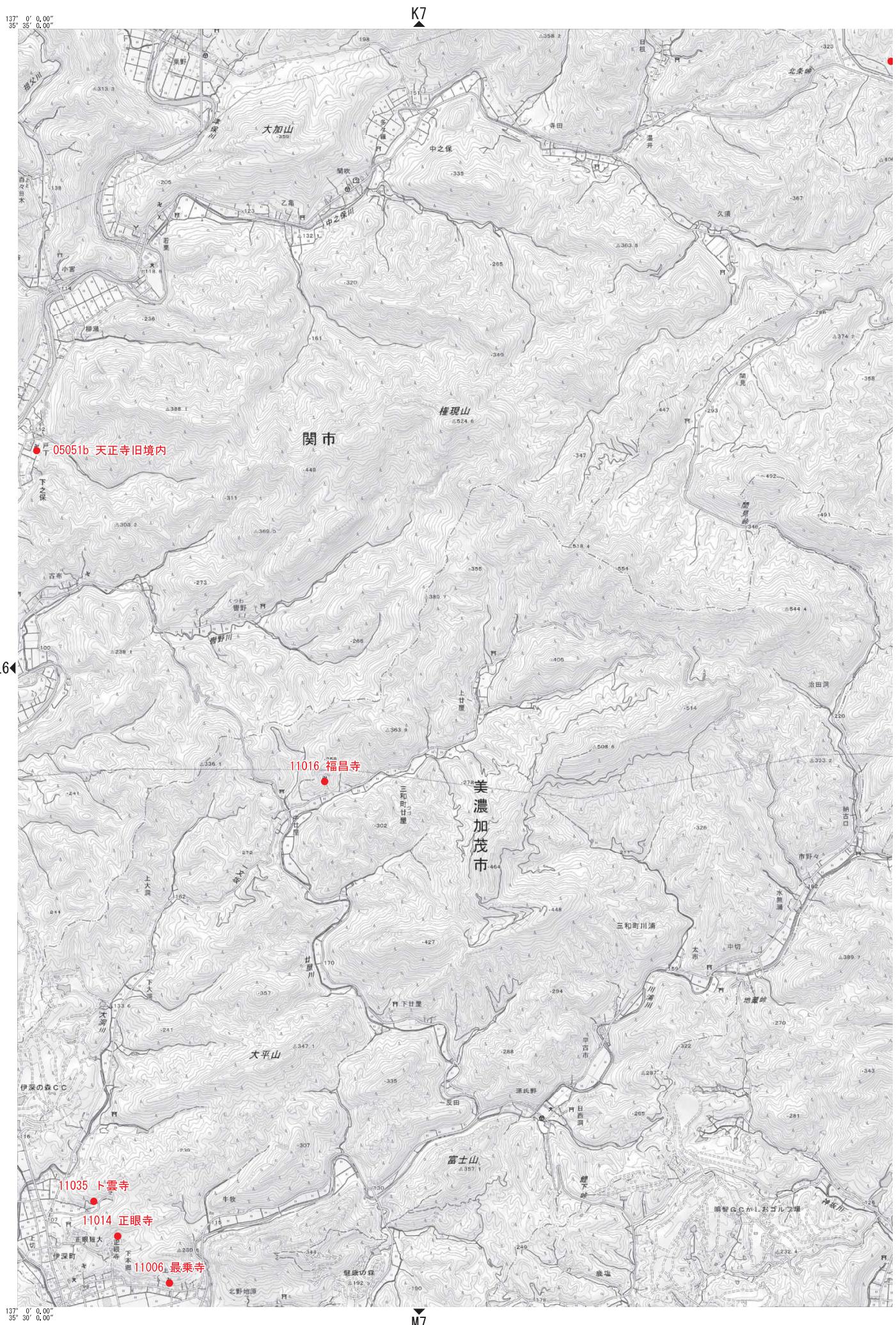
美濃市

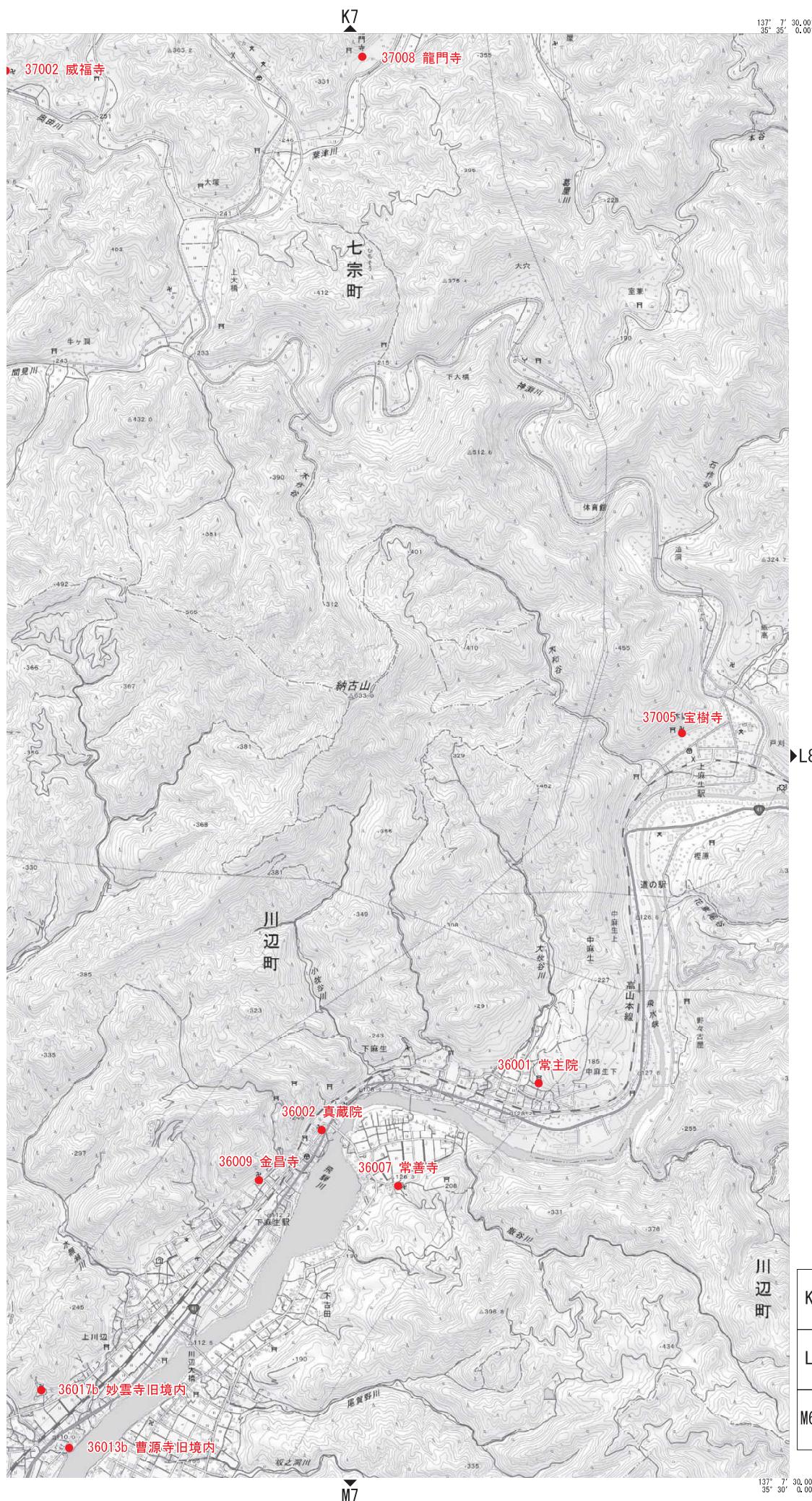
- 07001 貴宝院
 07002 貴宝院
 07004 倉津寺
 07005b 福満寺旧境内
 07006 薬師寺
 07008 来昌寺
 07009 教泉寺
 07019 金龍寺
 07020 江龍寺
 07025 光照寺
 07031b 鹿苑寺旧境内
 07034b 慧照院旧境内
 07038 大禪寺
 07040 永藏寺
 07044 正林寺
 07053 薬師寺
 07063 (長福寺跡)
 07064 (建良寺跡)
 07066 (東觀音寺跡)(西觀音寺跡)
 07075 金剛寺
 07076 (保寧寺跡)

富加町

- 35008 智勝院
 35013 東香寺

K5 洞戸	K6 茅安	K7 上之保
L5 岩佐	L6 美濃	L7 上麻生
M5 岐阜北部	M6 美濃関	M7 美濃加茂





L7 上麻生

195

閔市

05051b 天正寺旧境内

美濃加茂市

- 11006 最乗寺
- 11014 正眼寺
- 11016 福昌寺
- 11035 ト雲寺

川辺町

- 36001 常主院
- 36002 真藏院
- 36007 常善寺
- 36009 金昌寺
- 36013b 曹源寺旧境内
- 36017b 妙雲寺旧境内

七宗町

- 37002 咸福寺
- 37005 宝樹寺
- 37008 龍門寺

►L8

K6 莖安	K7 上之保	K8 金山
L6 美濃	L7 上麻生	L8 河岐
M6 美濃閔	M7 美濃加茂	M8 御嵩

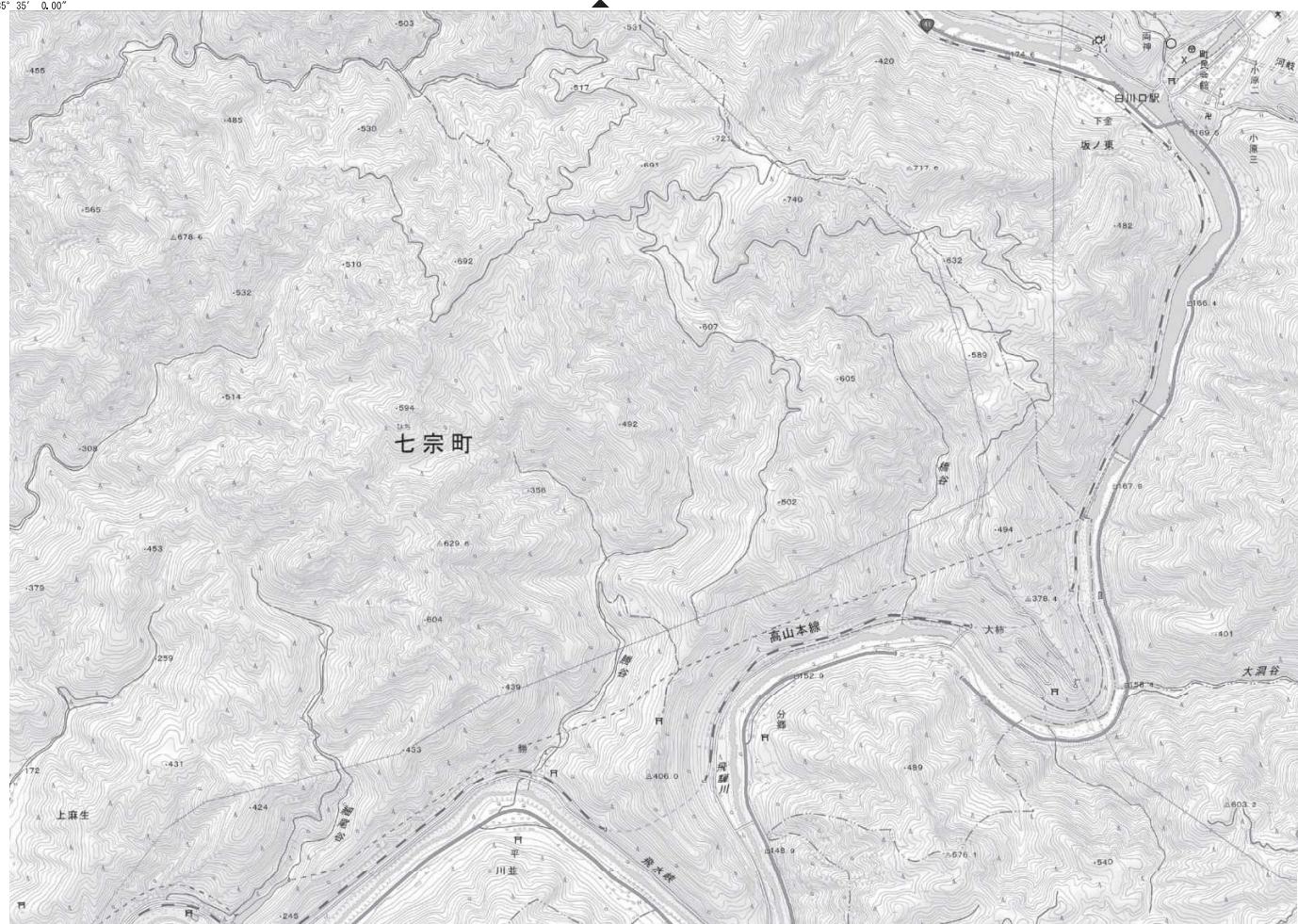
M7

137° 7' 30.00" E
35° 35' 0.00" N

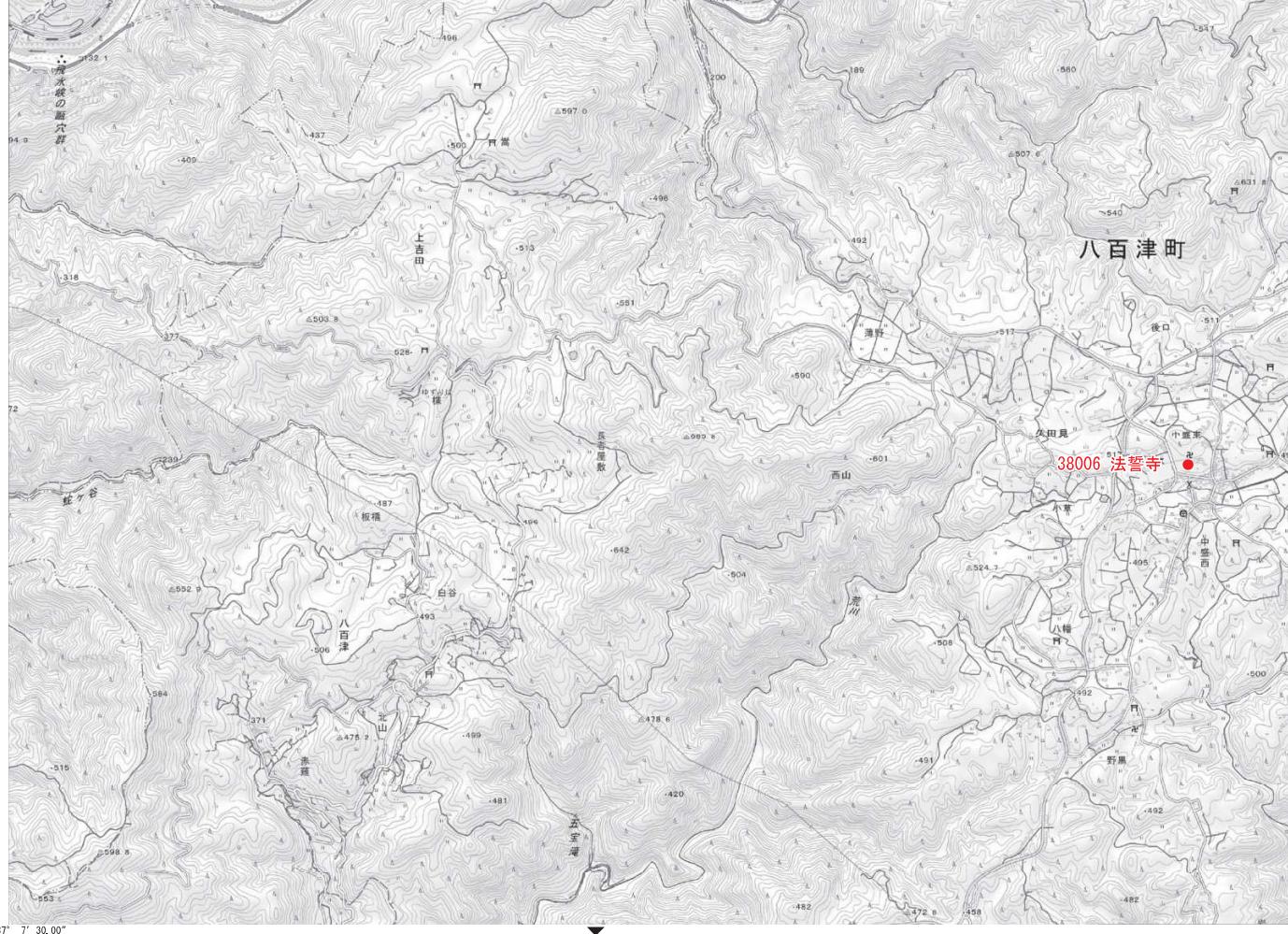
137° 7' 30.00"
35° 35' 0.00"

196

K8



L7



137° 7' 30.00"
35° 35' 0.00"

M8

K8

137° 15' 0.00"
35° 35' 0.00"

L8 河岐

197

八百津町

38006 法華寺



►L9

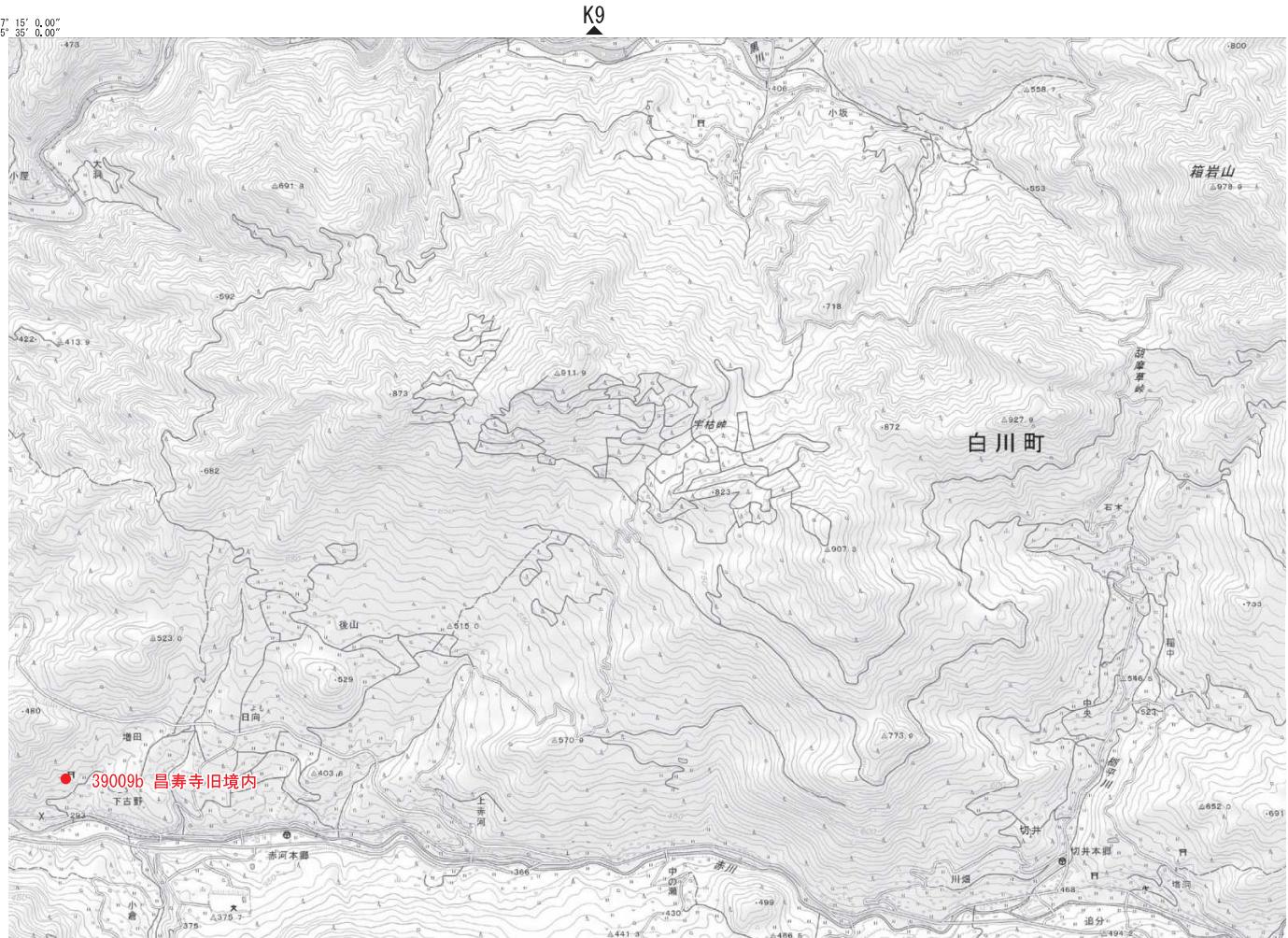
K7 上之保	K8 金山	K9 神土
L7 上麻生	L8 河岐	L9 切井
M7 美濃加茂	M8 御嵩	M9 武並

M8

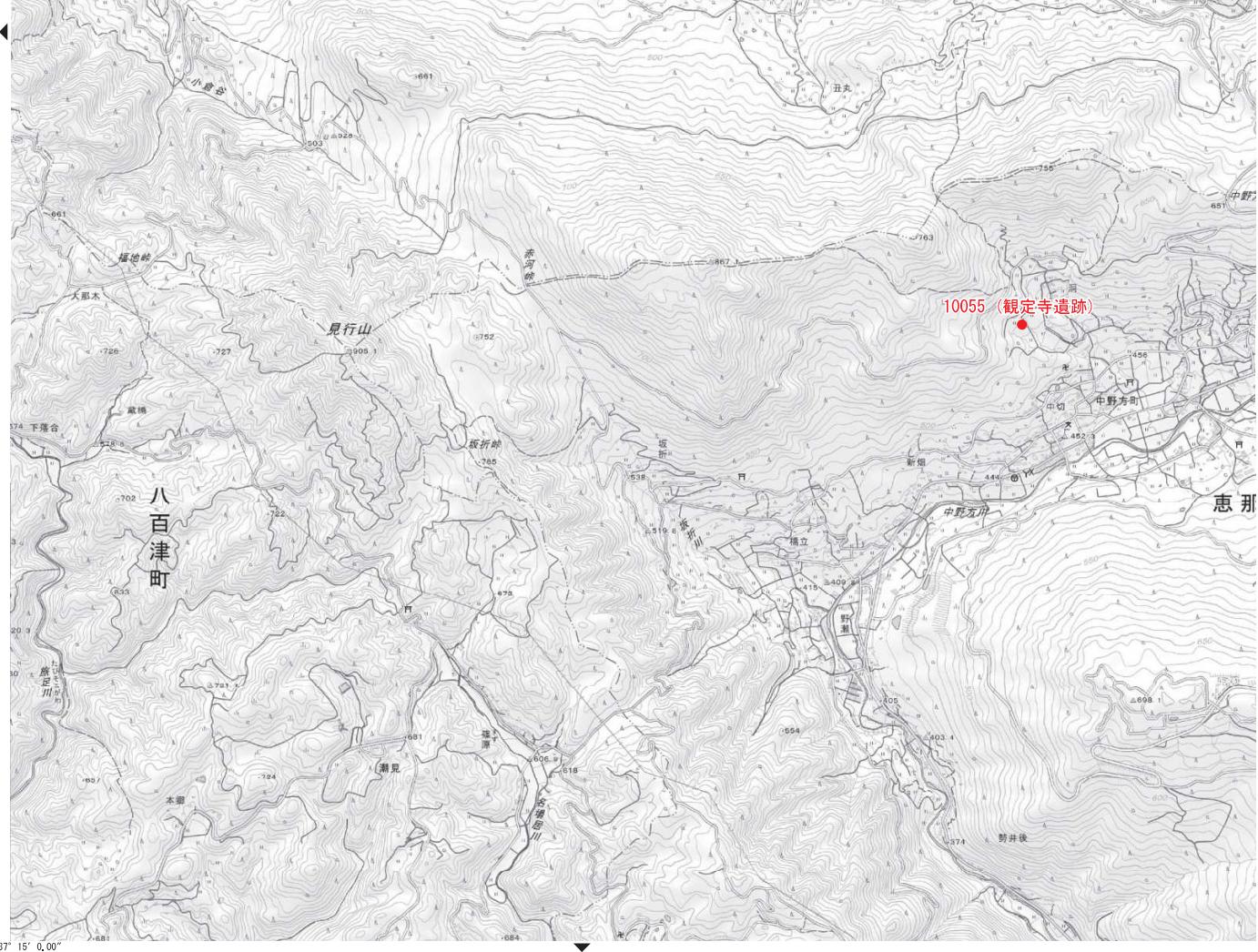
137° 15' 0.00"
35° 35' 0.00"

137° 15' 0.00"
35° 35' 0.00"

198



L8



137° 15' 0.00"
35° 30' 0.00"

K9

M9

K9

137° 22' 30.00"

35° 35'

199

L9 切井

中津川市

06045 宝林寺（金剛山宝林寺寺標）

06107 瑞光堂

恵那市

10055 〈観定寺遺跡〉

10102 〈白雲寺遺跡〉

10104 笠置神社奥社

白川町

39009b 昌寿寺旧境内

►L10

中津川市

06045 宝林寺（金剛山宝林寺寺標）

06107 瑞光堂

10104 笠置神社奥社

10102 〈白雲寺遺跡〉

K8 金山	K9 神土	K10 付知
L8 河岐	L9 切井	L10 美濃福岡
M8 御嵩	M9 武並	M10 恵那

M9

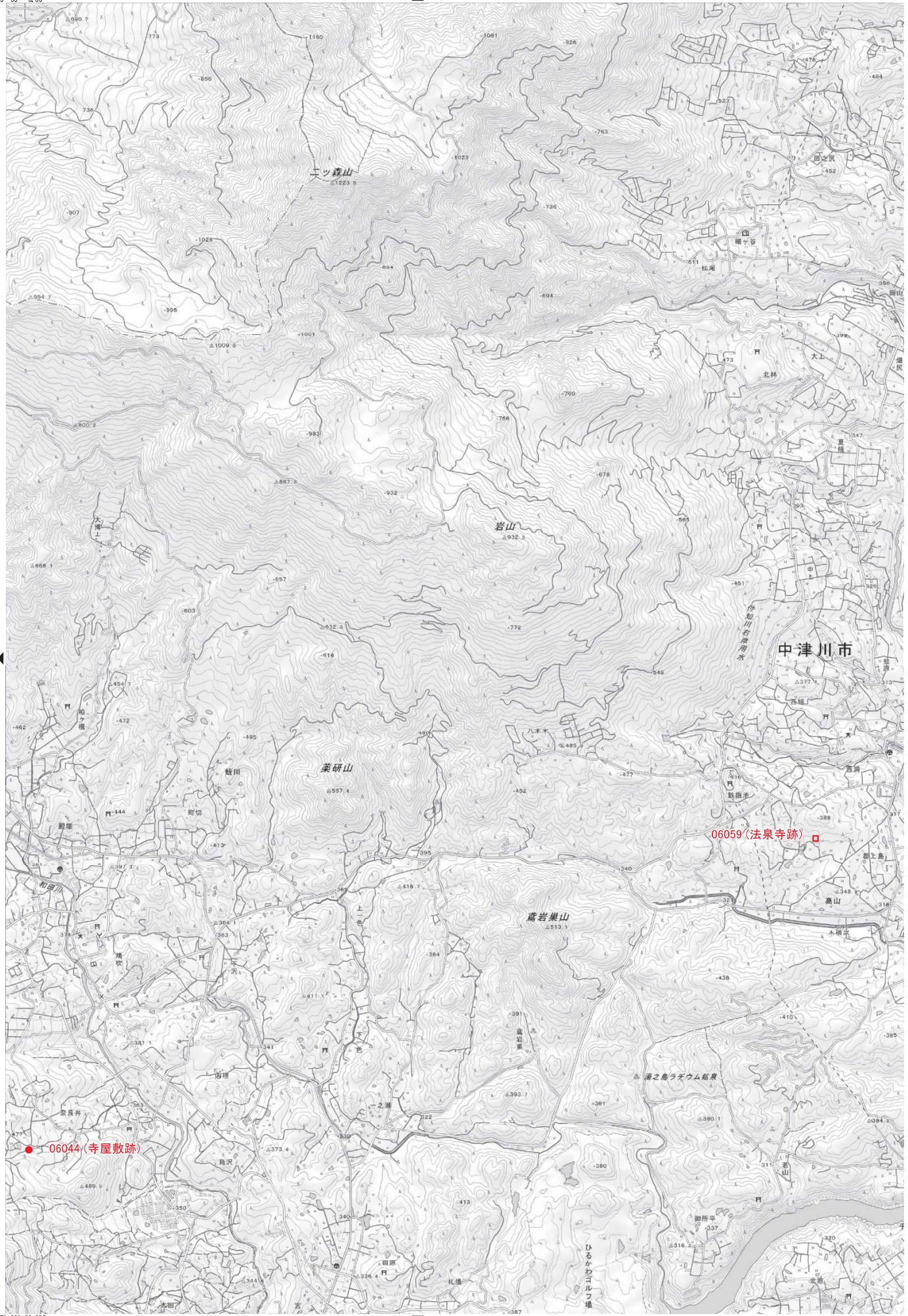
137° 22' 30.00"

35° 30'

137° 22' 30.00"
35° 35' 0.00"

K10

200



137° 22' 30.00"
35° 30' 0.00"

M10

K10

137° 30' 0.00"
35° 35' 0.00"

L10 美濃福岡 201

中津川市

- 06016b 法界寺旧境内
 06044 (寺屋敷跡)
 06047 (成道寺跡)
 06059 (法泉寺跡)
 06060 広惠寺(広惠寺跡)
 06062 (龍渓寺跡)
 06085 金巣寺龍王院

►L11

06047 (成道寺跡)

06062 (龍渓寺跡)

06085 金巣寺龍王院

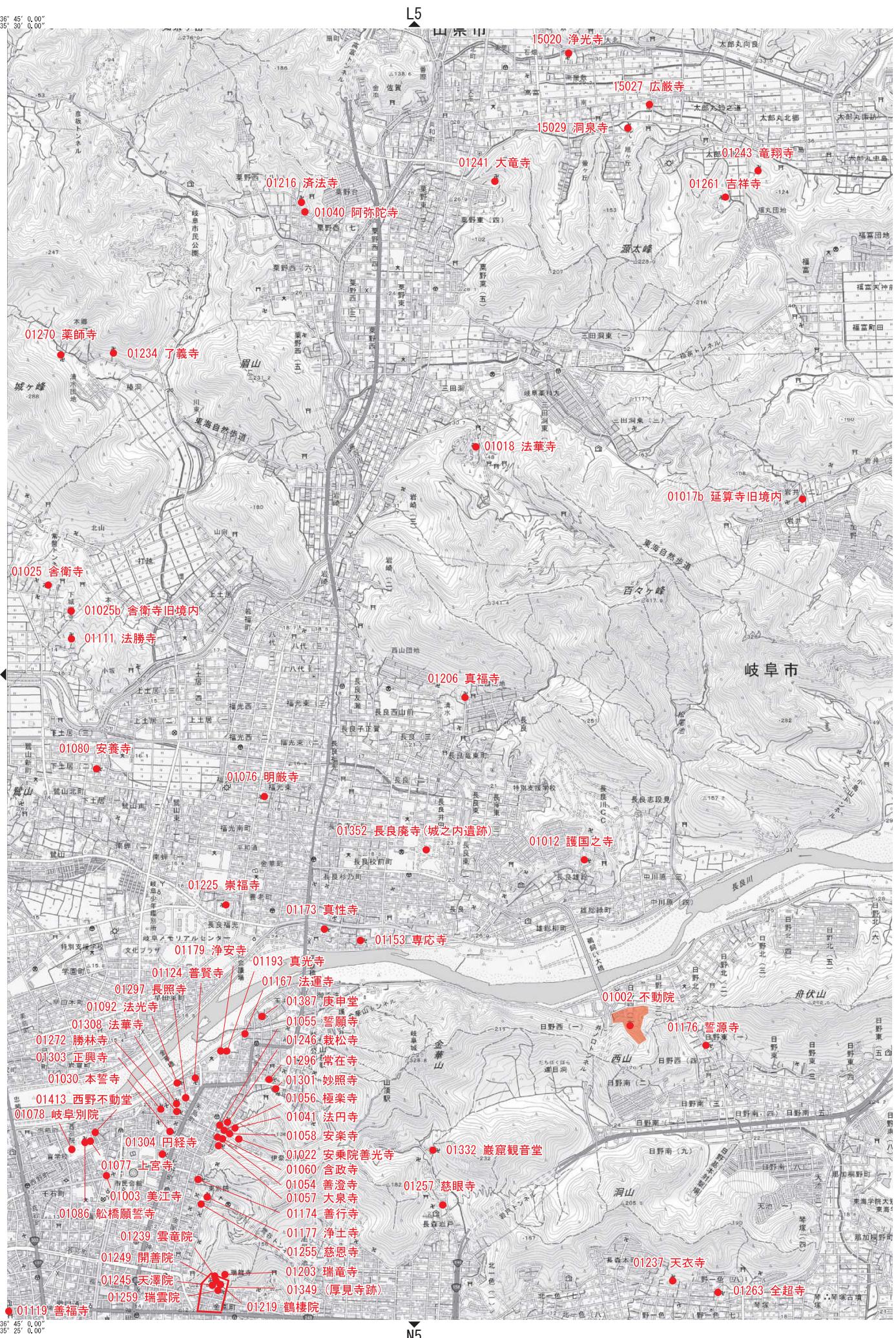
137° 30' 0.00"
35° 30' 0.00"

K9 神土	K10 付知	K11 三留野
L9 切井	L10 美濃福岡	L11 妻籠
M9 武並	M10 恵那	M11 中津川

M10

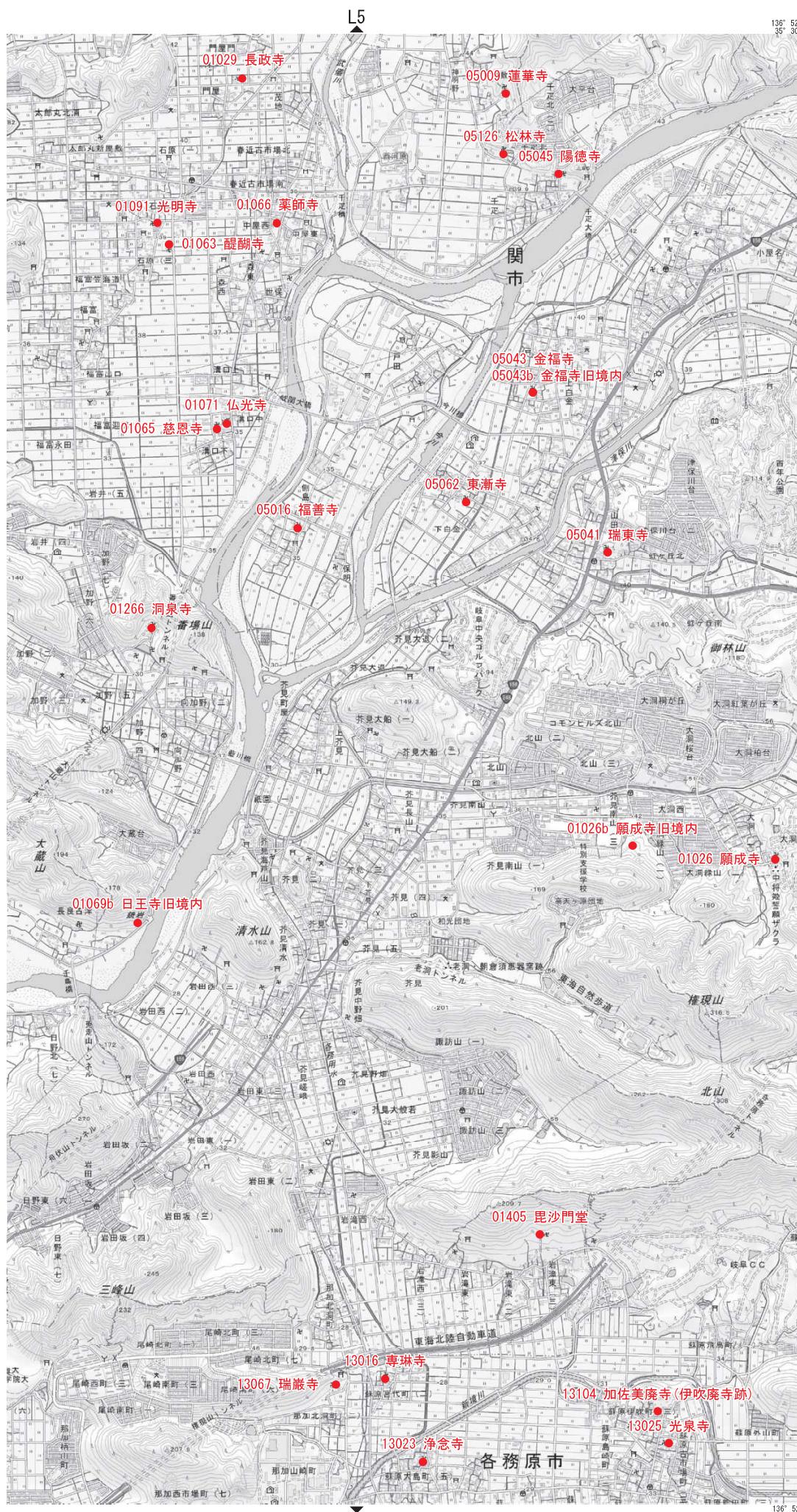
136° 45' 0.00"
35° 30' 0.00"

202



N5

M5 岐阜北部



岐阜市

- | | |
|---------------|--------------|
| 01002 不動院 | 01241 大竜寺 |
| 01003 美江寺 | 01243 竜翔寺 |
| 01012 護國之寺 | 01245 天澤院 |
| 01017b 訪算寺旧境内 | 01246 裁松寺 |
| 01018 法華寺 | 01249 開善院 |
| 01022 安乘院善光寺 | 01255 慈恩寺 |
| 01025 舍衛寺 | 01257 慈眼寺 |
| 01025b 舍衛寺旧境内 | 01259 瑞雲院 |
| 01026 願成寺 | 01261 吉祥寺 |
| 01026b 願成寺旧境内 | 01263 全超寺 |
| 01029 長政寺 | 01266 洞泉寺 |
| 01030 本誓寺 | 01270 薬師寺 |
| 01040 阿弥陀寺 | 01272 勝林寺 |
| 01041 法円寺 | 01296 常在寺 |
| 01054 善澄寺 | 01297 長照寺 |
| 01055 菩薩寺 | 01301 妙照寺 |
| 01056 極樂寺 | 01303 正興寺 |
| 01057 大泉寺 | 01304 圓経寺 |
| 01058 安樂寺 | 01308 法華寺 |
| 01060 合政寺 | 01332 嚢窟観音堂 |
| 01063 醍醐寺 | 01349 (厚見寺跡) |
| 01065 慈恩寺 | 01352 長良庵寺 |
| 01066 薬師寺 | (城之内遺跡) |
| 01069b 日王寺旧境内 | 01387 庚申堂 |
| 01071 仏光寺 | 01405 毘沙門堂 |
| 01076 明嚴寺 | 01413 西野不動堂 |
| 01077 上宮寺 | |
| 01078 岐阜別院 | |
| 01080 安養寺 | |
| 01086 般若願誓寺 | |
| 01091 光明寺 | |
| 01092 法光寺 | |
| 01111 法勝寺 | |
| 01119 善福寺 | |
| 01124 普賢寺 | |
| 01153 専応寺 | |
| 01167 法運寺 | |
| 01173 真性寺 | |
| 01174 善行寺 | |
| 01176 菩源寺 | |
| 01177 淨土寺 | |
| 01179 淨安寺 | |
| 01193 真光寺 | |
| 01203 瑞巖寺 | |
| 01206 真福寺 | |
| 01216 济法寺 | |
| 01219 鶴樓院 | |
| 01225 崇福寺 | |
| 01234 了義寺 | |
| 01237 天衣寺 | |
| 01239 壽龜院 | |

M6

岐阜市

- | | |
|---------------|--|
| 05009 蓮華寺 | |
| 05016 福善寺 | |
| 05043 金福寺 | |
| 05043b 金福寺旧境内 | |
| 05062 瑞東寺 | |
| 05126 松林寺 | |

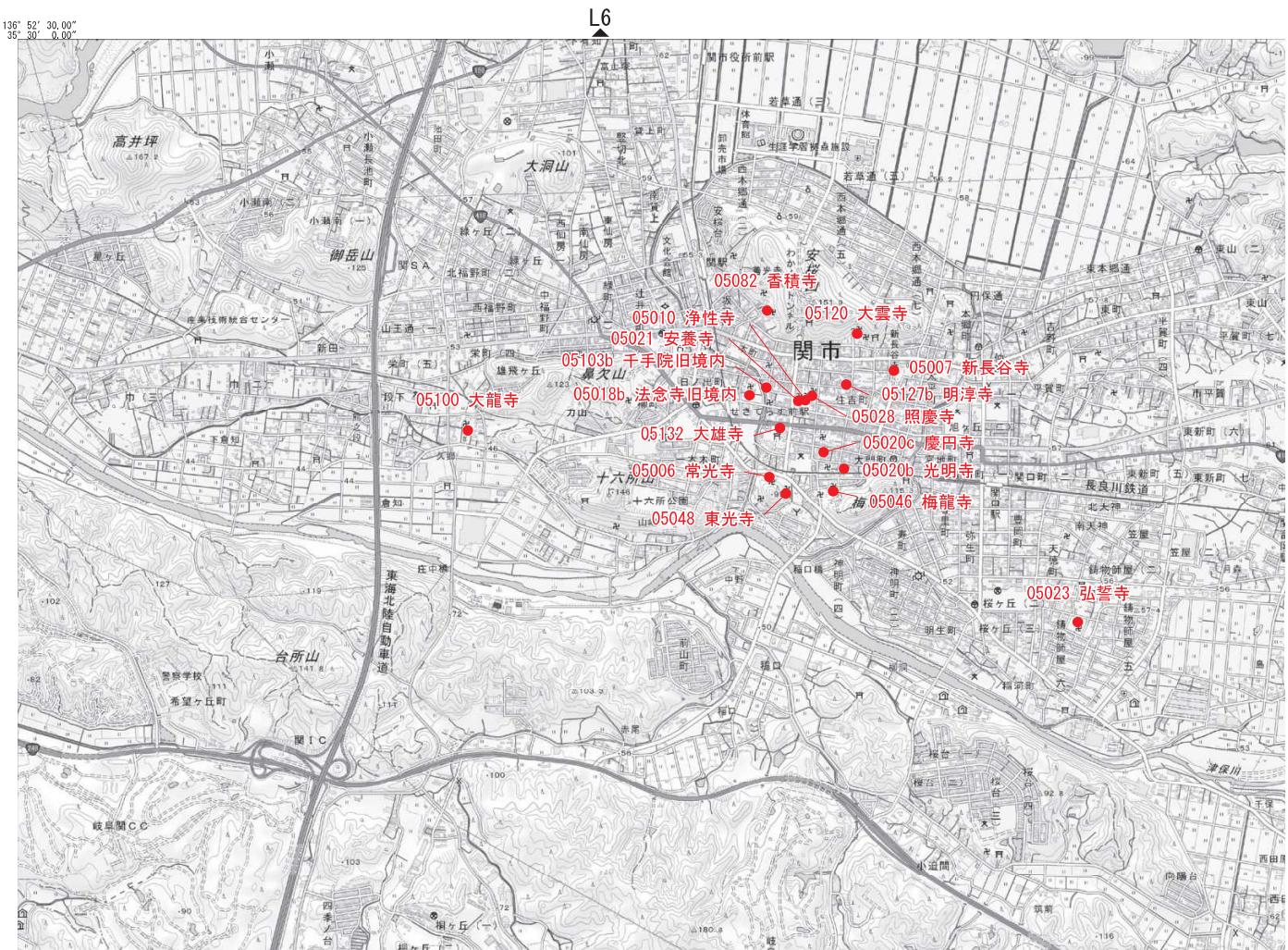
各務原市

- | | |
|--------------------|--|
| 13016 専琳寺 | |
| 13023 淨念寺 | |
| 13025 光泉寺 | |
| 13067 瑞巖寺 | |
| 13104 加佐美廃寺(伊吹廃寺跡) | |
| 15020 淨光寺 | |
| 15027 広嚴寺 | |
| 15029 洞泉寺 | |

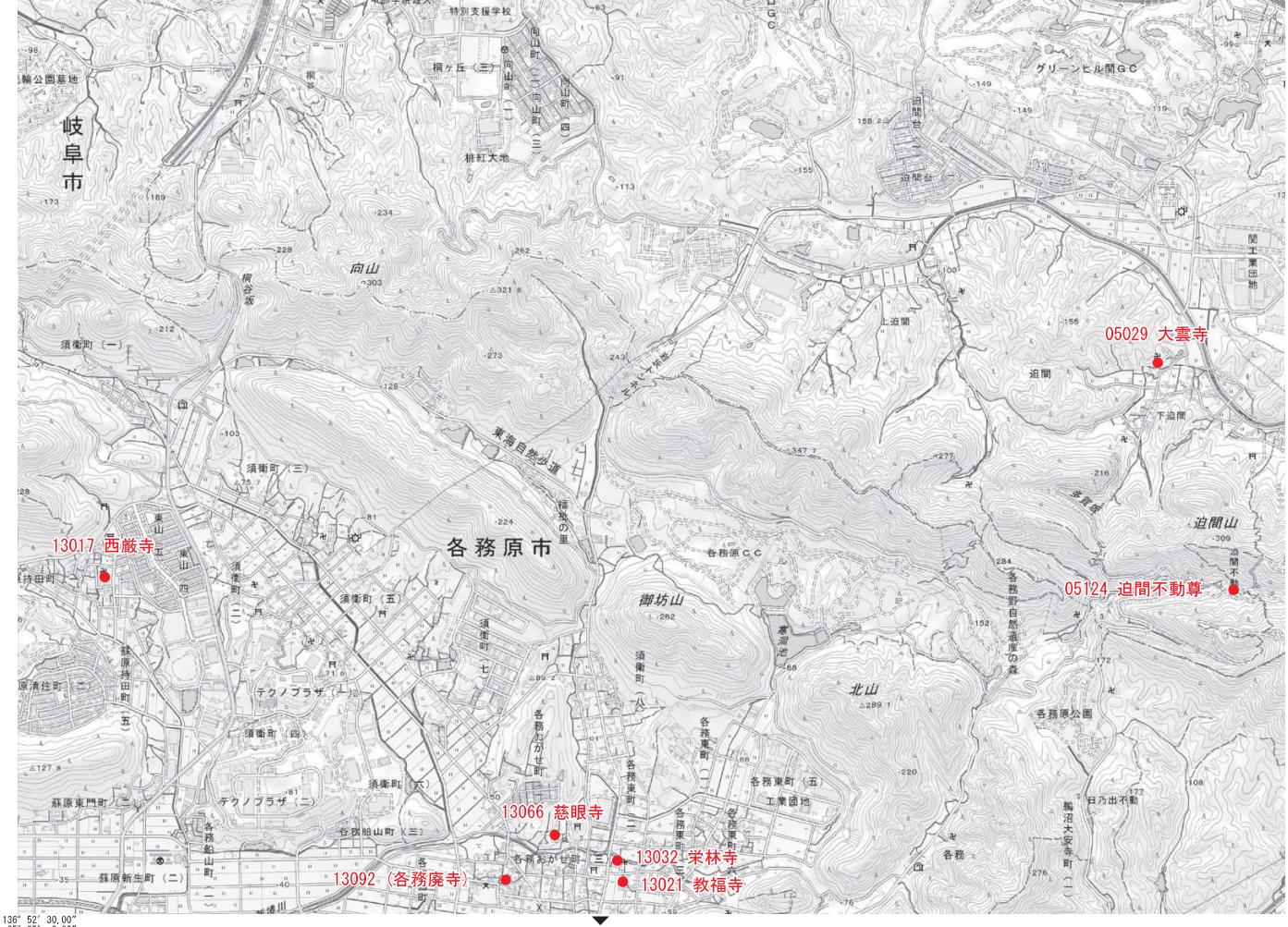
山県市

- | | |
|-----------|--|
| 13025 淨光寺 | |
| 15027 広嚴寺 | |
| 15029 洞泉寺 | |

L4 美濃神海	L5 岩佐	L6 美濃
M4 北方	M5 岐阜北部	M6 美濃閔
N4 岐阜西部	N5 岐阜	N6 犬山



M5



M6 美濃関

関市

- 05006 常光寺
 05007 新長谷寺
 05010 淨性寺
 05018b 法念寺旧境内
 05020b 光明寺
 05020c 麗円寺
 05021 安養寺
 05023 弘誓寺
 05028 照慶寺
 05029 大雲寺
 05035 長源寺
 05046 梅龍寺
 05048 東光寺
 05049 少林寺
 05082 香積寺
 05100 大龍寺
 05103b 千手院旧境内
 05120 大雲寺
 05124 追間不動尊
 05127b 明津寺
 05131 大通寺
 05152 大雄寺
 05157 (大杉庵寺跡)

美濃加茂市

- 11005 明淳寺
 11007 明応寺
 11008 圓滿寺
 11009 瑞雲寺
 11017 正覚寺
 11020 法幢寺
 11024 瑞雲寺
 11056 円満寺
 11057 梅本寺

►M7 各務原市

- 13017 西巖寺
 13021 教福寺
 13032 朱林寺
 13066 慈眼寺
 13092 (各務庵寺)

坂祝町

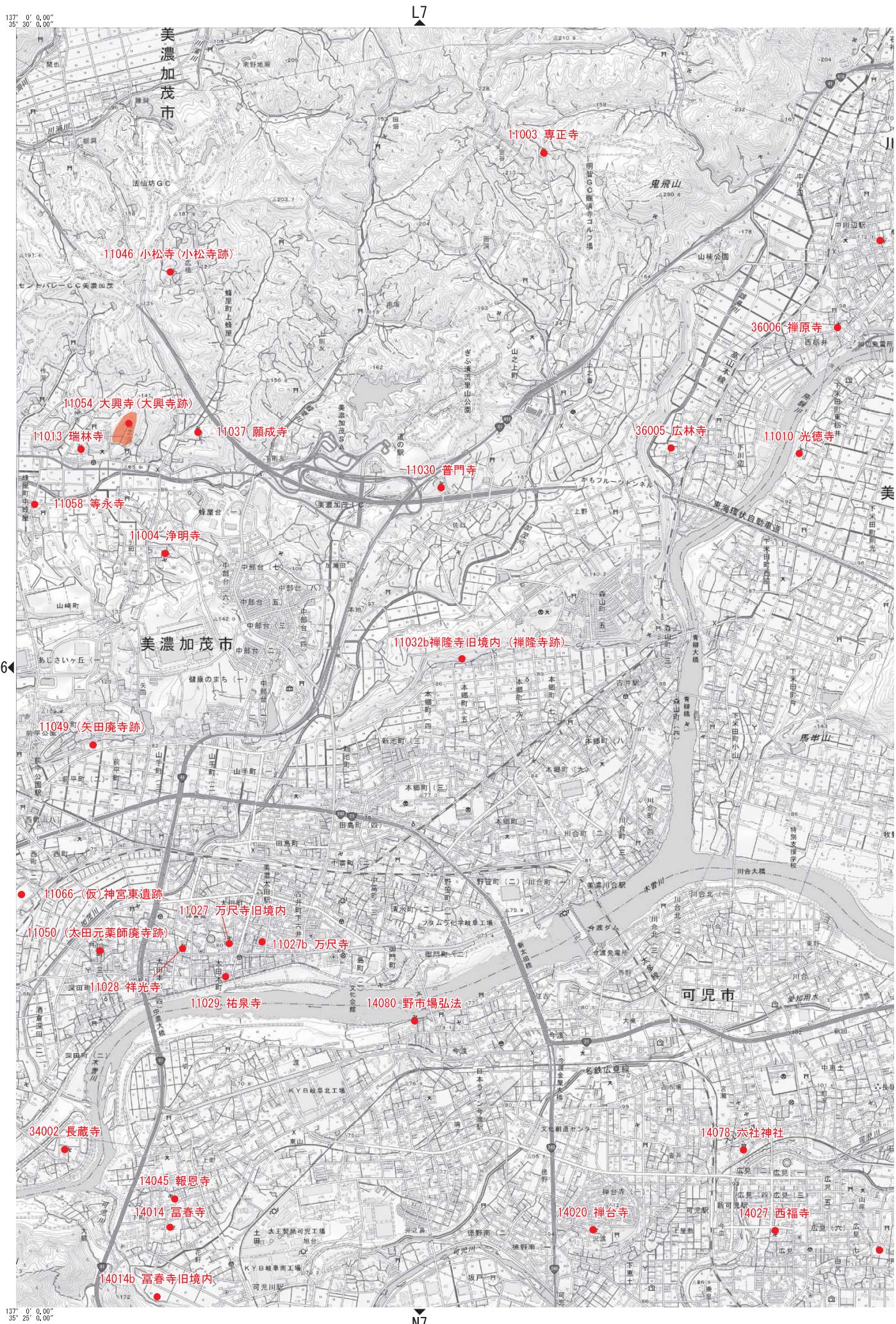
- 34001b 覚専寺旧境内 (見城寺跡)
 34004c 安樂寺旧境内
 34008 (雲理庵寺跡)
 34011 中房寺
 34012 岩屋觀音

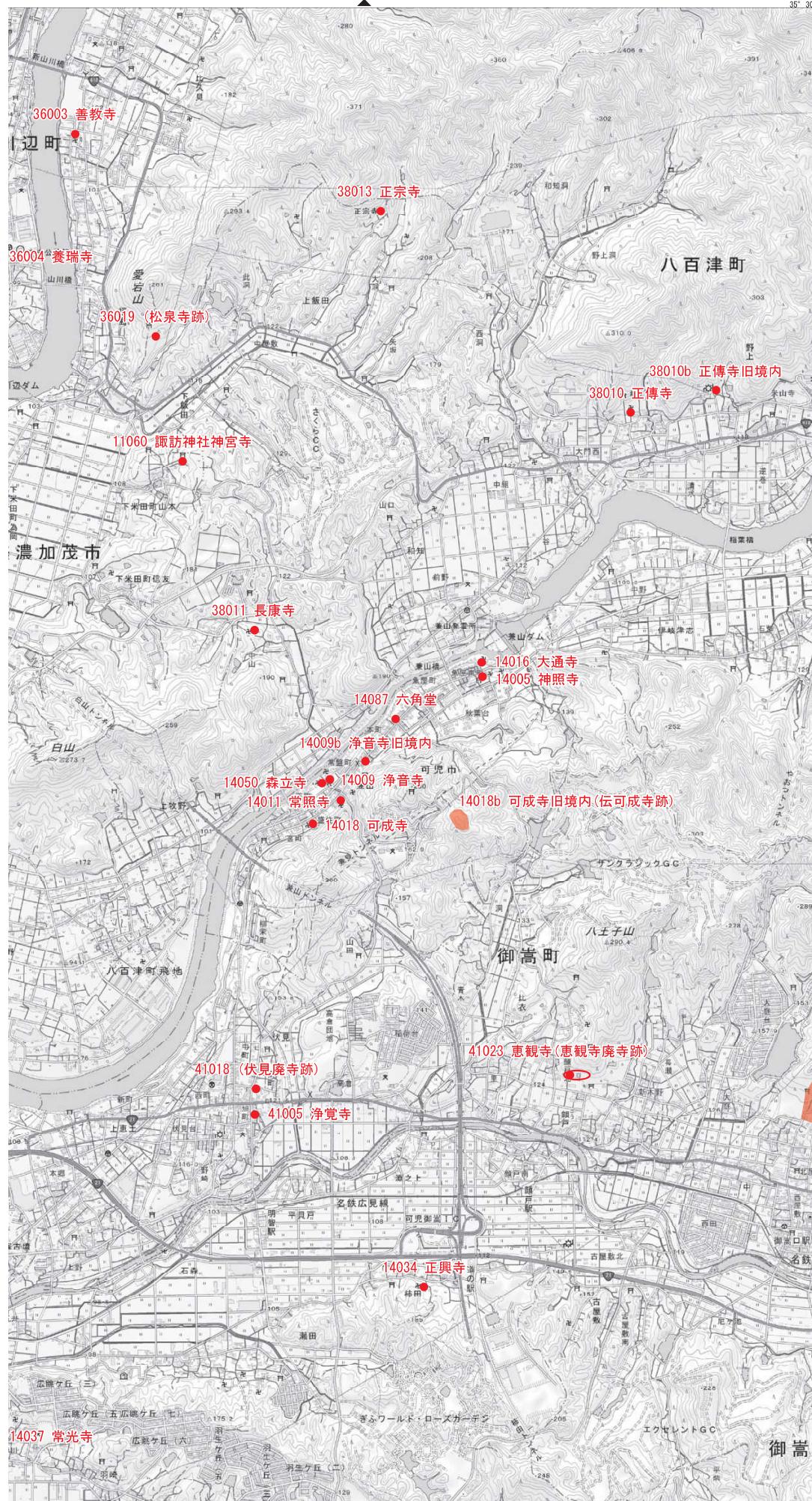
富加町

- 35001 蓮光寺
 35003 龍福寺
 35004 鳴峰寺
 35006 清水寺
 35012 凤林寺
 35023 香昌寺
 35029 (大杉庵寺跡)

L5 岩佐	L6 美濃	L7 上麻生
M5 岐阜北部	M6 美濃關	M7 美濃加茂
N5 岐阜	N6 犬山	N7 小泉







美濃加茂市

- 11003 専正寺
11004 淨明寺
11010 光徳寺
11013 瑞林寺
11027 万尺寺
11027b 万尺寺旧境内
11028 祥光寺
11029 勝泉寺
11030 普門寺
11032b 禪隆寺旧境内(禪隆寺跡)
11037 願成寺
11046 小松寺(小松寺跡)
11049 (矢田庵寺跡)
11050 (太田元葉師庵寺跡)
11054 大興寺(大興寺跡)
11058 等永寺
11060 諏訪神社神宮寺
11066 (飯)神宮東遺跡

可児市

- 14005 神照寺
14009 淨音寺
14009b 淨音寺旧境内
14011 常照寺
14014 富春寺
14014b 富春寺旧境内
14016 大通寺
14018 可成寺
14018b 可成寺旧境内(伝可成寺跡)
14020 禪台寺
14027 西福寺
14034 正興寺
14037 常光寺
14045 報恩寺
14050 森立寺
14078 六社神社
14080 野市場弘法
14087 六角堂

►M8

坂祝町

- 34002 長蔵寺

川辺町

- 36003 善教寺
36004 養瑞寺
36005 広林寺
36006 禪原寺
36019 (松泉寺跡)

八百津町

- 38010 正傳寺
38010b 正傳寺旧境内
38011 長康寺
38013 正宗寺

御嵩町

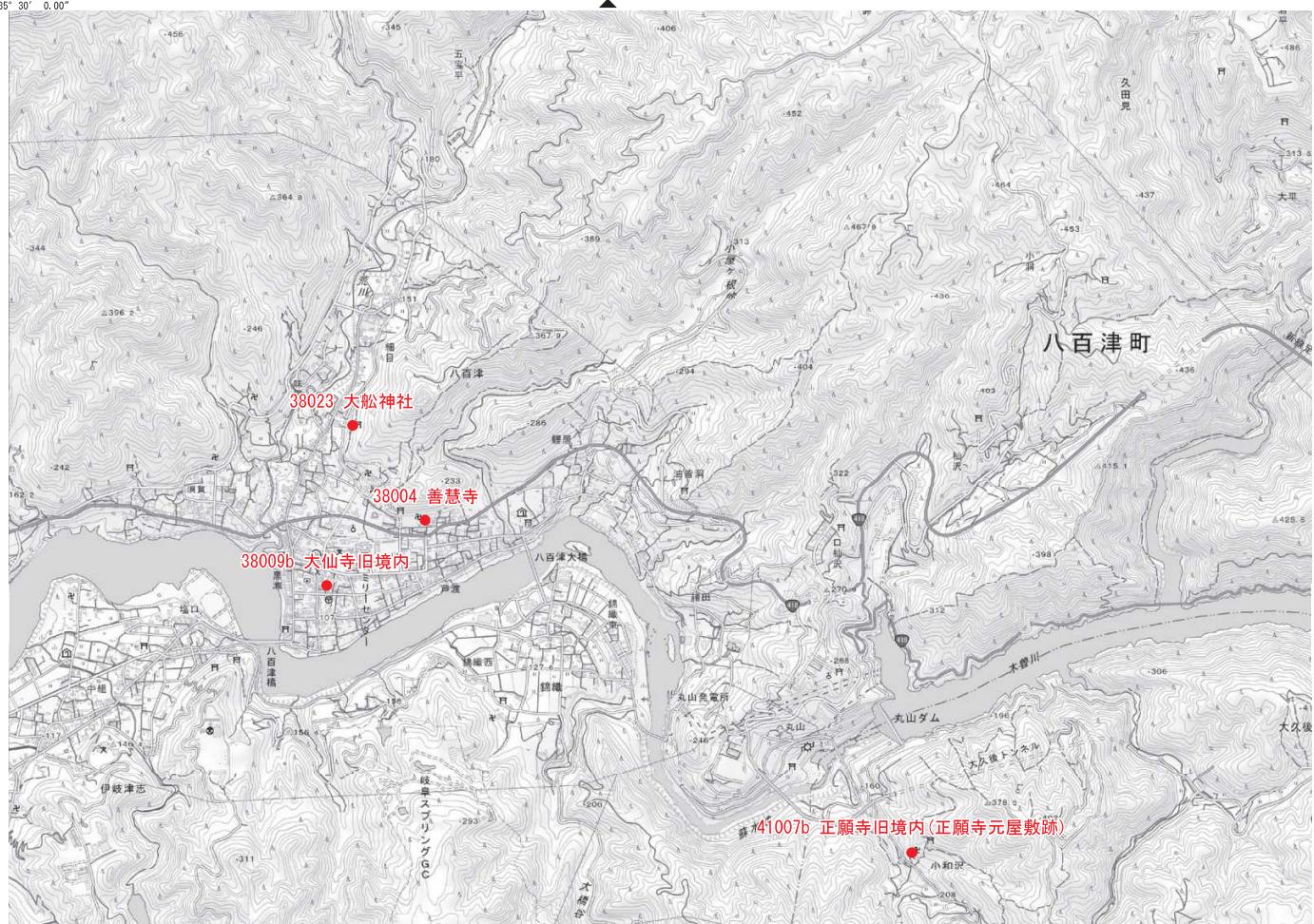
- 41005 淨覺寺
41018 (伏見庵寺跡)
41023 惠觀寺(惠觀寺庵寺跡)

L6 美濃	L7 上麻生	L8 河岐
M6 美濃関	M7 美濃加茂	M8 御嵩
N6 犬山	N7 小泉	N8 土岐

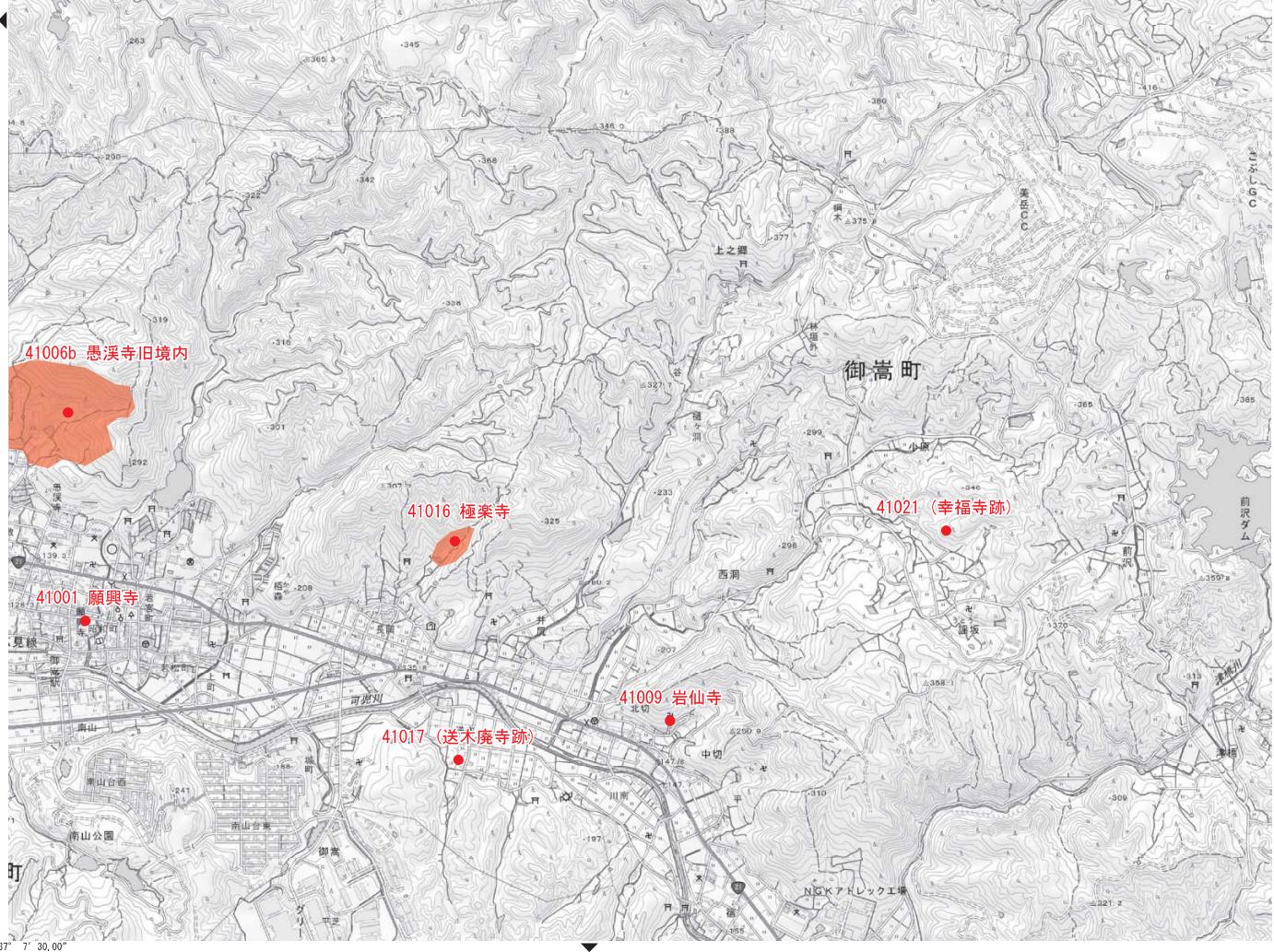
137° 7' 30.00"
35° 30' 0.00"

208

L8



M7



137° 7' 30.00"
35° 25' 0.00"

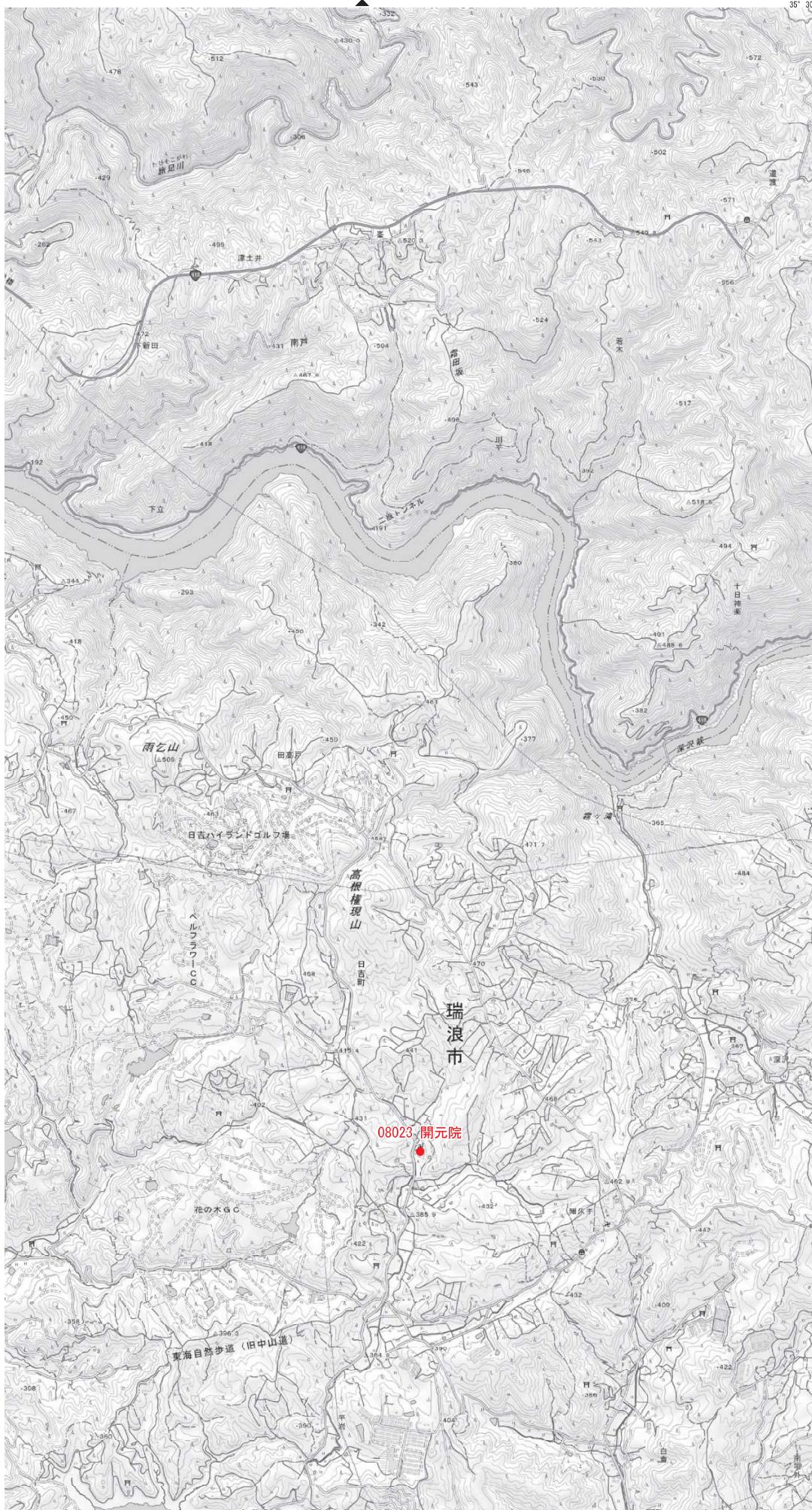
N8

L8

137° 15' 0.00"
35° 30' 0.00"

M8 御嵩

209



瑞浪市

08023 開元院

八百津町

38004 善慧寺
38009b 大仙寺旧境内
38023 大船神社

御嵩町

41001 願興寺
41006b 愚溪寺旧境内
41007b 正願寺旧境内
(正願寺元屋敷跡)
41009 岩仙寺
41016 極樂寺
41017 (送木廃寺跡)
41021 (幸福寺跡)

►M9

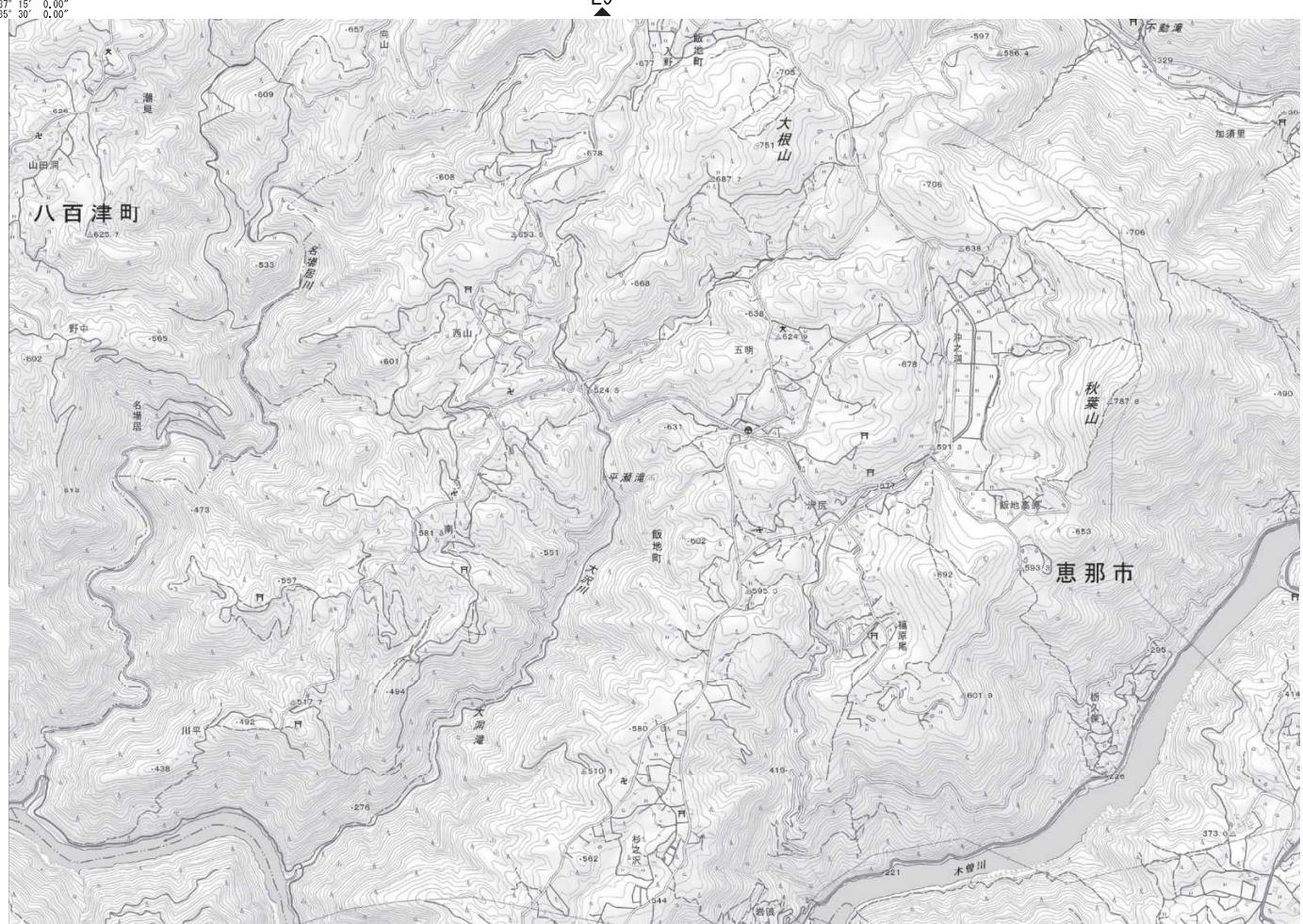
L7 上麻生	L8 河岐	L9 切井
M7 美濃加茂	M8 御嵩	M9 武並
N7 小泉	N8 土岐	N9 瑞浪

137° 15' 0.00"
35° 25' 0.00"

N8

137° 15' 0.00"
35° 30' 0.00"

210



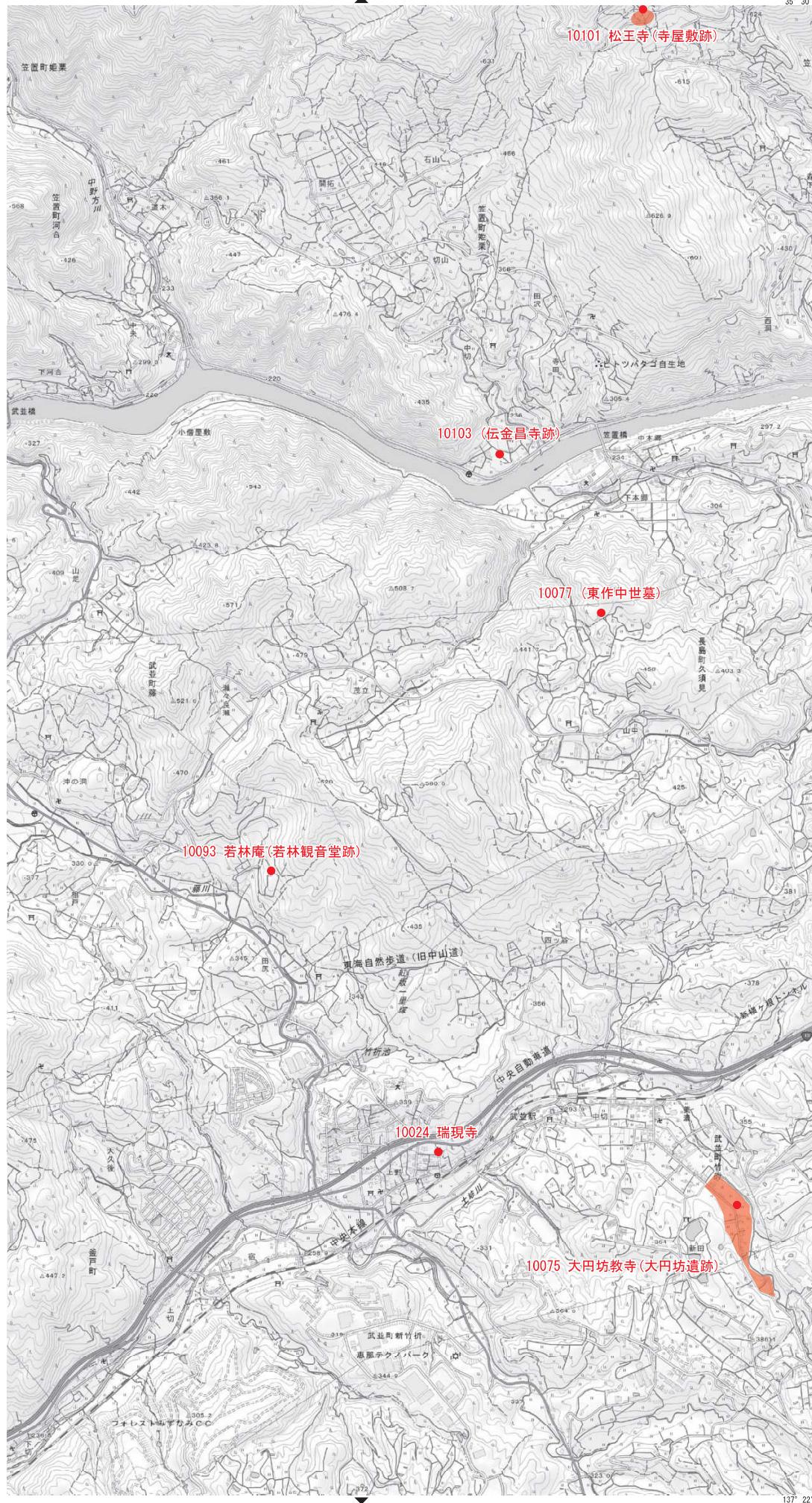
10038b 洞禪院旧境内 ●

M8◀



137° 15' 0.00"
35° 25' 0.00"

N9



M9 武並

211

瑞浪市

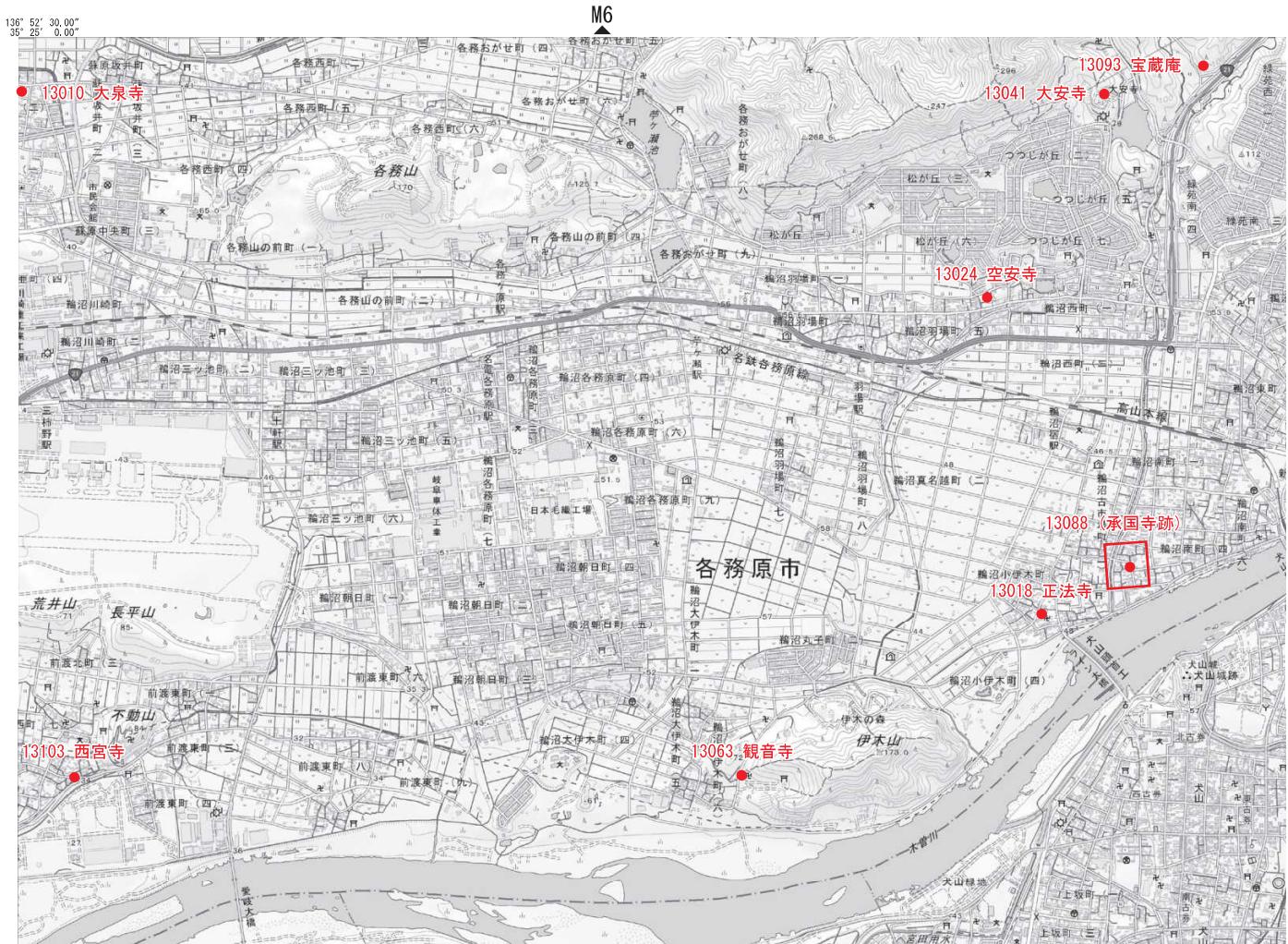
08034 円池寺觀音堂

恵那市

- 10024 瑞現寺
- 10038b 洞禪院旧境内
- 10075 大円坊教寺 (大円坊遺跡)
- 10077 (東作中世墓)
- 10093 若林庵 (若林観音堂跡)
- 10101 松王寺 (寺屋敷跡)
- 10103 (伝金昌寺跡)
- 10113 ピクニン寺 (上の洞中世墓)

►M10

L8 河岐	L9 切井	L10 美濃福岡
M8 御嵩	M9 武並	M10 恵那
N8 土岐	N9 瑞浪	N10 岩村



N6 犬山

各務原市

- 13010 大泉寺
 13018 正法寺
 13024 空安寺
 13041 大安寺
 13063 観音寺
 13088 (承国寺跡)
 13093 宝蔵庵
 13103 西宮寺

可児市

14021 真禅寺

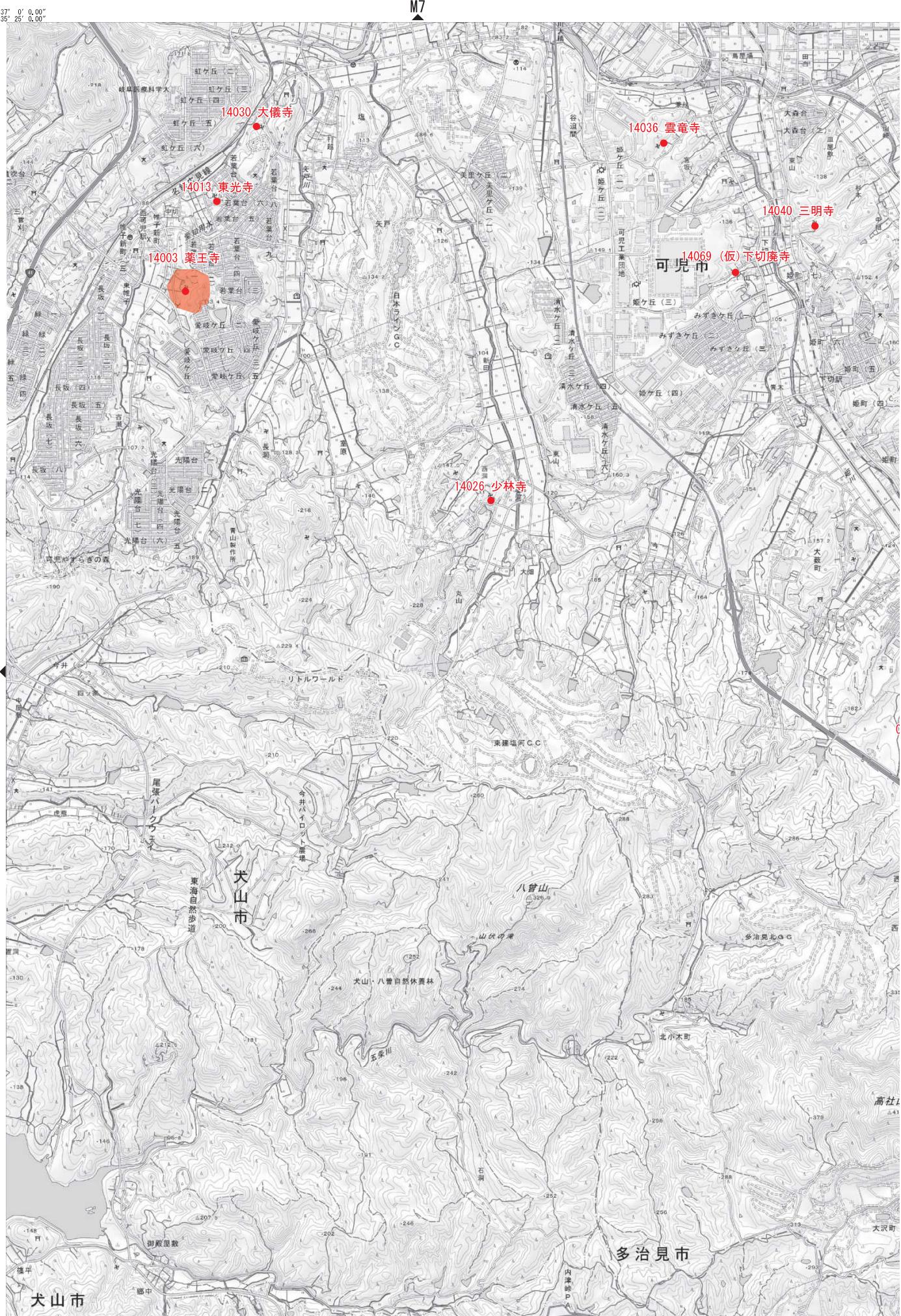


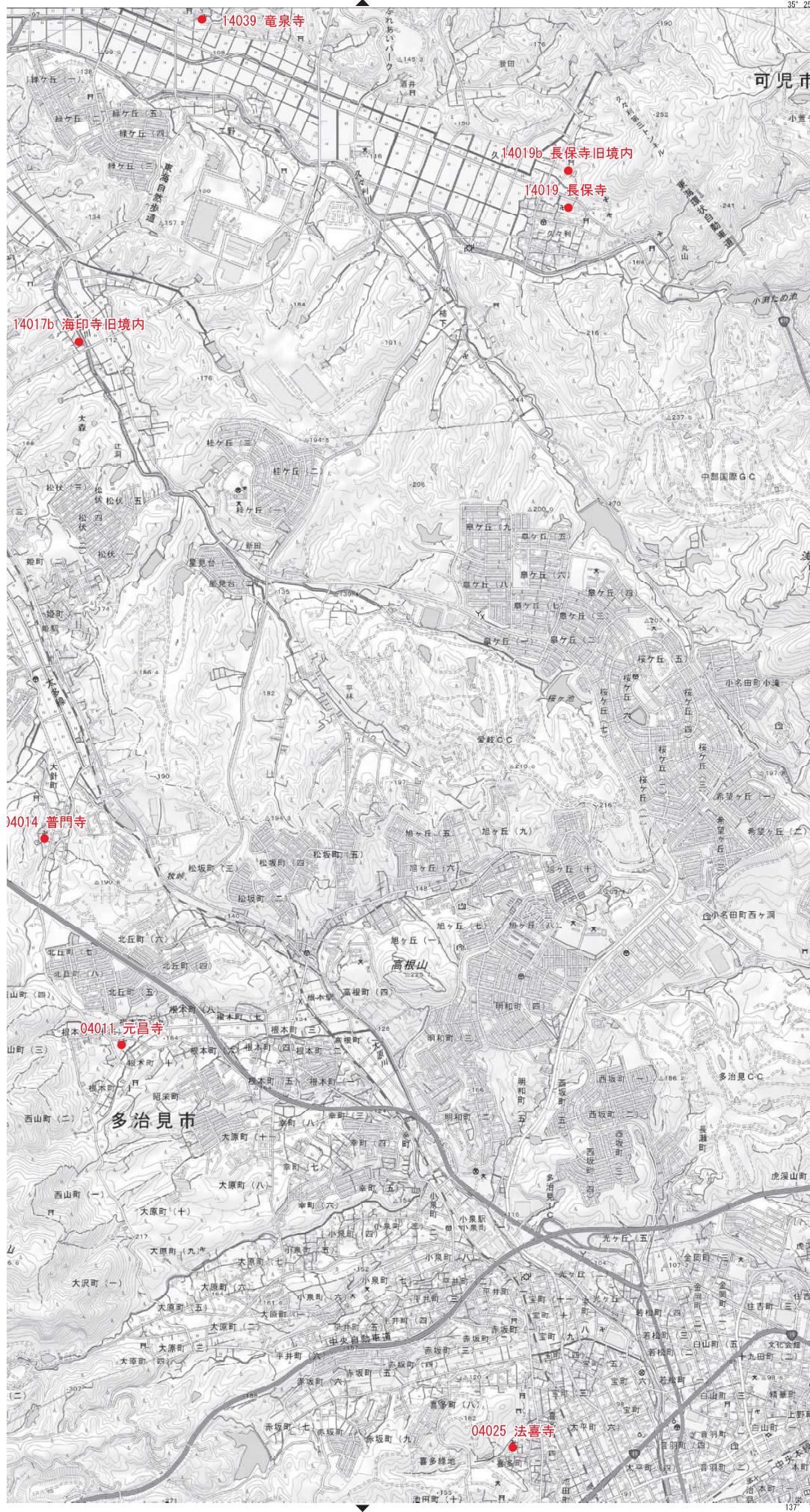
▶N7

M5 岐阜北部	M6 美濃関	M7 美濃加茂
N5 岐阜	N6 犬山	N7 小泉
		07 高藏寺

137° 0' 0.00"
35° 25' 0.00"

214





多治見市

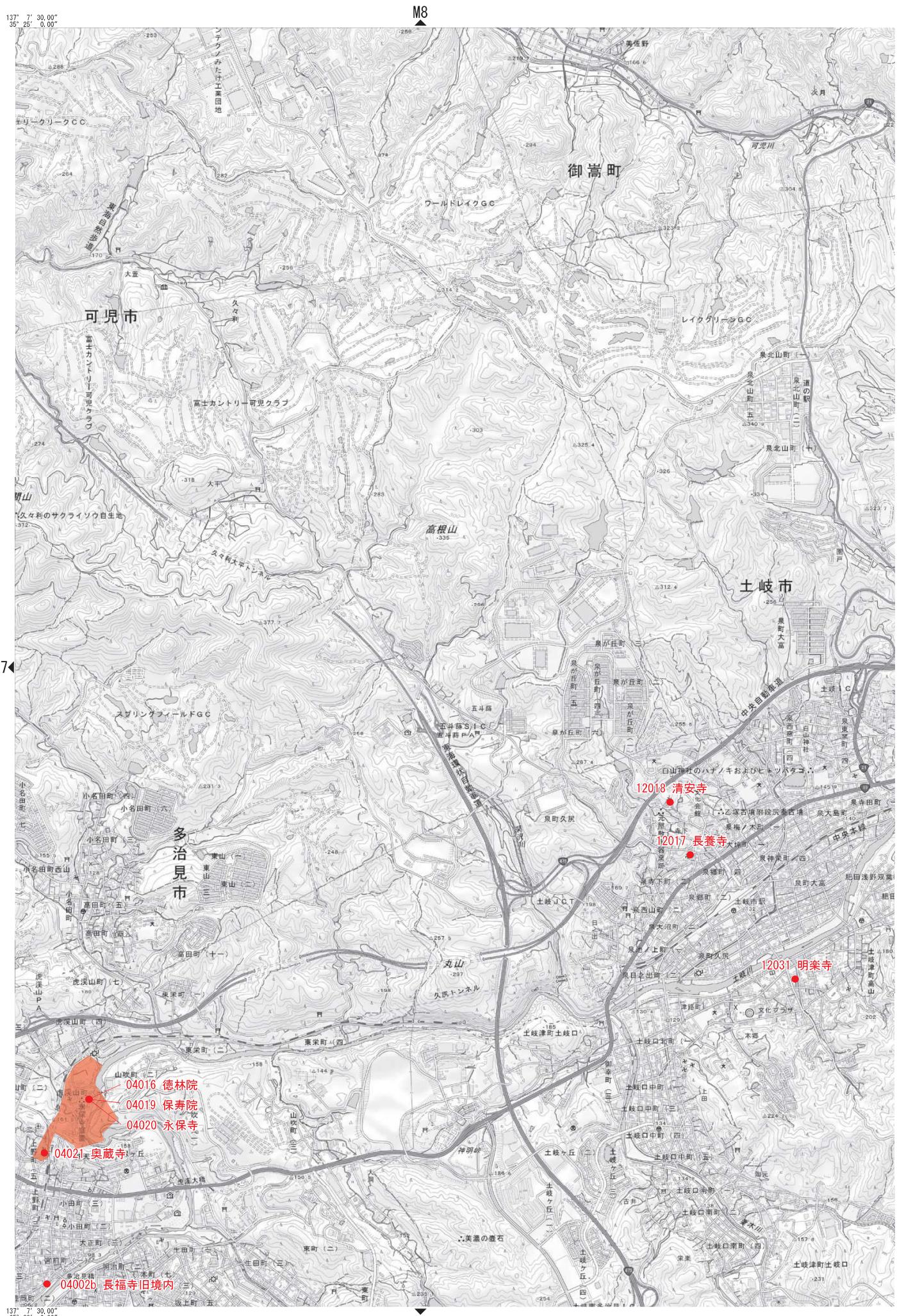
- 04011 元昌寺
04014 普門寺
04025 法喜寺

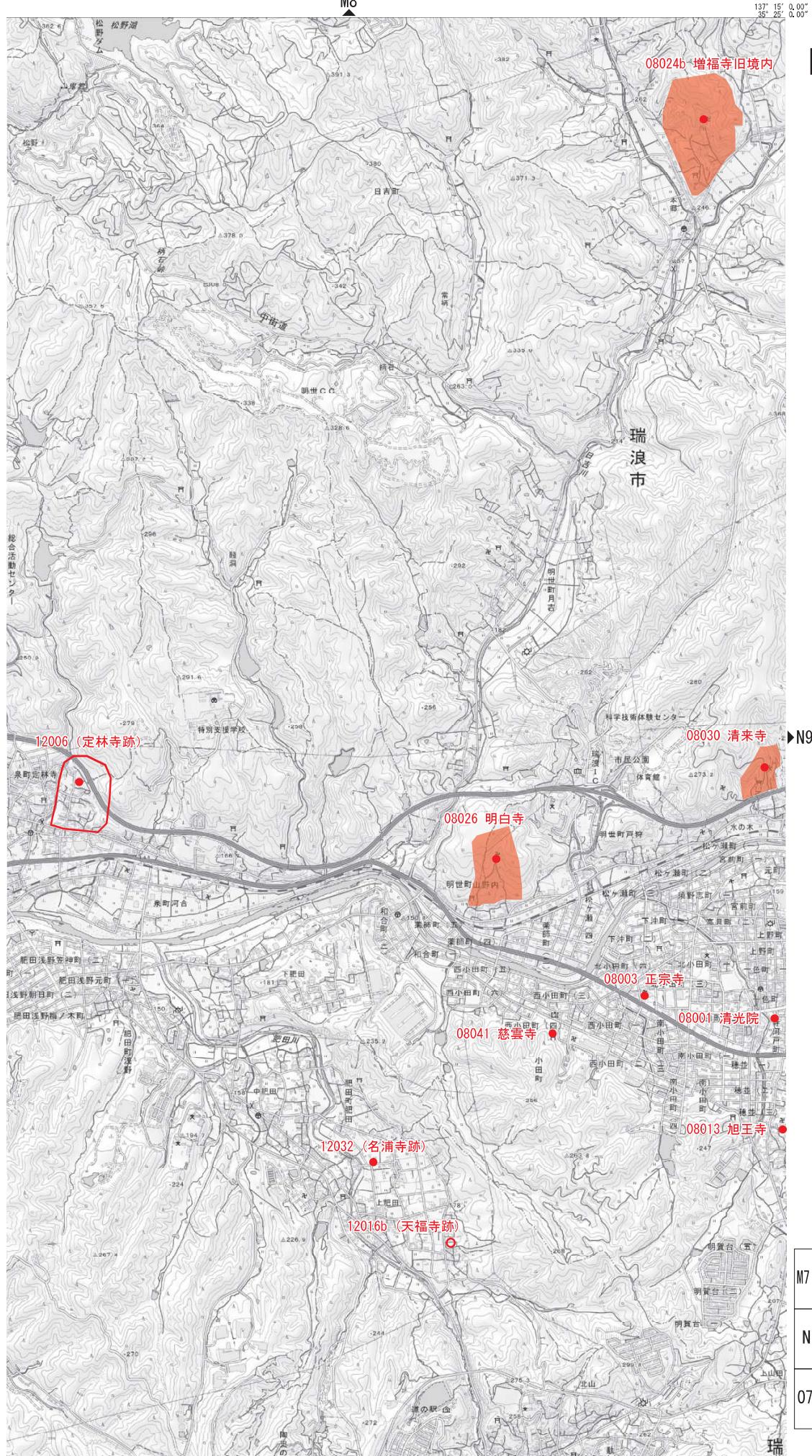
可児市

- 14003 葉王寺
14013 東光寺
14017b 海印寺旧境内
14019 長保寺
14019b 長保寺旧境内
14026 少林寺
14030 大儀寺
14036 雲竜寺
14039 竜泉寺
14040 三明寺
14069 (仮) 下切廃寺

▶ N8

M6 美濃関	M7 美濃加茂	M8 御嵩
N6 犬山	N7 小泉	N8 土岐
07 高蔵寺	08 多治見	



**多治見市**

- 04002b 長福寺旧境内
- 04016 徳林院
- 04019 保寿院
- 04020 永保寺
- 04021 奥藏寺

瑞浪市

- 08001 清光院
- 08003 正宗寺
- 08013 旭王寺
- 08024b 増福寺旧境内
- 08026 明白寺
- 08030 清来寺
- 08041 慈雲寺

土岐市

- 12016b (天福寺跡)
- 12017 長養寺
- 12018 清安寺
- 12031 明楽寺
- 12032 (名浦寺跡)
- 12166 (天福寺跡)

M7 美濃加茂	M8 御嵩	M9 武並
N7 小泉	N8 土岐	N9 瑞浪
07 高藏寺	08 多治見	09 猿爪

第5節 中濃圏域のまとめ

本節では、中濃圏域の寺院数を旧郡単位で集計し、時代・時期ごとの成立数や立地を検討した上で、古代と中世の寺院について整理する。

1 概要

(1) 中濃圏域の旧郡

中濃圏域は、延喜式における山県郡・武芸（儀）郡・郡上郡・賀（加）茂郡・可児郡（現在の関市・美濃市・郡上市・美濃加茂市・可児市・加茂郡（坂祝町・富加町・川辺町・七宗町・八百津町・白川町・東白川村）・可児郡（御嵩町））が含まれ¹⁾、本節ではこれらの旧郡をもとに寺院（以下寺院跡を含む。）の分布等を検討する。なお、近世以前の詳細な郡域は明らかではないため、戦前に作成された五万分の一地図や『改正美濃国明細全図』（明治17年作成、岐阜県図書館蔵）を参照した²⁾。

(2) 寺院数（表63）

740か寺を対象として調査した結果、伝承等も含めて古代成立寺院79か寺、中世成立寺院326か寺、合計405か寺を確認した³⁾。寺院数では、武儀郡が最も多く、次いで加茂郡、郡上郡、可児郡の順に少なくなる。飛鳥時代には、武儀郡、加茂郡、可児郡の中濃圏域南部の平地にあたる美濃加茂台地においての成立がみられる。奈良時代になると、郡上郡での養老元（717）年に開山された白山信仰に関する山麓・山腹への寺院の成立が増加する。平安時代には、圏域南部の平地への成立数が増加するほか、武儀郡の高賀山周辺では、高賀信仰にまつわる寺院が成立する。中世に入り、鎌倉時代での成立は平安時代と同程度だが、室町時代に入ると各郡ともに寺院数が急増する。

(3) 時期毎の建立時期等の検討（表64）

ここでは、市町村史等の文献に成立年代等の記載がある寺院を選択し、成立、移転、転宗、廃絶等を50年単位で集計し、寺院の消長やその関連性を検討する⁴⁾。なお、詳細な時期比定は、本来ならば発掘調査等によって明らかとなった年代観で検討すべきであるが、現状では寺院の発掘調査等がほとんど進んでおらず、ここでは主に文献における記載を参考に検討した。しかし、その取扱いについては十分に考慮すべきである。なお、発掘調査等により成立年代が推定できるものについては発掘調査成果を参考にした。

① 成立時期の記録

寺院の成立記録は、7世紀以前からみられる⁵⁾。可児郡の願興寺（御嵩町）では白鳳期初期に遡る軒丸瓦が出土し、中濃圏域は西濃圏域とともに、県下では早く寺院が成立したと考えられている地域である。その後、8世紀前半に一時的に増加し、8世紀後半から10世紀までは一定数みられるが、11世紀から12世紀前半までは減少する。しかし、12世紀後半以降は成立数が増加し、15世紀後半に飛躍的に増加する。それ以降、17世紀後半まで成立数が多い状態が続く。

② 転宗時期の記録

寺院の転宗記録は、12世紀までは9世紀後半に1例を確認できるのみであり、これは郡上郡の長瀧寺（郡上市）の法相宗から天台宗への転宗である。13世紀以降には転宗の記録が散見され、15世紀後半に急増する。15世紀後半に転宗した26か寺の転宗の内訳は、すべて浄土真宗への転宗であり、

そのほとんどが天台宗からの転宗である。16世紀以降は転宗した寺院数を一定数確認できるようになる。依然として浄土真宗への転宗が多いが、禅宗への転宗も一定数見られる。

(3) 移転・廃絶時期の記録⁶⁾

寺院の移転の記録は13世紀後半から散見される。15世紀後半から増加し、16世紀後半に24か寺と最も多くみられ、17世紀以降多い状態が続く。一方、廃絶の記録は少ないものの、16世紀後半には兵火による廃絶の記録が11か寺確認できる。このことは、16世紀後半に移転した寺院が多くみられることと関係すると思われる。15世紀後半から17世紀後半までは寺院の成立数も多く、中濃圏域ではこの頃に寺院の成立・移転が盛んに行われた。加えて、転宗した寺院も15世紀後半以降増加し、中世末から江戸時代にかけて、寺院活動が活発に行われた時期であるといえる。

(4) 寺院の立地（表65、図96～98）

ここでは、所在地及び成立時期が明らかな寺院について、平地（段丘）、山麓、山腹、山頂（尾根上）に分けて記載する。表65をみると、平地に位置する寺院は全体の約36%、山麓に位置する寺院は全体の約51%、山腹・山頂に位置する寺院は全体の約12%である。山腹・山頂に位置する寺院42か寺のうち、山頂に位置するのは4か寺と少ない。山麓を含む山地に造営されている寺院は全体の約63%である。

次に時期別の立地状況を概観する。7世紀代の瓦が出土している寺院は武儀郡、加茂郡、可児郡で確認されており、いずれも圏域南部の平地に立地する。8世紀には、郡上郡の長瀧寺を中心に白山信仰が、10世紀後半には武儀郡での高賀山信仰といった山岳信仰に関する寺院の造営が始まり、山麓及び山腹・山頂への造営数が増加する。この時期には、可児郡の極楽寺（御嵩町）や武儀郡の大聖寺（閔市）など、集落域からのアクセスが比較的容易な山間部に成立する寺院がみられる。一方、武儀郡の普門寺（美濃市）は、中納言の藤原高光によって面平山山頂に建立された寺院と伝わる。現本堂は山頂から約50m南へ降りた山腹に位置するが、かつては山頂に位置していたといい、山頂からは高賀山を眺望することができる。

その後、寺院の成立数が減少する11世紀から13世紀前半までは、山腹への造営は確認できない。鎌倉時代以降、集落域に近い平地周辺への造営が増加する。山麓に立地する寺院が最も多いが、集落域の最奥にあたる平地と山や丘陵との境付近に立地するものが大半を占める。

以下、立地ごとの詳細について記載する。

① 平地に立地する寺院

丘陵・山地裾部と寺域が接していない、河岸段丘や扇状地上に位置する寺院である。美濃加茂台地の河岸段丘上では、7世紀代の瓦の出土が確認されている寺院が集中する。願興寺（図96-1）は、可児川右岸の河岸段丘上に位置し、境内の北側には東山道が通る。可児郡の可児川右岸及び東山道沿いには古代寺院が集中的にみられ、伏見廃寺、願興寺跡、送木廃寺（以上御嵩町）が西から順に並ぶ。加茂郡では、木曽川右岸から北に1km前後入った場所に、古代寺院が集中するエリアがある。木曽川と加茂川に囲まれた低湿地帯に元薬師寺跡、元万尺寺跡が、加茂川右岸の河岸段丘上に雲埋廃寺跡、神宮東遺跡（以上美濃加茂市）が位置する。さらに、その北側の山地南側には、加茂県主の氏寺と考えられている矢田廃寺跡（美濃加茂市）が位置し、この場所は河岸段丘の上位段に属す。この立地について、「先住の県主グループが確保した優良地の周辺部に、秦人グループなど新来の渡来系氏族の

活動拠点が展開していった姿を反映」(大塚 1951) しているという指摘があり、古代寺院の立地する土地条件とその位置関係が、氏族間の優位性を示している可能性がある。この美濃加茂台地周辺には中世以降も河川沿いに多くの寺院が造営される。武儀郡の弥勒寺跡(閔市、図 96-2)は、長良川が大きく蛇行する内側の池尻山南側の台地に位置する。境内の背後には山を控え、南側には長良川が流れるため、山と河川で囲まれた極めて限定された範囲に寺院や郡衙施設が並ぶ。

② 山麓に位置する寺院

丘陵・山地裾部と寺域が接している寺院であり、丘陵・山地との境付近の地形が谷部や河川沿いの狭小地と、台地や平野部への見晴らしの良い場所などに分かれる。これらの寺院は、圏域南部の台地周縁部の山地及び丘陵帶、独立丘陵の裾部に位置する。長瀧寺(図 96-3-1・2)の主要伽藍は山麓に位置し、南側に長良川が流れる。境内は、谷地形上の山麓の地形に沿って展開している。山麓の見晴らしの良い平地に立地する寺院には、加茂郡の香昌寺(富加町)や近松寺(白川町)などがある。これらの寺院は、集落域の最奥に位置し、集落域よりもやや高い位置に造営される。

③ 山腹に位置する寺院

山腹に位置する寺院は、主要な寺域が山麓から山腹まで平坦面が広がる寺院と、背後に山頂や尾根を背負う寺院がある。前者には、武儀郡の禅定寺(美濃市、図 97-5)や可児郡の愚溪寺旧境内(御嵩町、図 97-6)、武儀郡の汾陽寺(閔市、図 97-7)がある。禅定寺及び愚溪寺旧境内は標高 185m 付近、汾陽寺は標高 200m 付近に社殿及び本堂跡を構え、山麓まで境内が広がる。これらの寺院は現集落域と比較的近い位置にある。後者には、武儀郡の日龍峯寺(閔市、図 97-4)や加茂郡の中房寺(坂祝町、図 97-8)がある。日龍峯寺は、高澤山の山頂から南東へ約 250m 下った山腹に本堂があり、山麓に展開する直近の集落域までの比高差は 150m である。本堂は、谷地形の最奥に位置するため平地を眺望することはできず、現集落域から隔絶された場所にある。中房寺は、郷部山の山頂よりも約 10m 低い南側に堂跡が位置し、山麓に展開する直近の集落域までの比高差は約 100m である。現在は木々の茂りが激しいが、かつては眼下の木曽川を眺望することができたと思われる。

また、武儀郡に展開する高賀山信仰に関する 6 社のうち 5 社(蓮華峯寺(閔市)、滝の宮(美濃市)、蔵王権現(美濃市)、巖屋本宮(郡上市)、巖屋新宮(郡上市))の地形観察図の作成、1 社(星宮粥川寺(郡上市))の地籍図による検討を行った。6 社はいずれも高賀山へ至る登山道の入口の山腹等に位置し、高賀山を囲むような位置関係にある。蓮華峯寺、滝の宮、巖屋本宮、巖屋新宮蔵王権現、現星宮神社は、高賀山を拝するように社殿が建つ。蔵王権現(現金峰神社)からみて高賀山山頂は北西方向に建つが、社殿は南西方向を向き若干ずれる。いずれも、現在は神社境内となっており、旧来の寺域の展開の様相を残しているかは不明であるが、信仰の対象である高賀山の位置を意識した立地及び寺域の展開であったと思われる。

④ 山頂(尾根上)に位置する寺院

山頂(尾根上)に位置する寺院には、面平山普門寺(図 98-9)や伝可成寺跡(可児市、図 98-10)がある。普門寺は、かつての本堂は山頂にあったとされ、山頂から鞍部にかけて約 55m の範囲が平坦となっているが、堂が一字建つかどうかの幅である。伝可成寺跡は、美濃金山城跡から大堀切を挟んだ南東に位置し、幅 20m × 奥行 70m の平坦面が尾根上に 1 面設けられている。平坦面の形状は尾根の地形に沿っており、不定形である。

2 古代寺院の様相（図99・100）

古代の中濃圏域は、美濃国を代表する豪族ムゲツ君氏の本拠地である。その勢力は弥勒寺跡のある武儀郡を中心に、加茂郡、岐阜圏域の本巣郡及び方県郡、西濃圏域の大野郡、越前国にまで広がっていたという。律令制施行後に制定される東山道は、美濃国南部を横断し、中濃圏域では御嵩町上之郷宿に可児駅が設置された⁷⁾。飛騨支路上では、下麻生に加茂駅、関市に武儀駅及び菅田駅が設置され、飛騨国へ通じていた⁸⁾。特に古代瓦の出土が確認されている古代寺院は、武儀郡、加茂郡（美濃加茂市太田地区）、可児郡東部（御嵩町東部）に集中してみられ、特に可児郡東部の古代寺院は東山道に近接した位置に分布する。

飛鳥時代の寺院では、瓦の出土が確認されている寺院には、弥勒寺跡、雲埋廃寺跡、神宮東遺跡、元万尺寺跡、太田元薬師廃寺跡、伏見廃寺、願興寺跡がある。願興寺は、寺の来歴を示した『大寺記』（享保 15（1730）年）によると、弘仁 6（815）年に最澄によって成立したとされているが、本堂の防災施設設置の際に百濟系瓦の流れをくむ白鳳時代に遡る可能性がある軒丸瓦や、外縁の幅線文も県下に類例がない近江の影響を受けた文様構成の軒丸瓦が確認された。このことから、美濃国最古の寺院の一つといわれ、壬申の乱以前から可児川沿いに基盤を据えた豪族の存在が想定される（岐阜県博物館 1995）。武儀郡の弥勒寺跡は、法起寺式の伽藍配置を有する、7世紀末に成立した寺院である。寺跡から複弁八弁蓮華文軒丸瓦と凸面布目平瓦が出土したことでヤマト朝廷との直接的な技術交流があったと想定される⁹⁾。さらに、7世紀前半には殿岡1・2号墳、八王子古墳、御前塚古墳、小瀬古墳、池尻大塚古墳の方墳 6 基がほぼ同時期に造られ、7世紀後半にはそれらの中心域に武義評衙が設置された。「古墳から評衙、そして寺院へという極めて連続した変遷」（林 2021）を確認できる地域である。また、加茂郡の現美濃加茂市太田区には7世紀末～8世紀に比定される軒丸瓦片が採取された地点（雲埋廃寺跡、神宮東遺跡、元薬師寺跡、元万尺寺跡）が、5km 圏内の範囲に集中する。さらに、この集中範囲の西側には、当該期の瓦を生産した輪形古窯跡（坂祝町）が所在する。輪形古窯跡では、近江で見られる朝鮮半島の影響が色濃い湖東式軒丸瓦が確認されており、その瓦当文様から元薬師寺跡との需給関係が成立することから、渡来系氏族の活動拠点が展開していたと考えられる（大塚 1951）。

奈良時代の寺院では、武儀郡の大杉廃寺跡（関市）で当該期に所属する軒丸瓦が出土している。大杉廃寺跡は、津保川の支流である蜂屋川南の台地上に立地し、加茂郡との郡境近くに位置する。昭和 31（1956）年の試掘調査では、一辺 7m 内外の基壇跡が確認された。周囲には大杉遺跡及び大杉西遺跡といった集落跡が確認されており、台地上を支配した豪族に関する寺院であると考えられている（伊藤 2018）。矢田廃寺跡からは軒丸瓦の他、鷦尾片や須恵器の盤などが出土している。木曽川の低段丘一段目の最奥に立地し、北は高位段丘の段丘崖に連なる。眺望の良い地であり、西方約 700m の場所に鴨（加茂）県主を祀る県主神社があることから、加茂県主一族の本拠地に造営された氏寺の可能性がある（美濃加茂市 1980）とされ、弥勒寺跡とともに律令以前の在地豪族に関する寺院の可能性がある。また、当時期には、泰澄開基の白山信仰に関する成立の伝承をもつ寺院が長瀧寺を中心とした郡上郡にみられ、武儀郡においても、長良川沿いや美濃権現山地の山麓などの白山に近い場所に洲原白山権現（美濃市）や天王山禅定寺が成立した。

平安時代の寺院では、可児郡の送木廃寺跡で10世紀代とされる単弁八弁の軒丸瓦片が確認されている¹⁰⁾。同形の瓦は同じ可児郡の願興寺跡や伏見廃寺跡、加茂郡の元薬師寺跡でも確認されており、平安時代以降は加茂・可児地域の寺院間に何らかの繋がりがあったことが窺える。この時期には、神仏習合と結びついた山岳信仰がさらに盛行する。奥美濃における白山修験の拠点であった長瀧寺が白山信仰下で栄えて密教と結びつき、以後天台宗の中心地として盛行し、平安時代中期には後一条天皇の勅願で天台別院として成立した。関市と郡上市にまたがる高賀山では、白山信仰の変形と考えられる高賀山信仰が見られる(岐阜県文化史調査研究会 1999)。高賀山は、長良川中流域西岸の山岳地帯の中で最も高い山であり、濃尾平野の各地からその頂上を見る能够である。現在確認できる遺品は平安時代のものが最古であり(岐阜県 1971)、高賀山を囲むように六社(蓮華峰寺(高賀神社)、滝の宮(滝神社)、藏王権現(金峰神社)、巖屋本宮(本宮神社)、巖谷新宮寺(新宮神社)、星宮粥川寺(星宮神社))が造営される。六社はいずれも伝承によって天暦年間(947~957)の成立であると伝わっているが、蓮華峯寺(関市)や粥川寺(郡上市)では、平安中期頃の作と考えられている仏像を有している。特に蓮華峯寺は、平安時代~鎌倉末期頃の仏像や懸仏等が多数みられるが、六社のうち唯一、神像を安置する。このことは、「この神社が高賀信仰の最古の中心的拠点であったことを意味するかもしれない」(岐阜県 1971)と考えられている。高賀山信仰は中世以降全盛期を迎える昭和の初め頃まで続いたという。

また、中濃圏域における古代寺院は圏域の南西部に集中し、それ以東では恵那郡大井駅近くまで古代寺院は見当たらず、空間的な断絶があることも特徴である。

3 中世寺院の様相

(1) 寺院の分布(図101)

中濃圏域において中世(鎌倉時代以降)に成立する寺院は、圏域南部の美濃加茂台地に多く見られ、東山道飛騨支路沿いでは武儀郡と加茂郡との郡境に近い場所に中世寺院が密集するエリアが見られるものの、圏域全体では古代からの街道を意識した立地はそれほど多くない。表64及び表65が示すとおり、室町時代以降次第に寺院数が増加し、その位置は平地よりも台地周縁部に当たる山麓や独立丘陵の裾部に位置する寺院が多い。また、中世に入ると、治水技術の向上や水運の発達により、河川沿いの集落や街道が増加する。中濃圏域においては、圏域北部の山地から盆地へ流れ込む河川を使った河川交通が発達し、寺院についても山間部の河川沿いの山際などに多く造営されていく。山腹・山頂に新たに成立する寺院は、数は少ないものの一定数みられる。

ここでは、郡ごとに河川や街道との位置関係も視野に入れながら、寺院の分布について概観する。
 [郡上郡] 当郡は、養老元(717)年に泰澄により開山された白山を神体とする白山信仰の美濃における中心地であり、長良川沿いの国道156号は白山への信仰道(郡上街道)として発達した。郡上街道に沿って集落が発達し、寺院も街道沿いやその山際等に多くみられる。古代から長瀧寺を中心に泰澄やその弟子が開いたという伝承(起源)を持つ寺院が多く分布するが、中世においては、長瀧寺は美濃番場として全盛期を迎え、長良川とその支流である吉田川の合流地点付近まで坊や末寺が造営された。また、郡上藩主東氏に関連する寺院も散見される。また、郡域南部及び武儀郡に展開する高賀山信仰は、13世紀中頃に至り虚空蔵菩薩信仰と結びつき(岐阜県 1969)、全盛を迎えた。

〔武儀郡〕山間部を流れる河川（長良川・板取川・津保川・武儀川）沿いや長良川及び武儀川が形成する台地の山際などに多くの寺院が造営される。板取川右岸の山麓に位置する長蔵寺（美濃市）は、土岐忠頼の援助を受けて成立した。蜂屋丘陵の裾部には、養老3（719）年泰澄開基の寺伝を持ち白山信仰に関わりのある神光寺（関市）や9代將軍足利義尚開基の龍泰寺（関市）が位置するが、両寺ともかつては背後の丘陵中に境内を構えていたと伝わる。郡域西部の山腹には、美濃守護代斎藤利永開基の汾陽寺がある。平地には、東山道沿いで加茂郡との郡境の西側に、後堀川天皇の勅願で鎮護國家の道場として造営された新長谷寺（関市）が位置し、その周囲にも中世成立の寺院が集中する。

〔加茂郡〕当郡では、古代に引き続き、台地周縁部の山麓や独立丘陵の裾部への寺院の造営が多くみられるが、中世以降には郡域南部の台地に流れ込む河川（木曽川・飛騨川・津保川）に沿って、台地周辺や山間部にみられる矮小地にも寺院が分布する。可児郡との郡境である木曽川沿いのエリアは、近世以降、黒瀬などの河港を中心に栄える地域であり、河川沿いの山麓に寺院が分布する。また、当郡は中濃圏域の中でも土岐氏に関連する寺院が多くみられる地域であり、美濃守護の土岐政房により土岐氏の祈願所として栄えた大仙寺（八百津町、臨済宗）や、後花園天皇の勅願寺となった善慧寺（八百津町、浄土宗）など、時の権力者の庇護を受けた寺院がある。津保川によって形成された加茂野台地の周辺には、土岐頼遠開基で夢窓疎石が創立した東香寺（富加町）があるほか、天猷玄晃やその弟子が開山した龍福寺（富加町）などの寺院が集中する。津保川の支流である川浦川沿いには、東山道飛騨支路が通る。この飛騨支路沿いには、古代から法灯が続く清水寺（富加町）があるほか、土岐頼貞開基の龍門寺（七宗町、当初岐阜市福光にあり康応元（1389）年神渕に移転）などがある。

〔可児郡〕当郡域北部の美濃加茂台地に東山道が通るが、中世段階で街道沿いに成立した寺院は少ないものの、街道沿いの山中には古代から法灯が続いたとされる極楽寺（御嵩町）や恵觀寺廃寺跡（御嵩町）、そして愚溪寺が位置する。また、分布の多くは室町時代に成立し、台地周縁部の山麓や、比較的集落域から離れていない山腹等に造営されることが多い。天文6（1573）年築城の美濃金山城跡の周辺には、元亀元（1570）年に森可成の菩提を弔うために時の城主である森長可が創建した可成寺（伝可成寺跡）や鬼門除けの神照寺（可児市）など、金山城に付属する施設として寺院が造営される。

（2）平坦面の配置（図102・103）

ここでは、山麓及び山腹・山頂に位置する寺院の堂跡や、門・通路・その他の平坦面などの配置と、それらが位置する地形などについて記載する。また、古代に成立した寺院についても、中世以降存続している可能性がある寺院については、本節で取り扱う。

①地形の詳細

山麓に位置する寺院は、堂跡背面に山地を背負うもの（薬王寺（可児市）、香昌寺（富加町）、恵利寺（関市）など）、堂跡背面に山地を背負い側面の2方向を尾根等で囲まれるものがある。このうち、丘陵裾に位置する薬王寺や香昌寺では、堂跡背後の丘陵頂へ至る通路を確認した。

山腹に位置する寺院には、谷状地形を形成する斜面に境内が展開するもの（日龍峯寺（図102-1））、深く解析した谷状の窪地内に位置するもの（愚溪寺旧境内（図102-3））、堂跡背後に山頂や尾根を背負うもの（中房寺跡（坂祝町、図102-4））がある。谷状の窪地に位置するものは、愚溪寺旧境内のように境内の前方が山麓に向かって開けているものと、汾陽寺旧境内（関市）のように堂跡側面の尾根同士が境内の正面で迫り、境内が山腹の閉じた空間に位置するものがある。愚溪寺旧境内

は谷地形の最奥に堂跡を配置するが、谷地形を形成する尾根上に塔頭等の施設を配置する。汾陽寺旧境内は、堂跡が谷地形の最奥にあり、現本堂はその下方にあたる南西約180mの位置にある。寺での聴き取りによると、現本堂の正面で確認できる方形区画の平坦面にはかつて塔頭があったという。堂跡両側面の尾根は、この塔頭跡の南西側で接近している。谷部への入口付近には、不正形な小平坦面の広がりを確認したため図化したが、地表面での観察の限りではかつての寺域に含まれるかは判断できない。また、谷部入口以南の平野部に向かう谷部は、現在水田が広がっている。これらの谷状の窪地内に位置する寺院では、主要堂宇の両側若しくは片側に沢が流れ込む場合が多い。

また、山腹から山麓にかけて境内が展開するものに、禅定寺（図102-2）がある。本堂を山腹の谷状地形の最奥（最高所）に配置し、山麓に向かって直線的に伸びる参道沿いに塔頭を配置する。

②堂跡とその周辺

堂跡がある、若しくは堂跡推定地の平坦面は、寺域の中で最も広い場合が多い。その場所は、平坦面群が展開する最奥の高所に位置する場合と、平坦面群の中心に位置し、その周囲に小規模な平坦面が展開する場合がある。堂跡において礎石を確認できる寺院は、中房寺である。東西に並ぶ2つの基壇があり、西側の基壇上に礎石列を確認できるが、建物規模は不明である。堂と塔の位置関係について、絵図や伝承等を含め推定することができるのは、日龍峯寺、恵利寺、大聖寺がある。日龍峯寺は、本堂正面へ至る参道沿いに各堂宇が配置されるが、この堂宇の並びのうち、北条政子が寄進したという多宝塔は最も本堂に近い場所に位置する。恵利寺は、本堂からみて左側の尾根斜面上に三重塔があったと推定され、後世の改変を受けているが、わずかに平坦面が残る。大聖寺は、武芸八幡宮の別当寺であり、神社境内に寺域を有する。山麓の谷地形の最奥に八幡宮の本殿及び拝殿を配置し、拝殿からみて右側の山麓斜面上に三重塔を、本殿左側に鐘楼がある。大聖寺の本堂やその他の堂跡は、直線的な参道に沿って横並びに展開している。また、愚溪寺旧境内は、美濃守護代の斎藤利永の裏証判がある寄進した土地を明らかにする絵図（文安6（1449）年）が愚溪寺に伝えられている（御嵩町1992）。絵図の方丈跡の位置に当る場所にはすでに「愚溪庵」と記載されている。これより、まず谷部に位置する方丈等の境内の中心域が造られ、次に谷状地形を形成する尾根上に塔頭を造営し寺域が拡大されたことがわかる。

なお、日龍峯寺では、本堂背後の岩窟内で湧水点を確認できる。中濃圏域において地形観察図を作成した寺院のうち、湧水点を確認できたのは日龍峯寺のみであった。

③門・通路・平坦面

禅定寺、長瀧寺、元大興寺跡、大聖寺では、門から通路が直線的に延びて堂跡に至り、通路に直行する方向に長軸をもつ方形区画の平坦面が展開する。一方、日龍峯寺は、山腹谷地形の最奥に掛崖造の本堂を配置し、本堂から見て右手の斜面に等高線に沿った通路を通し、その通路上に各堂宇を配置している。

門跡の礎石が遺存する寺院には、愚溪寺旧境内がある。方丈跡の真正面に至るのは高石垣中央に設けられた石段であるが、その東側にスロープ状の出入口が設けられ、L字に屈曲して方丈に至る場所に礎石が残る。ここには長屋門があつたとされている。山麓から方丈跡に至る通路沿いには、明瞭な平坦面がない。一方、方丈跡を囲むように伸びる尾根上に設けられた平坦面は、それぞれ様相が異なる。方丈跡の北西側に伸びる尾根上には、階段状に平坦面が連続し、平坦面間を移動するには各平坦

面を横断しなければならない。それに対して方丈跡の南東側に伸びる尾根上には、通路に対して平行する方向に長軸を持つ方形区画の平坦面が横に並ぶ。

④堂跡と墓域

地形観察図を作成した寺院について、中世に遡る可能性がある墓域¹¹⁾を確認することができた寺院はなかった。香昌寺や元大興寺跡（関市）、鹿苑寺旧境内（美濃市）では、石塔や近世墓碑等が散在する平坦面を確認した。香昌寺や元大興寺跡では、堂跡の背後に位置する。一方、鹿苑寺旧境内では、谷状地形の最奥に位置する本堂跡に対し、尾根を挟んだ反対側に無銘の碑が並ぶ墓域の可能性がある平坦面がある。中濃圏域において中世墓の所在が把握されている遺跡に、美濃市横越地区の丘陵に位置する長福寺跡や東觀音寺遺跡及び西觀音寺遺跡がある。長福寺の境内は尾根上に位置していたとされるのに対し、5基の中世墳墓群及び多量の蔵骨器や五輪塔が出土したのは、尾根の背後に当たる谷部の最奥である。また、觀音寺跡とされる東觀音寺遺跡は尾根上に位置するのに対し、中世墳墓群である西觀音寺遺跡は、東觀音寺遺跡が所在する尾根の谷筋を挟んだ西側の丘陵裾部に位置する（美濃市教育委員会 2012）。長福寺、觀音寺ともに、墓域は境内域に近接しない位置に設けている。

また、日龍峯寺の本堂背後の岩窟には湧水点を確認できるだけでなく、県指定重要文化財の宝篋印塔のほか複数の石塔の部材が祀られている。中世段階にはこの岩窟が墳墓窟として利用されていた可能性もある¹²⁾。

（3）宗派

中濃圏域における中世寺院の成立当初の宗派は、臨済宗が圧倒的に多く、次いで淨土真宗、天台宗の順に多く確認できる。曹洞宗や淨土宗も一定数確認でき、少数だが日蓮宗や法相宗もみられる。また、岐阜県内でも数が少ない律宗の寺院や時宗も確認できる。

淨土真宗は、13世紀中ごろに木曽川中流域（岐南町や羽島市）に展開した河野九門徒を中心に美濃国へ布教が開始されるが、本願寺8世蓮如の布教により急速に発展する。表64をみると、15世紀後半における転宗が最も多く確認できるが、そのすべてが淨土真宗への転宗（ほとんどが天台宗からの転宗）であり、中濃圏域における蓮如の影響も非常に大きかったことがわかる。圏域北部の郡上郡においては、親鸞の弟子である嘉念坊善俊が嘉禎年間（1235～38）に郡上に入り布教を試みたが、当時は天台宗の長瀧寺の勢力が絶大であったため志を果たせず、白川郷に移ったという（郡上史談会 1986）。しかし、篠脇城主である東胤行が親鸞に帰依していたことや、蓮如の布教を受けて長瀧寺関係の寺院が真宗に転宗する場合が多く、郡上郡における淨土真宗の寺院数は、圏域内で最も多い。

禅宗は、臨済宗に帰依した美濃守護初代土岐頼貞により、鎌倉時代後期以降、徐々に影響がみられるようになる。土岐氏の拠点地である東濃圏域を中心に、頼貞、頼遠、頼康の三代で美濃国各地に臨済宗仏光（五山）派寺院が創建されるが、中濃圏域においては頼貞開基の龍門寺や、頼遠創建の驥山寺（美濃市）、東香寺がある。土岐氏衰退以降は、妙心寺派に帰依した守護代の斎藤利永が、愚溪寺や汾陽寺を創建し、妙心寺派が広がりをみせる（岐阜県 2002）。一方、曹洞宗は、臨済宗に比べて半世紀ほど遅れて美濃国に入り、室町時代中期以降近世にかけて広がりをみせるが、数は少ない。初期の曹洞宗寺院である龍泰寺は、応永 14（1407）年の成立で、美濃における曹洞宗展開の拠点であり（関市教育委員会 1996）、圏域北西部の関市及び美濃市に中世成立の曹洞宗が多くみられる。

その他の宗派として、浄土宗の寺院は当圏域で 10 か寺確認でき、鎌倉時代に成立したとされる淨性寺（関市）や善慧寺（八百津町）がある。善慧寺は、貞応 2（1223）年成立し、享徳年間（1452～54）には七堂伽藍や 80 もの塔頭が揃った大寺院であり、文明 4（1472）年には後土御門天皇の勅願寺であった。時宗は、鎌倉時代後期に一遍上人の弟子真教が閔の与阿弥陀仏に宛てた消息があり、当時関市にはすでに時宗が布教し、時宗寺院が成立していたとされる。さらに、永正 12（1515）年には、遊行派本山の清淨寺が 22 世意楽のとき、関二ツ岩（関市小瀬、詳細な位置不明）に 3 年間移された。律宗については、明徳 2（1391）年に書き改められた「西大寺諸国末寺帳」の美濃国の箇所に 4 か寺の寺院名がみえる（松尾剛次 1995）。このうち小松寺は関市の大慈山小松寺か、美濃加茂市の広橋山小松寺ではないかといわれているが、詳細は不明である。大慈山小松寺は、治承 2（1178）年に、国家安泰の祈願所として平重盛が開基し成立したという伝承がある。広橋山小松寺の成立時期は不明だが、正長元（1428）年銘がある宝篋印塔が寺跡に残る。

中世以降、白山の登山口に位置した長瀧寺は中宮として全盛期を迎えた。長瀧寺を中心に、下山七社（中宮・佐羅宮・別宮・本宮・金剣・岩本・三宮）という信仰拠点を形成して組織化され、信仰圏の拡大に伴い、次第に長良川を下って移動した（岐阜県 2001）。神光寺は、平安時代後期の観音像や泰澄大師像、室町期の白山曼荼羅を有する寺院であり、三宮は白鳥町為真の白山神社から神光寺に移ったとされる。また、岩本宮は、白鳥町中津屋の白山神社から、鎌倉末期～南北朝時代には洲原白山権現に移り、さらに岐阜市大洞の願成寺、続いて伊吹山に移った。美濃や尾張方面からの白山参詣者は、先ず洲原白山権現に参詣したといい（白鳥町 1976）、洲原白山権現は「白山前宮」とされ（美濃市 1979）、美濃禅定道の入口にあたる前宮であった。中世成立の天台宗寺院は 14～15 世紀頃に郡上郡において多く見られるが、その多くが長瀧寺の配下であったり、長瀧寺で得度を得た者が造営した寺院である。しかし、そのほとんどが 15 世紀後半から 16 世紀前半にかけて浄土真宗に転宗している。

注

- 1) 「角川日本地名大辞典」編纂委員会編 1980『角川日本地名辞典 21 岐阜県』、角川書店
- 2) 『改正美濃国明細全図』では、関市千疋・植野・戸田・側島は山県郡、郡上市石徹白は福井県大野郡に属す。表 63 では、該当地域の寺院数を「山県郡」「福井県大野郡」としてカウントした。
- 3) 基礎資料調査や現地調査により把握した寺院の沿革を基に、寺院の成立時期を整理した。現在の所在地へ移転している場合は、移転後の所在地の旧郡に含めた。なお、2つの時代に跨る場合（慶長年間等）には、古い方に帰属させた。
- 4) 「行基が創建」と記載のある場合は 8 世紀前半、「蓮如の時代に創建・転宗」と記載のある場合は 15 世紀後半に位置付けた。
- 5) 特に早いものでは、関市日龍峯寺で、同寺縁起（延宝 5（1677）年）によると仁徳天皇の時代（4 世紀以前）の両面宿儺に起源を持つと記載されるが、縁起の奥書には、同寺の別當から伝え聞いたことに潤色を加えた縁起であるとの記述がある（尾関 2009）。また、日龍峯寺は高沢山山頂付近に位置することから高沢観音とも呼ばれる。武儀町教育委員会 1992 によると、「金山鎮守観音縁起」（時期不明）に「仁徳天皇の御代に、飛騨国大野郡八賀の郷日面村出波の平の巖窟より、両面四手の奇人出現、飛行して、この山に杖を止め、大悲の陀羅尼を誦し、国家安全五穀成就の祭祀ありて後、下之保高沢山へ飛来せり…」と書かれているという。

尾関章 2009『両面の鬼神 飛騨の宿儺伝承の謎』、勉誠出版

武儀町教育委員会 1992『武儀町史』

- 6) 移転の記録は、自治体史等に記載の沿革から移転したことが確認できるものをカウントした。複数回移転している場合は、最初の移転のみカウントした。廃絶の記録は、兵火により焼失したことを確認できるものを「廃絶（火）」としてカウントした。なお、廃絶後に再建されたものも含む。「廃絶（他）」は、廃絶後に再興しない寺院をカウントした。
- 7) 旧東山道等については既存の資料（島方洸一 2012）を参考にした。また、地理情報システム QGIS3.10.14 を用いて、地理院タイルの背景地図上に米国スタンフォード大学が公開している戦前の五万分の一地形図をジオリファレンサーで読み込み、測図時点の郡界をトレースしている。
- 8) 中濃圏域における東山道上の駅は、どれも郡名を冠するものばかりであることから所在地の特定が困難であり、位置不明である。また、飛驒路上の菅田駅は、下呂市金山町菅田を遺称地とするが、加茂・武儀両駅のいずれかに駅名を変えたとする説と別地とする説がある。さらに、東山道の各務駅から加茂郡に至るルートについて、島方 2012 では一度尾張国へ入るルートとして推定されているが、大塚 1951 は、大田区に古代寺院が集中することや可児・加茂地区の古代瓦と関係性のある瓦が尾張国から見つかっていないことから、各務駅から木曽川右岸を北上して加茂郡に至るルートを想定している。
- 9) 美濃国内では川原寺式軒丸瓦が確認されている寺院跡が多い。八賀 1972 は、川原寺式の瓦の分布とその製作技法の共通点から、「中央と密接に結びついた新興勢力が、乱の功績による論功を一つの契機とし、寺院建立という大事業を果たすのではなかろうか。」と指摘した。以後、閔市弥勒寺跡は功臣身毛君広とその一族に対する壬申の乱の論功行賞として、川原寺系の技術集団が直接派遣されたと考えられてきたが、三舟 2020 は、「川原寺自体は天智天皇の建立によるもので近江大津宮付近の南滋賀廢寺などにも分布するところから、壬申の乱との関係のみを重要視する訳にはいかない」と指摘する。また林 2021 も、「全国における川原寺式軒瓦の状況を見る限り、文様も各地で変容していたり、技術的にも必ずしも同一とはいえないものが多く、論功勲章だけでは説明できなくなっているのが現状である」とする。
- 10) 送木廢寺と元万尺寺跡から出土した軒丸瓦については、願興寺跡瓦の混入である可能性が指摘されている。（大塚 1951）
- 11) ここでは、主に集石を伴う中世石塔を確認した範囲を墓域として取り扱う。
- 12) 宿禰伝承を伝える日龍峯寺「縁起」（延暦5（1677）年）（尾関 2009 による現代語訳）によると、「異人は高澤の幽穴に居られたが、仁徳天皇の御聞に達し、この両面四手の異人に勅して、山を開き、日龍の精舎を創建させた。（中略）それより数百年を経て、天平年中に伽藍ことごとく荒廃したが、異人の尊影はわずかに残った。行基菩薩が尊像を礼拝し、これは眞の菩薩であると崇拝し、伽藍を建立して先の岩穴に本堂七間四面を掛作り、大峰に白山権現を勧請した。（中略）」と記されており、伝承では、本堂裏の岩窟は日龍峯寺の起源に遡るものとしている。なお、日龍峯寺の地形観察図作成後に、本堂南西側の幅の広い通路状の平坦面に面する岩壁にも小規模な窟状の掘り込みを確認した。内部に五輪塔の空風輪1点があった。

【引用文献】

- 伊藤聰 2018 「大杉遺跡・大杉西遺跡（閔市）」（平成30年岐阜県発掘調査報告会資料）
- 大塚章 1951 「可児・加茂地区の古代寺院-同範・同系軒丸瓦の展開を中心として-」『岐阜史学』第91号、岐阜史学会
- 岐阜県 1972 『岐阜県史』通史編原始
- 岐阜県 2003 『わかりやすい岐阜県史』
- 岐阜県企画部地域振興課 1993 『土地分類基本調査「美濃」』
- 岐阜県博物館 1995 『美濃・飛驒の古代史発掘』、岐阜県博物館友の会
- 岐阜県文化史調査研究会編 1999 『飛驒美濃合併120周年記念事業 ひだみの文化の系譜』、岐阜県
- 郡上史談会 1986 『図説郡上の歴史』（岐阜県の歴史シリーズ(5)）、株式会社郷土出版社

- 島方洸一 2012 『地図でみる東日本の古代 律令制下の陸海交通・条里・史跡』、株式会社平凡社
- 白鳥町教育委員会 1976 『白鳥町史』通史編上巻
- 閔市教育委員会 1996 『新修閔市史』通史編 自然・原始・古代・中世、閔市
- 八賀晋 1973 「地方寺院の成立と歴史的背景」『考古学研究』第20巻第1号、考古学研究会
- 林正憲 2021 「美濃地域における古墳から寺院への変遷過程」『昼飯の丘に集う-中井正幸さん還暦記念論集-』、「中井正幸さんの還暦をお祝いする会」事務局
- 松尾剛次 1995 『勧請と破戒の中世史-中世仏教の実相-』、吉川弘文館
- 美濃加茂市 1980 『美濃加茂市史』通史編
- 美濃市 1979 『美濃市史』通史編上巻
- 美濃市教育委員会 2012 『美濃観音寺山古墳・長福寺遺跡・西観音寺遺跡・東観音寺遺跡』(美濃市文化財調査報告書34号)
- 御嵩町史編さん委員会 1992 『御嵩町史』通史編上巻、御嵩町
- 三舟隆之 2020 「第五章 尾張・美濃の国造と古代寺院」『古代氏族と地方寺院』、(株)同成社

表63 寺院の成立状況

時代	群名	郡上郡	大福野郡	武儀郡	山県郡	加茂郡	可児郡	小計
飛鳥		0	0	3	0	3	2	8
奈良		14	3	7	0	4	0	28
平安		9	0	12	0	9	6	36
古代(細分不能)		0	0	4	1	1	1	7
古代寺院小計		23	3	26	1	17	9	79
鎌倉		13	0	12	1	5	4	35
室町		37	0	41	0	43	20	141
安土桃山		6	0	35	2	17	9	69
中世(細分不能)		25	0	20	0	26	10	81
中世寺院小計		81	0	108	3	91	43	326
古代・中世寺院合計		104	3	134	4	108	52	405
参考寺院等								
近世(江戸)		8	0	70	1	40	29	148
時期不明		22	0	42	1	50	37	152
近代以降等		9	1	15	0	7	3	35
近世以降等寺院小計		39	1	127	2	97	69	335
対象寺院合計		143	4	261	6	205	121	740

(注) 時代・時期は次のとおりとした。飛鳥(592年～)、奈良(710年～)、平安(794年～)、鎌倉(1185年～)、室町(1333年～)、安土桃山(1573年～)、江戸(1603年～)。なお、飛鳥時代から平安時代を古代、鎌倉時代から安土桃山時代を中世とし、明治時代以降は寺院以外のものを含めて近代以降等とした。

表64 時期別の成立数等

西暦 内容	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700
成立	6	27	3	7	1	5	8	1	2	2	7
転宗				1			2	1		1	
移転							1	1	3	1	
廃絶(火)								1	8	6	
廃絶(他)									3	3	11
									2	1	2

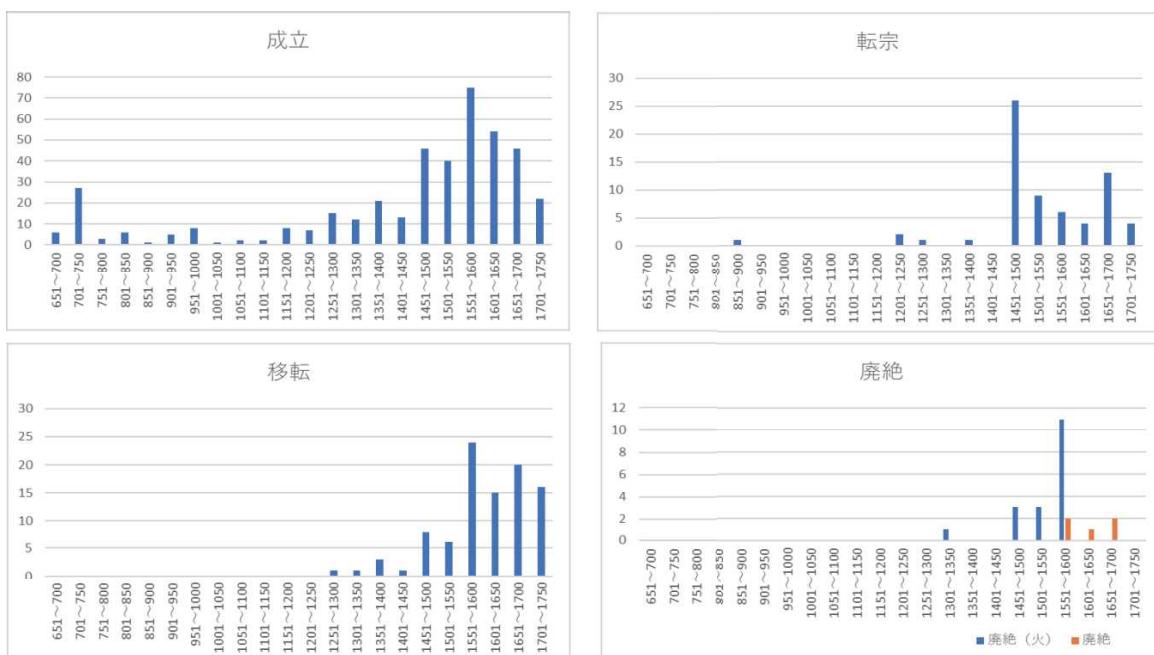


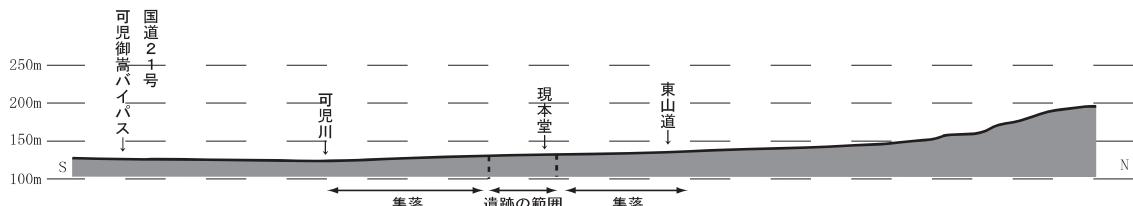
表65 時期別の立地数

西暦内容	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700	合計							
平地	5	5	1	2	1	2	1	2	4	4	14	10	24	19	20	13	129		
山麓		9		1	1		1	2	4	5	6	5	15	12	39	33	30	20	183
山腹	1	5	1	2	1	4			1	2	4	1		1	6	2	7	4	42
その他										1	1		1	1	1	1		4	

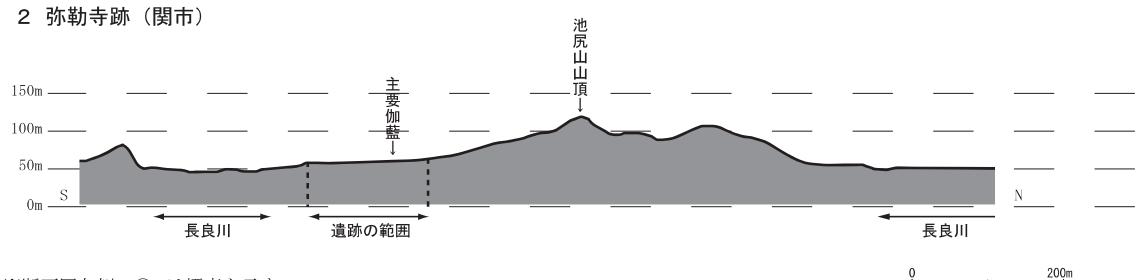
※山麓から山腹にかけて存在する寺院は山腹に含めた。

平地の寺院

1 願興寺（御嵩町）

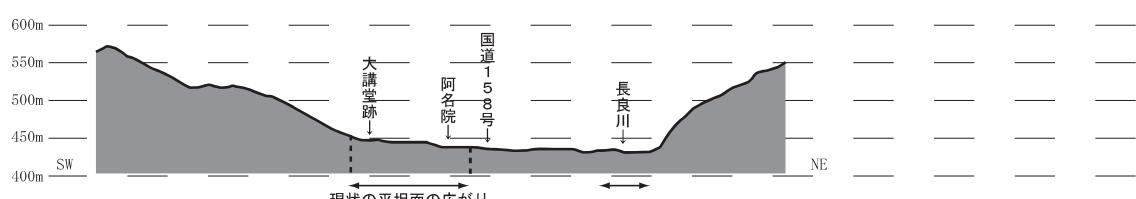


2 弥勒寺跡（関市）

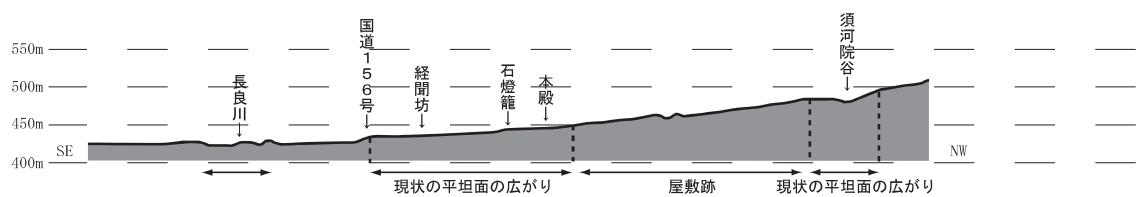


山麓の寺院

3-1 長瀧寺（郡上市）…南西～北東



3-2 長瀧寺（郡上市）…南東～北西



※断面図左側の○mは標高を示す

0 200m

図96 中濃圏域 地形断面図（1）

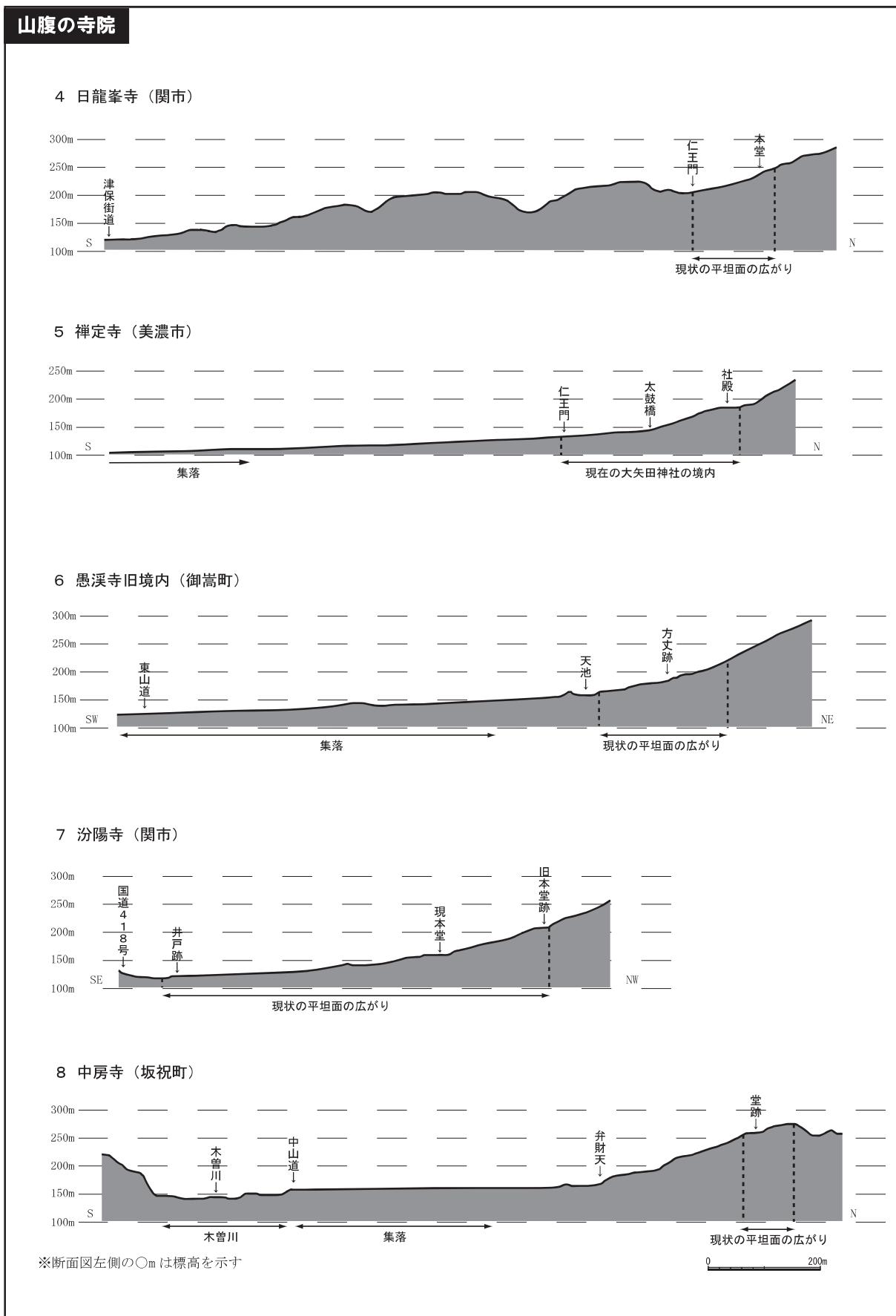


図 97 中濃圏域 地形断面図（2）

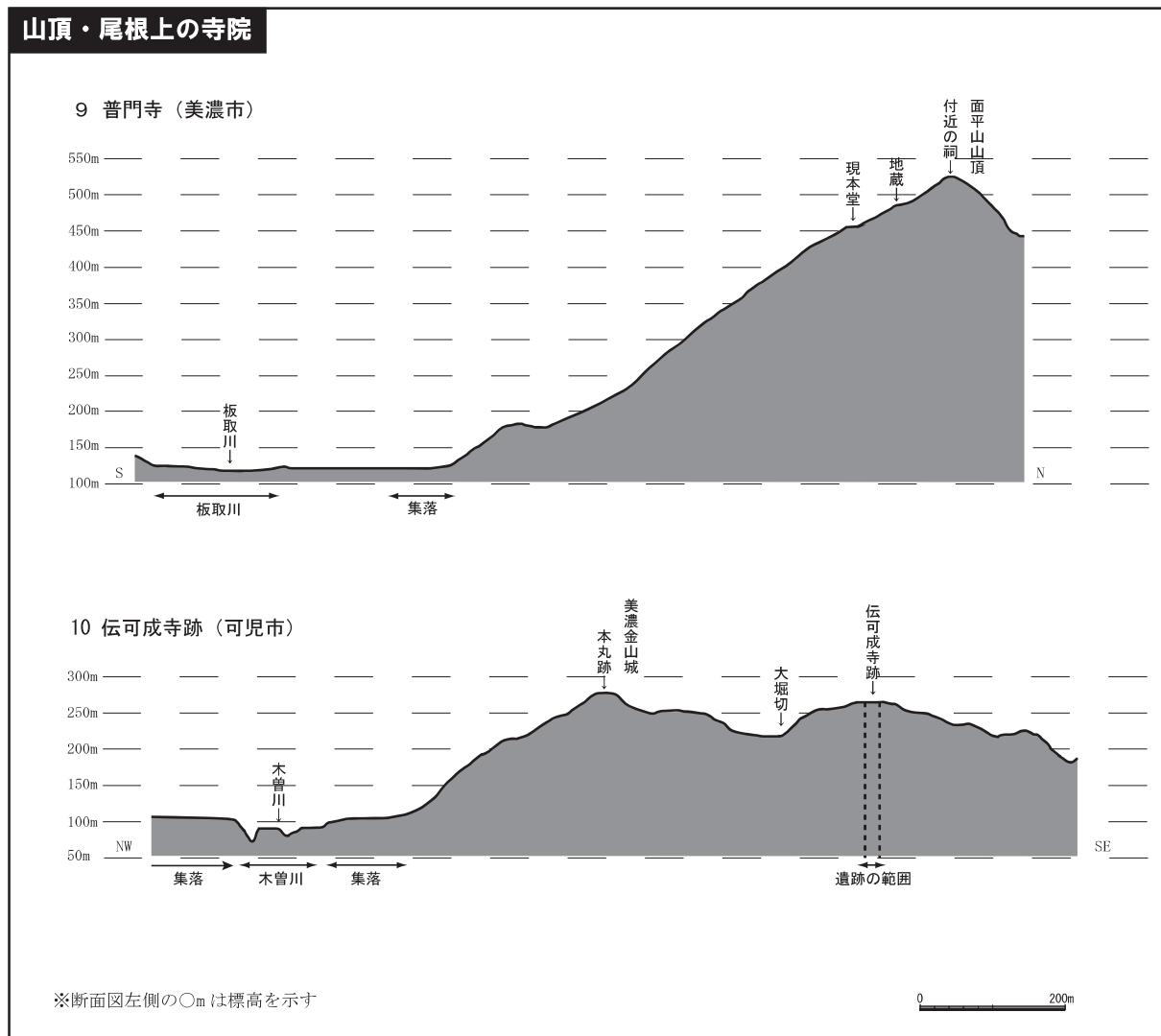


図98 中濃圏域 地形断面図（3）

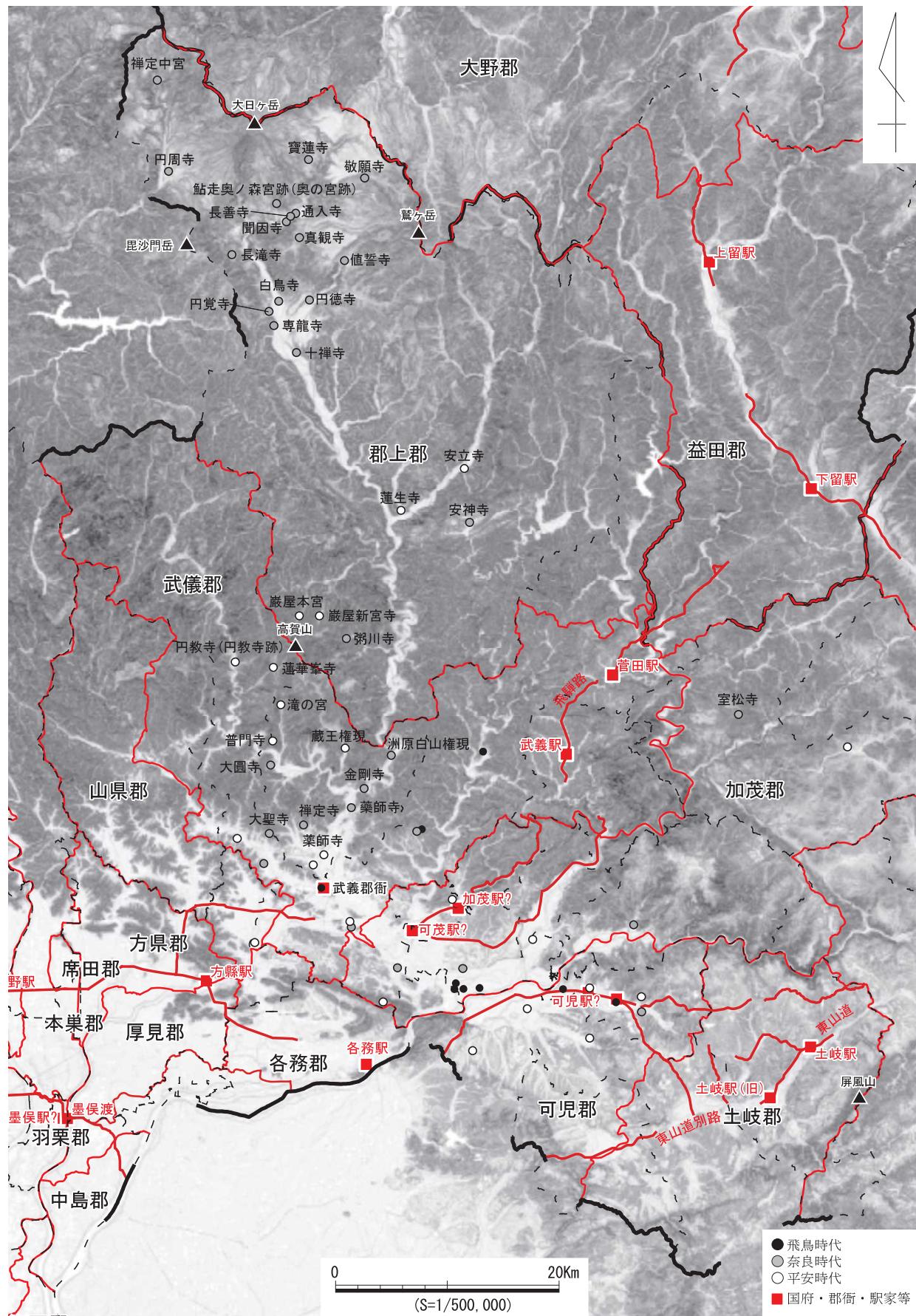


図99 中濃圏域の主な古代寺院分布図

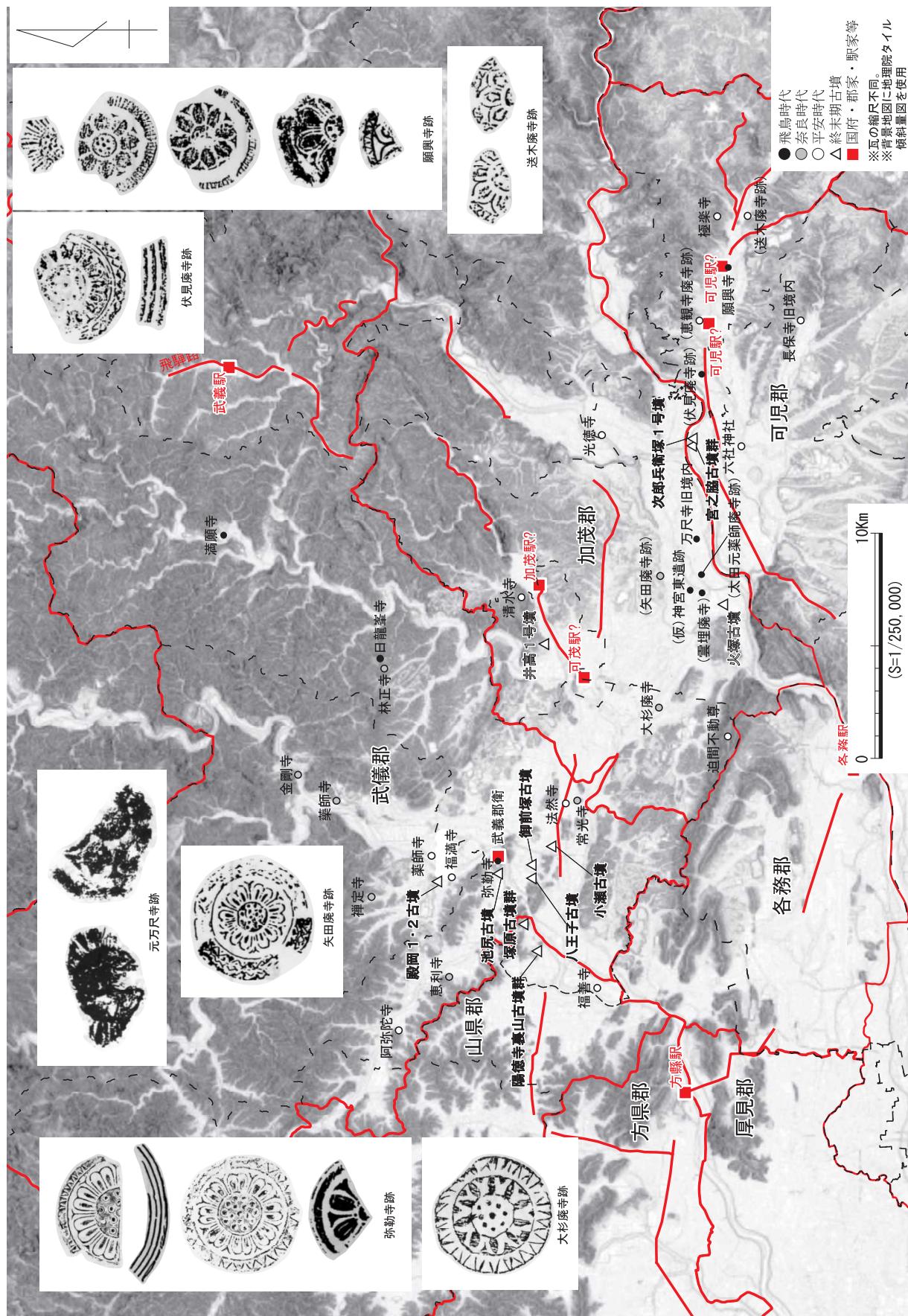


図100 美濃加茂台地周辺の主な古代寺院

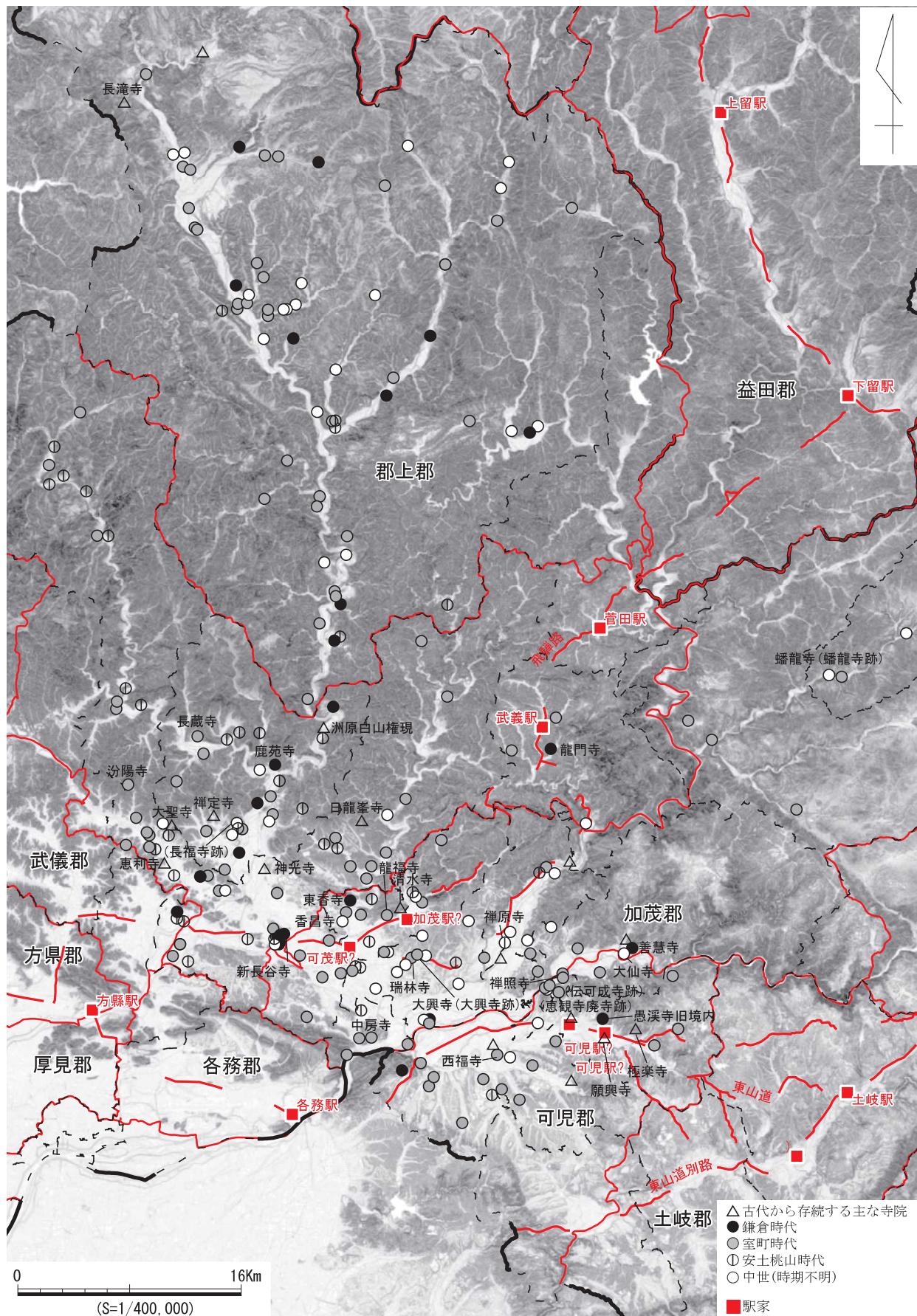


図101 中濃圏域の主な中世寺院分布図

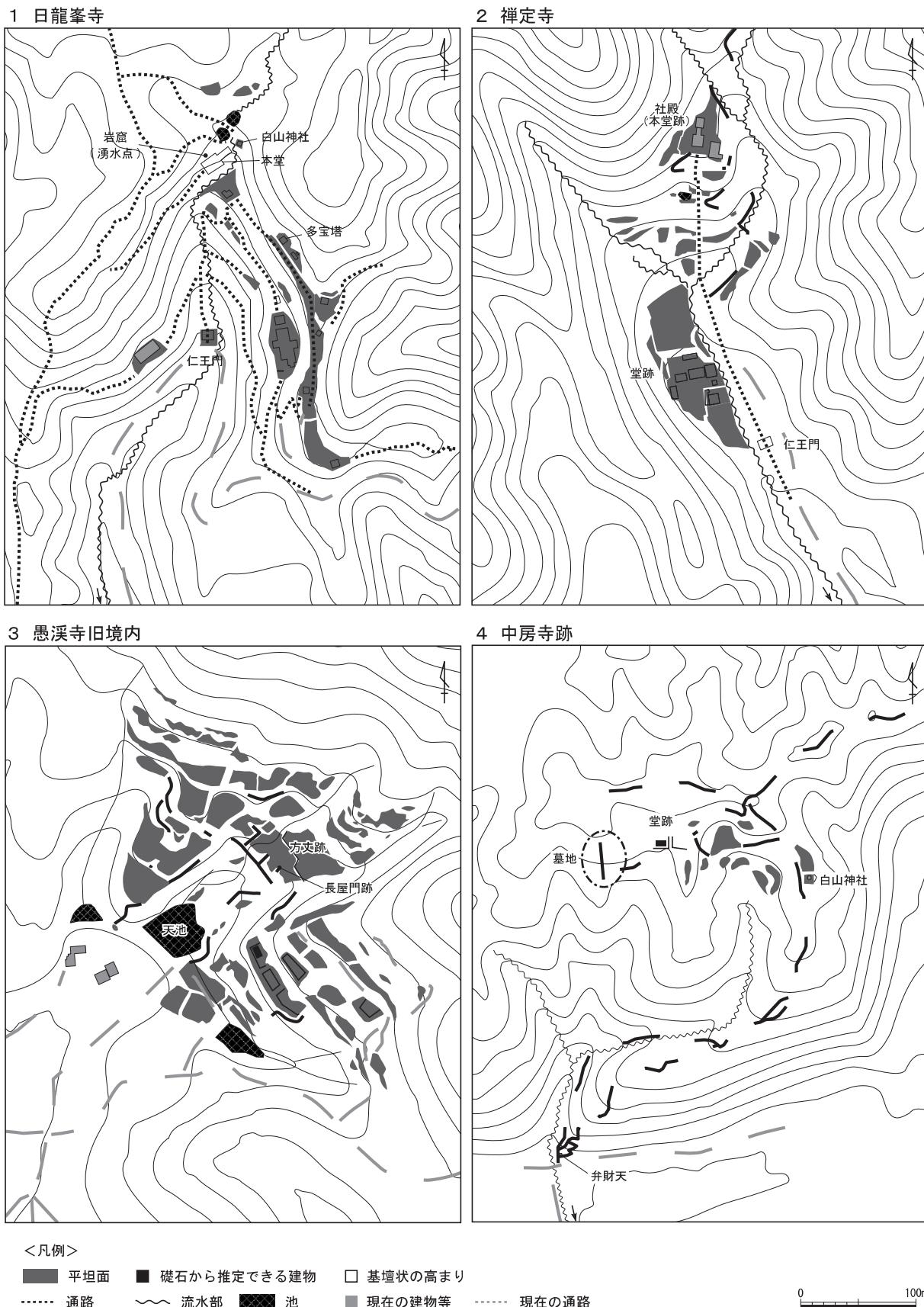


図 102 中濃圏域 地形観察図模式図（1）

5 長瀧寺跡



図 103 中濃圏域 地形観察図模式図（2）

岐阜県文化財保護センター調査報告書 第162集
岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書
(第3分冊)

2023年3月17日

編集・発行 岐阜県文化財保護センター
岐阜市三田洞東1-26-1

印 刷 株式会社もとすいんさつ